

2017

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部
助産学専攻科



平成29年度授業科目・担当者一覧表

看護学部 看護学科

I 基礎分野

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
生きた人間学	加畑公一郎	17
統計学入門	宮阪 信次	18
論理の世界	原田 淳平	19
心理学への招待	岩城 晶子	20
情報心理学	増尾 慶裕	21
ヒトと生物学	堀家なな緒	22
環境と生態	乾 智洋	23
化学	山口 三郎	24
人間関係概論	岩城 晶子	25
情報化と社会	宮阪 信次	26
メディア社会学	北垣 博美	27
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	28
生活の中の法律	岡田 康志	29
文芸論	河内 厚郎	30
文章表現法 I	加畑／北垣	31
ファッションアートサーヴェイ	横越谷勝雄	32
マスコミと報道	加畑公一郎	33
西洋美術の源流	森口まどか	34
伝統芸術表現研究 I (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	35
伝統芸術表現研究 II (生け花の理論と表現)	小林 秀加	36
伝統芸術表現研究 III (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	37
英語 I (Reading 1)	毛利 郁子	38
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田美智子	39
フランス語 I	渋谷 直樹	40
中国語会話 I	潘 建秀	41
ビジネス中国語	潘 建秀	42
イタリア語 I	中川 光	43
ドイツ語 I	溝邊 敬一	44
教育学概論	伊佐 夏実	45
発達心理学	小川 詩乃	46
ジェンダー論	木村 千尋	47
民俗学	鈴木 洋昭	48
医療ジャーナリズム論	朝野 富三	49
英語 II (Writing 1)	毛利 郁子	50
英語 II (Writing 1)	池田美智子	51
英語 II (Writing 1)	永田 節子	52
英会話 II (Listening & Speaking 2)	永田 節子	53
英語 III (Reading 2)	永田 節子	54
英語 IV (Writing 2)	池田美智子	55
フランス語 II	渋谷 直樹	56

中国語会話 II	潘 山海	57
イタリア語 II	小松 寛明	58
ドイツ語 II	溝邊 敬一	59
文章表現法 II	加畑公一郎	60

II 専門基礎分野

医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	61
医療行動科学	日高 庸晴	62
栄養と健康	坂元 美子	63
人体構造機能論 I (人体の構造と機能)	巽 圭太	64
人体構造機能論 II (人体の機能と生理)	山口 三郎	65
病態治療学 I (総論と主な疾患)	高原 史郎	66
生化学	堀家なな緒	67
感染と免疫	入江 章子	68
情報処理 I (入門編)	林 勇気	69
情報処理 II (応用編)	吉田 浩	70
癒しと芸術	中村 貞夫	71
病態治療学 II (内科系)	巽 圭太	72
病態治療学 III (外科系)	高原 史郎	73
薬理学	内海 美保	74
疫学	日高 庸晴	75
福祉情報技術	宮阪 信次	76
カウンセリング	増田 千景	77
社会保障と福祉	長谷川章子	78
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	79
医療と経済	川島 隆志	80
生涯教育論	伊佐 夏実	81
運動と健康	今村ふみ子	82

III 専門分野

基礎看護学 I (概論)	峯岸由紀子	83
基礎看護学 II (コミュニケーション技術)	澤田 京子	84
基礎看護学 III (健康教育)	藤田 俱子	85
基礎看護学 IV-1 (基礎看護技術)	峯岸／澤田／假谷／平野	86
基礎看護学 IV-2 (基礎看護技術)	峯岸／澤田／假谷／平野	87
基礎看護学 V (フィジカルアセスメント)	峯岸／假谷／平野	88
基礎看護学 VI (看護過程)	峯岸由紀子	89
成人看護学 I (概論)	瀬川 睦子	90
成人看護学 II (急性期・回復期援助論)	佐藤／大串	91
成人看護学 III (慢性期・終末期援助論)	山口 利子	92
成人看護学 IV (援助方法論)	瀬川／山口／佐藤／大串	93
老年看護学 I (概論)	原田 俊子	94
老年看護学 II (疾病と障害)	原田 俊子	95
老年看護学 III (理論とアセスメント)	原田 俊子	96

老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	原田 俊子	97
小児看護学Ⅰ（概論と保健）	合田 友美	98
小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	合田 友美	99
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	合田／西田	100
小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	合田／西田	101
母性看護学Ⅰ（概論）	溝口 全子	102
母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	上山 直美	103
母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	上山 直美	104
母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	上山 直美	105
精神看護学Ⅰ（精神保健）	八田 勘司	106
精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	八田 勘司	107
精神看護学Ⅲ（施設における援助）	高橋 篤信	108
精神看護学Ⅳ（地域における援助）	美王 真紀	109
在宅看護論Ⅰ（概論）	藤田 俱子	110
在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	上田 裕子	111
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	上田 裕子	112
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	藤田 俱子	113
看護と芸術Ⅰ－①（絵画療法）	木村 千尋	114
看護と芸術Ⅰ－②（音楽療法）	武田倫衣子	115
看護と芸術Ⅰ－③（笑い療法）	八田 勘司	116
看護と芸術Ⅰ－④（セラピーメイク）	中井美賀子	117
看護と芸術Ⅰ－⑤（陶芸療法）	上田 順平	118
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	植松／木村／炭釜／森	119
看護教育学	瀬川／澤田	120
看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	澤田／片山／米須／荒瀧	121
看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	嶋田／澤田	122
地域リハビリテーション論	三好 弘之	123
移植コーディネーション論	高原 史郎	124
看護研究の方法	日高／藤田／上山／合田／美王	125
看護の探究（看護の統合）	看護系教員	126
海外看護活動論	吉井 紀子	127

Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	峯岸／澤田／假谷／平野	129
基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	峯岸／澤田／假谷／平野	130
成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	瀬川／山口／佐藤／大串	131
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	瀬川／山口／佐藤／大串	132
老年看護学実習	原田 俊子	133
小児看護学実習	合田／西田	134
母性看護学実習	上山／堀	135
精神看護学実習	八田／美王／高橋	136
在宅看護論実習	藤田／上田	137
総合実習	看護系教員	138

助産学専攻科

Ⅰ 基礎助産学

<科目名>	<担当者名>	<ページ>
助産学概論	小神野雅子	151
周産期の生理と病態Ⅰ	藤田圭以子	152
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	153
母子の心理社会学	生島 博之	154

Ⅱ 助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	155
助産診断・技術学Ⅱ	松田 佳子	156
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子	157
助産診断・技術学Ⅳ	松田 佳子	158
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野／松田／中尾	159
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野／松田／中尾	160

Ⅲ 地域母子保健論

地域母子保健論	徳永 羊子	161
---------	-------	-----

Ⅳ 助産管理

助産管理学	小神野雅子	163
-------	-------	-----

Ⅴ 助産学実習

助産学実習Ⅰ	小神野／松田／中尾	165
助産学実習Ⅱ	小神野／松田／中尾	166
助産学実習Ⅲ	小神野／松田／中尾	167
地域母子保健実習	小神野／松田／中尾	168

Ⅵ 助産学実践関連

助産学研究	松田 佳子	169
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	170
アートとグリーフケア	坂下 裕子	171
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	172
アタッチメント・ベビーマッサージ	松田 佳子	173

看護学部

看護学科

2017年度（平成29年度） 授業計画（SYLLABUS）

目 次

看護学部

平成29年度授業科目・担当者一覧表	1
卒業要件	10
教育課程（2012年度以降入学生）	11
教育課程（2011年度入学生）	13
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例.....	15
Ⅰ 基礎分野	17
Ⅱ 専門基礎分野	61
Ⅲ 専門分野	83
Ⅳ 専門分野（臨地実習科目）.....	129

看護学部教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

アドミッションポリシー

1. 人間の生命と健康に関心を持ち、社会に貢献したいという意欲のある人
2. 豊かな感性と誠実な心で、人と接することのできる人
3. 科学的思考を身につけ、看護専門職として、心と体のトータルケアを学ぶ意欲のある人
4. 幅広く学問を学ぼうとする、向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

教育研究上の目的である「看護・保健の職務の実践に必要な知識、技術及び能力と幅広い教養を修得し、看護・保健・医療の向上に寄与する人材を育成すること」を達成するために、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に区分し、それぞれの教育が有機的に連携し、体系的に学習できるように編成する。

- (1) 「基礎分野」は、将来看護職として活躍していく上で、その基盤となる人間や社会、文化に対する知識と技能を修得し、人間形成の根幹となる主体的な自己を確立し、豊かな人間性の涵養とさまざまな看護の場面に適応できる幅広い思考力・判断能力の基礎を培い多様な視点を得ることを目的とする科目群を設定する。特に芸術に関する科目を多く

取り入れる。また、看護と言葉では、国際理解をするために、外国語によるコミュニケーション能力を養う科目を設定する。

- (2) 「専門基礎分野」は、専門分野を学ぶための基礎と位置づけし、看護をダイナミックに、かつ多面的に捉える基礎的な能力を育成するために、人間の健康と環境と関係を理解する科目群を設定する。特に、生命の尊重や生命倫理について考える科目や、人体を系統立てて理解し、健康・疾病に関する理解に基づいた観察力、判断能力を培うとともに、情報や人々の社会資源活用に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識、地域における関係機関などとの調整能力を発揮するための基礎となる科目群を設定する。また、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を設定する。
- (3) 「専門分野」は、＜看護の基盤となる領域＞＜看護を発展させる領域＞＜看護を応用する領域＞＜看護の技を習得する領域＞とし、看護の対象となる人々を理解し、必要な看護を科学的根拠に基づいて創造し、実践するための科目群を設定する。また、「看護を応用する領域」では、将来看護の指導者や管理者、リーダーとして活躍するための基礎を培う科目を設定する。また、芸術の持つ癒しやアートを看護に応用する科目や、癒しや創造性を養う科目を設定する。

ディプロマポリシー

1. 幅広い教養を身につけ、豊かな人間性と倫理観を備え、十分なコミュニケーション能力を有していると認められること。
2. 看護師としての十分な専門的知識や技術・技能を有すると認められること。
3. 医療現場において常に自己研鑽に努める姿勢とともに、地域住民の健康生活を支援する能力・意欲を有していると認められること。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。「Student Guide Book 2017」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2017年4月1日

宝塚大学
看護学部

2017年度（平成29年度）学年暦

宝塚大学 看護学部（大阪梅田キャンパス）

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
H 29 ・ 4 月							1	4/1・3・5 オリエンテーション・ガイダンス・前期履修登録（4/5まで）	10 月	①	2	3	4	5	6	7	10/2～4 履修登録修正期間 臨地実習（10月～3月）3年次生
	②	3	4	5	6	7	8	4/4 入学式		⑧	⑨	10	11	12	13	14	10/7・8 宝翔祭・10/7 特別休業日
	⑨	10	11	12	13	14	15	4/6 前期授業開始		⑮	16	17	18	19	20	21	10/9 平常授業実施
	⑮	17	18	19	20	21	22	4/11～4/13 履修登録修正期間		⑳	23	24	25	26	27	28	
	㉑	24	25	26	27	28	㉒			㉑	30	31					
	㉒																
	㉓																
5 月		1	(2)	③	④	⑤	6	5/2（火） 創立記念日振替休業日	11 月				1	2	③	4	11/3 平常授業実施
	⑦	8	9	10	11	12	13	臨地実習（5月～7月）4年次生		⑤	6	7	8	9	10	11	
	⑭	15	16	17	18	19	20			⑫	13	14	15	16	17	18	
	㉑	22	23	24	25	26	27	5/23（火） 創立記念日（5/21に振替）平常授業実施		⑰	20	21	22	㉑	24	25	11/23 平常授業実施
	㉒	29	30	31						㉒	27	28	29	30			
6 月					1	2	3		12 月						1	2	
	④	5	6	7	8	9	10			③	4	5	6	7	8	9	
	⑪	12	13	14	15	16	17			⑩	11	12	13	14	15	16	
	⑱	19	20	21	22	23	24			⑰	18	19	20	21	22	㉑	12/23 平常授業実施
	㉒	26	27	28	29	30				㉑	25	26	27	28	(29)	(30)	12/25・26 補講期間 年末年始休業（12/29～1/5）
										㉒							
7 月							1	総合実習（7月～8月）4年次生	H 30 ・ 1 月		①	(2)	(3)	(4)	(5)	6	
	②	3	4	5	6	7	8			⑦	⑧	9	10	11	12	13	
	⑨	10	11	12	13	14	15	7/17 平常授業実施		⑭	15	16	17	18	19	20	1/22 後期授業終了
	⑮	⑰	18	19	20	21	22	7/24・27 補講期間		⑰	22	23	24	25	26	27	1/23・24 4年次生後期定期試験 1/23・24 補講期間
	㉑	24	25	26	27	28	29	7/26 前期授業終了		㉑	29	30	31				1/25～1/31 後期定期試験 1/27～2/2 宝塚キャンパス 後期定期試験
	㉒	31						7/28～8/3 前期定期試験 7/27～8/2 宝塚キャンパス 前期定期試験 7/27～8/9 宝塚キャンパス 集中講義・補講期間									1/23・24・27～2/10 宝塚キャンパス 補講期間
8 月			1	2	3	4	5	8/21～8/26 宝塚キャンパス集中講義・補講期間	H 30 ・ 2 月					1	2	3	2/1・2 4年次生 追・再試験
	⑥	7	8	9	10	⑪	(12)			④	5	6	7	8	9	10	
	⑬	(14)	(15)	(16)	17	18	19	夏季休業(8/12～16)		⑪	⑫	13	14	15	16	17	2/14～2/17 1・2年次生 追・再試験
	㉑	㉒	㉒	㉒	24	25	26	8/19～8/23 前期追再試験		⑱	19	20	21	22	23	24	基礎看護学実習Ⅱ（2月～3月）2年次生
	㉒	28	29	30	31			基礎看護学実習Ⅰ（8月～9月）1年次生		㉑	26	27	28				
9 月						1	2		H 30 ・ 3 月					1	2	3	
	③	4	5	6	7	8	9			④	5	6	7	8	9	10	
	⑩	11	12	13	14	15	16			⑪	12	13	14	15	16	17	3/17 学位記授与式（予定）
	⑰	⑱	19	20	21	22	㉑	9/21 9月卒業生学位記授与式（予定）		⑱	19	20	㉑	22	23	24	
	㉒	25	26	27	28	29	30	9/22 後期ガイダンス・後期履修登録（9/27まで）		㉑	26	27	28	29	30	31	
								9/25 後期授業開始									
								臨地実習（～3月）3年次生									

曜日別の授業回数

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

…授業日
…定期試験

…日曜・祝祭日（休業日）

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部
看護学科

2012年度以降入学生

基 礎 分 野	28単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専 門 分 野	71単位	以上
計	128単位	以上

2011年度入学生

基 礎 分 野	24単位	以上
専門基礎分野	29単位	以上
専 門 分 野	73単位	以上
全分野(選択科目)	2単位	以上
計	128単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号(連番)
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	1=必修 2=選択必修 3=選択	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
			01~99

看護学部 看護学科 教育課程 【2012 年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択10単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30			
		化学	KGE13105	1 前		2	30			
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30	—		
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1 後		2	30	必修2単位		
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1 前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3 前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30			
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60	選択必修2単位		
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60			
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2 通		2	60			
フランス語Ⅰ		KGE12301	1 通		2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2 通		2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1 通		2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2 通		2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1 通		2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1 通		2	60				
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2 通		2	60				
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1 通		2	60				
ドイツ語Ⅱ		KGE22307	2 通		2	60				
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2		30	必修6単位	選択6単位以上	必修23単位 選択6単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1 後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	2 後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2 前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1 後	2		30			
		人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 前	2		60			
	人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 後	1		30				
	病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30				
	病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60				
	病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30				
	生化学	KSB11107	1 後	1		30				
	薬理学	KSB21103	2 前	1		30				
	感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30				
	疫学	KSB21104	2 後	2		30				
	医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30				
	運動と健康	KSB33201	3 前		2	30	必修3単位			
	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30				
	情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30				
	福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30				
	医療と経済	KSB33101	3 前		2	30				
	カウンセリング	KSB23102	2 前		1	30				
	社会保障と福祉	KSB21105	2 後	2		30				

通＝通年科目

看護学部 看護学科 教育課程 【2012 年度以降入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考				
					必修	選択		必修	選択	卒業要件		
専門分野	看護の基盤となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上		
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30					
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30					
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30					
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60					
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30					
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30					
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修26単位				
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60					
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30					
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60					
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30					
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15					
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30					
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30					
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30					
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15					
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30					
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30					
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30					
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15					
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30					
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30					
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30					
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15					
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30					
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30					
		在宅看護論Ⅰ（概論）	KSP21109	2 前	1		15					
		在宅看護論Ⅱ（訪問看護の展開方法）	KSP21210	2 後	1		15					
		在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	KSP31303	3 前	1		30					
		在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	KSP31203	3 前	1		30					
		看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2				30	選択必修 4単位以上
			看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2				30	
			看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2				30	
			看護と芸術Ⅰ-④（セラピーメイク）	KSP32204	3 前		2				30	
	看護と芸術Ⅰ-⑤（陶芸療法）		KSP32205	3 前		2	30	必修2単位				
	看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）		KSP41101	4 後	2		30					
	看護教育学		KSP42101	4 後		1	15	必修1単位				
	海外看護活動論		KSP42102	4 後		2	30					
	看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）		KSP31102	3 前	1		30					
	看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）		KSP42103	4 後		2	30					
	地域リハビリテーション論		KSP32101	3 前		2	30	選択必修 4単位以上				
	移植コーディネーション論		KSP42104	4 後		2	30					
	看護研究の方法		KSP31204	3 前	1		30	必修3単位				
	看護の探究（看護の統合）		KSP41201	4 後	2		60					
	看護の技を習得する領域		基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 前	1		45			必修23単位	
			基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 後	2		90				
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後4 前	3		135					
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後4 前	3		135					
		老年看護学実習	KSP31403	3 後4 前	4		180					
		小児看護学実習	KSP31404	3 後4 前	2		90					
		母性看護学実習	KSP31405	3 後4 前	2		90					
		精神看護学実習	KSP31406	3 後4 前	2		90					
		在宅看護論実習	KSP31407	3 後4 前	2		90					
		総合実習	KSP41401	4 前	2		90					

看護学部 看護学科 教育課程 【2011 年度入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1 後	2		30	必修6単位	選択6単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択6単位以上 合計24単位以上
		統計学入門	KGE11201	1 後	2		30			
		論理の世界	KGE13101	1 前		2	30			
		心理学への招待	KGE13102	1 前		2	30			
		情報心理学	KGE13103	1 前		2	30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1 前	2		30			
		環境と生態	KGE13104	1 前		2	30			
		化学	KGE13105	1 前		2	30			
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1 前		2	30	—		
		教育学概論	KGE23101	2 前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2 前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2 後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1 前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2 後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1 後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2 前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1 前		2	30			
		ユニバーサルコンピュータシステムデザインⅠ	KGE23201	2 後		2	60			
		ユニバーサルコンピュータシステムデザインⅡ	KGE33201	3 前		2	60			
		生活の中の法律	KGE13110	1 前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1 後		2	30	必修2単位		
		文章表現法	KGE11104	1 前	2		30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1 前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1 前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1 前		2	30	選択必修 2単位		
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1 前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1 前		2	30			
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1 通	2		60	必修6単位		
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2 通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1 通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2 通		2	60	選択必修 2単位		
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2 通		2	60			
英語Ⅳ（Writing2）		KGE22303	2 通		2	60				
フランス語Ⅰ		KGE12301	1 通		2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2 通		2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1 通		2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2 通		2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1 通		2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1 通		2	60				
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2 通		2	60				
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1 通		2	60				
ドイツ語Ⅱ		KGE22307	2 通		2	60				
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1 後	2		30	必修6単位	選択2単位以上	必修27単位 選択2単位以上 合計29単位以上
		医療行動科学	KSB13101	1 後		2	30			
		生涯教育論	KSB23101	4 後		2	30			
		癒しと芸術	KSB21101	2 前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1 後	2		30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1 通	2		60	必修16単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1 前	1		30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1 後	1		30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	2 前	2		60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2 前	1		30			
		生化学	KSB11107	1 後	1		30			
		薬理学	KSB21103	2 前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1 後	1		30			
		疫学	KSB21104	2 後	2		30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3 前	2		30			
		健康管理論	KSB31101	3 前	2		30			
	関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1 前	1		30	必修5単位		
		情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1 後		1	30			
		福祉情報技術	KSB23201	2 前		2	30			
		医療と経済	KSB33101	3 前		2	30			
		カウンセリング	KSB23102	2 前		1	30			
		社会保障と福祉	KSB21105	2 後	2		30			
		保健福祉行政論	KSB31202	3 前	2		30			

* 全分野より選択科目2単位以上の履修が必要

看護学部 看護学科 教育課程 【2011 年度入学生】

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専門分野	看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ（概論）	KSP11101	1 前	1		30	必修8単位	—	必修69単位 選択必修4単位以上 合計73単位以上 (保健師課程選択者) 必修69単位 選択必修8単位以上 合計77単位以上
		基礎看護学Ⅱ（コミュニケーション技術）	KSP11201	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅲ（健康教育）	KSP21201	2 後	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-1（基礎看護技術）	KSP11202	1 前	1		30			
		基礎看護学Ⅳ-2（基礎看護技術）	KSP11203	1 後	2		60			
		基礎看護学Ⅴ（フィジカルアセスメント）	KSP21202	2 前	1		30			
		基礎看護学Ⅵ（看護過程）	KSP21203	2 前	1		30			
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ（概論）	KSP11102	1 後	1		30	必修32単位		
		成人看護学Ⅱ（急性期・回復期援助論）	KSP21204	2 後	2		60			
		成人看護学Ⅲ（慢性期・終末期援助論）	KSP21205	2 後	1		30			
		成人看護学Ⅳ（援助方法論）	KSP31301	3 前	2		60			
		老年看護学Ⅰ（概論）	KSP21101	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅱ（疾病と障害）	KSP21102	2 後	1		15			
		老年看護学Ⅲ（理論とアセスメント）	KSP21206	2 前	1		30			
		老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	KSP31201	3 前	1		30			
		小児看護学Ⅰ（概論と保健）	KSP21103	2 前	1		30			
		小児看護学Ⅱ（主な疾患と看護）	KSP21104	2 後	1		15			
		小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	KSP21207	2 後	1		30			
		小児看護学Ⅳ（小児のアセスメントとケア論）	KSP31302	3 前	1		30			
		母性看護学Ⅰ（概論）	KSP21105	2 前	1		30			
		母性看護学Ⅱ（女性生殖・周産期医療）	KSP21106	2 後	1		15			
		母性看護学Ⅲ（周産期アセスメント）	KSP21208	2 後	1		30			
		母性看護学Ⅳ（周産期ケアマネジメント）	KSP31202	3 前	1		30			
		精神看護学Ⅰ（精神保健）	KSP21107	2 前	1		30			
		精神看護学Ⅱ（主な精神疾患と精神症状）	KSP21108	2 後	1		15			
		精神看護学Ⅲ（施設における援助）	KSP21209	2 後	1		30			
		精神看護学Ⅳ（地域における援助）	KSP31101	3 前	1		30			
	看護を応用する領域	地域看護学Ⅰ（概論）	KSP21110	2 前	2		30	選択必修2単位以上		
		地域看護学Ⅱ（保健活動論）	KSP21211	2 前	2		60			
		地域看護学Ⅲ（在宅看護）	KSP21301	2 後	2		30			
		地域看護学Ⅳ（学校・産業保健）	KSP31103	3 前	2		30			
		地域看護学Ⅴ（地域ケアシステム論）	KSP31104	3 前	2		60			
		看護と芸術Ⅰ-①（絵画療法）	KSP32201	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-②（音楽療法）	KSP32202	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅰ-③（笑い療法）	KSP32203	3 前		2	30			
		看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	KSP41101	4 後	2		30			
		看護教育学	KSP42101	4 後		1	15			
		国際看護	KSP42105	4 後		1	15			
		看護マネジメント学Ⅰ（リスクマネジメント）	KSP31102	3 前	1		15			
		看護マネジメント学Ⅱ（看護管理）	KSP42103	4 後		1	15			
	看護の技を習得する領域	地域リハビリテーション論	KSP32101	3 前		1	30	必修1単位 選択必修2単位以上		
		移植コーディネーション論	KSP42104	4 後		1	30			
		看護研究の方法	KSP31204	3 前	1		30			
		看護の探究（看護の統合）	KSP41201	4 後	2		60			
		基礎看護学実習Ⅰ（対象理解）	KSP11401	1 後	1		45			
		基礎看護学実習Ⅱ（看護過程）	KSP21401	2 前	2		90			
		成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	KSP31401	3 後4 前	3		135			
		成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	KSP31402	3 後4 前	3		135			
	看護の技を習得する領域	老年看護学実習	KSP31403	3 後4 前	4		180	必修19単位		
		小児看護学実習	KSP31404	3 後4 前	2		90			
		母性看護学実習	KSP31405	3 後4 前	2		90			
		精神看護学実習	KSP31406	3 後4 前	2		90			
		地域看護学実習 ※保健師課程選択者のみ履修可	KSP42401	4 前		4	180			
		在宅看護実習	KSP31408	3 後4 前	2		90			
		総合実習	KSP41401	4 前	2		90			

* 全分野より選択科目2単位以上の履修が必要

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2017年度（平成29年度）のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）
2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目に分けて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。
3. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生きた人間学	加畑公一郎	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11101

科目の概要

人間は一人ひとり顔も心も体も立場も違うが、冷たい風が吹いたら首をすくめ、暑いときには汗をぬぐう。そのしぐさは似ている。さまざまな時代・状況・場所で格闘してきた人々の生き方の芯には共通した何かがある。その芯にあるものを自分の目で確かめ、人間とは何かを追究し、自らの生き方を考える。

到達目標

- 人はどんなときに自分を見失い、どうやって自分を取り戻すのかが理解できる。
- 人間の自立をはばむものの正体を検証し、豊かな人生を切り開く知識を修得することができる。
- 生きるとは何か、人間社会の真相・深層には何があるのかを理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「隣組」の暮らしに見る連帯と服従
第2回 AL	「忘れられる」ことに抗った詩人
第3回	高度成長で日本人が失ったものは
第4回 AL	ネット社会の病理に打ち勝つ方法
第5回	「世間」を考える
第6回 AL	貧困と自己責任
第7回 AL	賢者の贈り物について
第8回	ブランド信仰からの脱却
第9回 AL	「標準」へ画一化させない生き方
第10回 AL	難題に体当たりで立ち向かった泣き虫先生
第11回	横を向く人間の大切さ
第12回	臆病さが生み出す見事な職人芸
第13回 AL	自分とは何か
第14回	「リトリート」は退却ではない
第15回 AL	弱さを強さに変えるとき

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% レポート課題 30% 小テスト20%
教科書	使用しない
参考文献	必要に応じて授業で紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	毎回つぎの授業の参考資料を配布するので、よく読んで理解し、質問事項などを準備しておくこと。(1時間)
事後学習(内容・時間)	授業で取り上げるキーワードは前後複数の授業に密接な関連があるので、自分でさらに調べてノートを作ること。(1時間)
備考	新聞・テレビのニュースや企画に注目し、人びとの生き方と社会について考える習慣を身につけてほしい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	宮阪 信次	講義・演習	1年次 後期	必修	2	30	KGE11201

科目の概要

自然科学をはじめ医療・看護など様々な状況で利用されている統計学の必要性を理解したうえで、統計に対する基本的事項を習得し、看護現場で科学的に状況を把握し、判断・分析ができる能力を養う。講義は、記述統計学、推測統計学の基礎理論と実例に近いデータを用いた演習を中心に行う。

到達目標

- 統計の様々な値の特性（代表値、平均値等）や相関関係など初歩的な統計の知識を身に付ける。
- 総合演習を協調作業で行うことにより、グループで問題解決する技能を身に付ける。
- 推測・検定を行う筋道を理解できるように、実例演習を数多く行い、推測・検定の考え方を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	統計学の基礎（受講の手引き、Excel関数の基礎、Power pointの基礎）
第2回	1次元のデータの基本統計量について学ぶ（1）（度数分布とヒストグラム）
第3回	1次元のデータの基本統計量について学ぶ（2）（代表値と散らばり）
第4回	2次元のデータの分析（1）（散布図とクロス集計）
第5回 AL	2次元のデータの分析（2）（グループワーク「カーテンの色はなにがいいか」）
第6回 AL	記述統計学の総合演習（グループワーク「現実と理想のBMIについて」）
第7回 AL	総合演習の発表会
第8回	確率変数と確率分布について学ぶ（正規分布を中心に）
第9回	標本分布について学ぶ（母集団と標本、正規分布からの標本）
第10回	統計的推定について学ぶ（平均の区間推定）
第11回	統計的検定について学ぶ（1：1 標本の平均値検定）
第12回	統計的検定について学ぶ（2：2 不応本の平均値検定）
第13回 AL	推測統計学の総合演習（グループワーク「どこのアスレチッククラブを選ぶか？」）
第14回 AL	発表会と分散分析法について学ぶ
第15回	多変量解析の紹介とまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 成果物 30% 小テスト 20%
教科書	『はじめての統計学』鳥居泰彦（日本経済新聞社出版）
参考文献	『よくわかる医療・看護のための統計入門』石村貞夫ほか（東京図書出版）
オフィスアワー	出講日の授業の前後30分間
事前学習（内容・時間）	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること（1時間）
備考	講義・演習が後の講義・演習に大きく影響するので欠席がないようにしてください。 Excel、Power pointは講義・演習で不可欠なので基本機能をマスターしておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
論理の世界	原田 淳平	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

論理的に思考し、論理的に適切なかたちで自分の考えを表現する力は、就職活動・社会生活を成功させるために必須のスキルです。この講義では、日常的なことばのやりとりの中に存在する論理を理解し、実践的な練習を通じて、論理的思考力と表現力を向上させます。

到達目標

- 「論理」についての基本的な知識を修得する。
- 上記の知識を利用し、明晰かつ簡潔な文章がすぐに作れる技術を身につける。
- 反復練習とレビューを通じて、学習した技術を定着させる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	論理を研究する学問「論理学」について概観する。
第2回	エッセイを書こう① 実際にショートエッセイを書いてみる。
第3回	エッセイを書こう② 「論理的」な文章についての基礎知識を学ぶ。
第4回 AL	エッセイを書こう③ 前回の授業を踏まえて、自身で書いたエッセイが「論理的」であるかチェックする。
第5回 AL	エッセイを書こう④ 引き続き、書いたエッセイの校正を行う（ピア・レビュー）。
第6回 AL	ディスカッション① 学習した「論理的」であることを意識しながら、ディスカッションをしてみる。
第7回	文章に説得力を持たせるためのテクニックを学ぶ。
第8回	分かりやすい文章構成について学ぶ。
第9回 AL	ディスカッション② 「先行事例」・「簡潔さ」を意識しながら、ディスカッションをしてみる。
第10回	レポートを書こう① 実際にレポートを書いてみる。
第11回	レポートを書こう② 文の接続・論証の作法について学ぶ。
第12回 AL	レポートを書こう③ 前回の授業を踏まえて、自身のレポートのレポートをチェックする。
第13回 AL	レポートを書こう④ 引き続きレポートの校正を行う（ピア・レビュー）。
第14回 AL	ディスカッション③ 「主張」・「根拠」・「結論」を意識しながら、ディスカッションをしてみる。
第15回 AL	全体のレビュー

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題50% 定期試験（筆記）35% 小テスト15%
教科書	特になし
参考文献	『小論文・レポートの書き方 パラグラフ・ライティングとアウトラインを鍛える演習帳』野田 直人（有限会社人の森） 『クリティカルシンキング（入門篇）』E.B. ゼックミスタ & J.E. ジョンソン（北大路書房）
オフィスアワー	講義後教室にて
事前学習（内容・時間）	自分が文章を書く際に困るところ、つまずくところを、授業内容を踏まえつつ事前に把握しておくこと（30分）
事後学習（内容・時間）	授業で扱った知識・スキルを復習し、レポート作成時にそれが反映できるように努めること。（1時間）
備考	授業時間内にエッセイやレポートを書くことにより、短時間で「分かりやすい文章」を書く力を養います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

本講義では、心理学の様々な知見を紹介する。この授業は、学問としての心理学における「心」の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。「心」についての基本的な考え方や、その健康・不健康、社会と個人の心との関わりなどについて学び、日常生活において人がなぜそのような行動をとるのかということに対する答えを自分なりに考えたり、見つけることができるように活かしてもらいたい。

到達目標

- 心理学の基礎、なかでも認知機能や人間の行動などについて基礎的な知識を獲得すること。
- 学んだ内容を基に、自分なりに理解した人間の「心」について、他者に伝えられるようになること。
- 人間の「心」についての理解を、医療や看護領域においてどのように活かすか発展的に考えられるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について①
第2回 AL	心理学とは:こころの探求の目的や歴史について②
第3回 AL	感覚・知覚のメカニズムについて①
第4回 AL	感覚・知覚のメカニズムについて②
第5回 AL	記憶:覚えること・忘れることのしくみ①
第6回 AL	記憶:覚えること・忘れることのしくみ②
第7回 AL	思考:考えることのしくみ①
第8回 AL	思考:考えることのしくみ②
第9回 AL	感情と動機づけ①
第10回 AL	感情と動機づけ②
第11回 AL	行動:私たちの「行動」のしくみ①
第12回 AL	行動:私たちの「行動」のしくみ②
第13回 AL	パーソナリティ①
第14回 AL	パーソナリティ②
第15回 AL	心理学と社会とのかかわり

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト20%
教科書	授業中に資料を適宜配布
参考文献	授業中に適宜提示する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	日常的に新聞やテレビのニュースなどに目を配っておくこと。(1時間)
事後学習(内容・時間)	その日の授業の内容を振り返り、自分なりに要点をノートにまとめること。授業内で配布や提示される文献を自主的に読み内容を理解しておくこと。(1～2時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報心理学	増尾 慶裕	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

情報に関連する認知心理学の理論を学び、身の回りにある情報を心理学的に活用する。アクティブラーニングを通して情報を活用する力（聞く力、表現する力、情報を収集する力、情報を整理する力、読む力、書く力、データを分析する力、プレゼンテーションする力）を修得する。

到達目標

- 情報を活用するための心理学的な知識を理解できる。
- 情報を活用するための心理学的な技能を修得する。
- 情報を活用するための意欲・態度を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	情報を活用するための心理学的な力
第2回 AL	アクティブラーニングのための認知心理学の構成主義学習論
第3回	情報活用のための認知心理学のスキーマ理論
第4回	既有スキーマの活性化
第5回	学習意欲を向上するための認知心理学の期待理論
第6回	情報モラル、情報マナー
第7回	情報を活用するための聞く力
第8回 AL	情報を活用するための表現する力
第9回 AL	情報を活用するための情報を収集する力
第10回	情報を活用するための情報を整理する力
第11回	情報を活用するための書く力
第12回	情報を活用するためのデータを分析する力
第13回 AL	情報を活用するためのプレゼンテーションする力
第14回	情報処理心理学
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）80％ レポート課題 20％
教科書	初回の講義において提示します
参考文献	なし
オフィスアワー	授業後30分
事前学習（内容・時間）	次回の教科書の学習内容を読んでおくこと（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義で学習した教科書の内容を読んでおくこと（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	堀家なな緒	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

生物は細胞を基本単位としている。ヒトは、1個の受精卵という細胞から、約60兆個の細胞でできた個体へと発生する。前半では、細胞が自身の持つ遺伝情報に基づき、必要なタンパク質を合成することで、様々な機能を発現していくという生命活動における基本原理の理解を目指す。後半では、細胞が組織を形成し、組織が組み合わさって構成される器官系の構造・機能を学ぶと共に、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心にして学ぶ。

到達目標

- DNAに記された遺伝子の情報からどのようにしてタンパク質が合成され、生命活動が営まれるのかを理解する。
- 内臓諸器官系である消化系、循環系、呼吸系、排出系の基本的構造と機能、その代表的な疾患を知る。
- 内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で維持される恒常性を維持する仕組みについて理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	細胞の基本構造(細胞小器官、生体膜)
第2回	遺伝子の本体(DNAの構造、染色体)
第3回	遺伝情報(複製、転写、翻訳)
第4回	細胞増殖と体細胞分裂、生殖と減数分裂、ヒトの発生
第5回	代謝:好気的呼吸(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系)、嫌気的呼吸(解糖)
第6回	消化系(栄養物質の吸収)
第7回 AL	生命活動の基本原理
第8回	第1回～第6回までのまとめと確認テスト(筆記)
第9回	循環系(体液とその循環)
第10回	呼吸系(酸素の取り込みと二酸化炭素の排出)
第11回	排出系(代謝老廃物の排出と浸透圧調節)
第12回	内分泌系(内分泌腺、ホルモンの作用)
第13回	神経系(ニューロンとグリア細胞、伝導と伝達)
第14回	免疫系(自然免疫と獲得免疫)
第15回 AL	生体の多様な調節機構

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト、レポート課題など 20%
教科書	『系統看護学講座 基礎分野「生物学」』高畑雅一、増田隆一、北田一博(医学書院)
参考文献	『理系総合のための生命科学』東京大学生命科学教科書 編集委員会(羊土社) 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第(1～3巻)』D・サダヴァほか(講談社)
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲をよく読み、高校で学習した内容を確認しておく(60分)
事後学習(内容・時間)	授業時の配布資料を教科書に沿って確認、要点を理解し、復習テストで知識を定着させる(90分)
備考	前半(第1回～第6回)と後半(第9回～第14回)の2回行われる試験(80%)と、毎回実施する小テスト、レポート課題など(20%)を総合して評価します。講義では、専門分野に進む前に、生物学の基礎を掘り下げて解説します。日進月歩の医学の進展に対応するために、生物学的思考は必要不可欠です。受動的な学習ではなく、主体的に学習に取り組むことで、社会に出てからも、意欲的に学べる向上心を持った看護師になって下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	乾 智洋	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

本講義では、生態系の構造と環境及び暮らしとの関係を学ぶとともに、我々の生活と密接にかかわる有害生物の管理手法として近年注目されている総合的有害生物管理（IPM）についても理解を深めることで、環境共生型社会を形成していくために重要な基礎知識を習得する。また、現在研究が進んでいる有害生物管理技術などについて先進的な知識と世界的な動向を知ることによって、環境リテラシーを身につける。

到達目標

- 人類の生活と環境とのかかわりを理解し、環境学の基礎知識を身につける。
- 様々な生物の生態と人類のかかわりを理解し、生態学の基礎知識を身につける。
- IPMなどの環境共生型社会形成への取り組みに触れ、環境リテラシーを身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション 人類の発展と環境・生態
第2回 AL	基礎知識の習得1 人類の環境利用(食料生産の変遷、エネルギー生産の変遷)
第3回 AL	基礎知識の習得2 暮らしとかかわる環境(生態系サービス、環境経済学)
第4回 AL	基礎知識の習得3 環境破壊と汚染(環境破壊、環境汚染)
第5回	環境と昆虫の生態
第6回	昆虫の環境応答
第7回 AL	昆虫の多様性と環境指標性(実習@宝塚キャンパス) ☆レポート1
第8回	害虫としての昆虫1 稲作害虫とその防除
第9回	害虫としての昆虫2 作物害虫とその防除
第10回	害虫としての昆虫3 衛生害虫とその防除
第11回	害獣とその防除
第12回	農薬の功罪 環境汚染と薬剤抵抗性
第13回	総合的有害生物管理(IPM)1 IPMの基本概念
第14回	総合的有害生物管理(IPM)2 環境にやさしい害虫防除手法 - 天敵防除、昆虫成長制御剤(IGR剤)
第15回 AL	これからの有害生物管理を考える 低環境負荷型防除法、ゲノム創農薬 ☆レポート2

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(レポート) 40% 小テスト 30% レポート課題(レポート1: 15%、レポート2: 15%)
教科書	講義ごとにレジュメと図版を配布します。
参考文献	『基礎から学べる環境学』田中修三、西浦定継(共立出版) 『IPM総論 有害生物の総合的管理』ロバート・ノリス、エドワード・カスウェル-チェン、マルコス・コーガン著、小山重郎、小山晴子訳(築地書館) 『沈黙の春』レイチェル・カーソン著、青樹繁一訳(新潮社)
オフィスアワー	講義開始時刻までの30分間、講義終了時刻から30分間
事前学習(内容・時間)	講義中に次の講義内容に関連する文献を紹介するので、目を通しておいってください。(1時間)
事後学習(内容・時間)	配布資料を整理、確認してレポートに備えてください。(1時間)
備考	第7回の講義では、宝塚キャンパス内を歩いて自然観察を行います。運動に適した服装および靴を用意してください。 成績評価方法の小テストは、講義中に出题するので、その時間内に提出してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	山口 三郎	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

現代生活の至る所で様々な形で化学が溶け込んでいる。また、医療行為を行う場合にも化学の知識が要求されることもある。このことを前提に、現代化学の基礎を体系的に学ぶ。具体的には、原子や分子から始めて、物質の量的表現、化学反応、水と溶液や有機化学を学ぶ。

到達目標

- 生化学などを学習するための化学の基礎を身につける。
- 日常生活や医療の分野における化学現象を正しく理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	科学における化学
第2回	原子の構造：原子
第3回	原子の構造：元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	有機化学(その1)
第6回	有機化学(その2)
第7回	モルと化学式、濃度の表し方
第8回	物質の状態と性質
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液、透析と浸透圧
第13回	酸と塩基
第14回	酸化と還元
第15回	電池

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% レポート課題 20%
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島高彦(化学同人)
参考文献	『化学 その現代的理解』井本稔、岩本振武(東京化学同人)
オフィスアワー	出講日の授業の前後(各30分)
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む(30分)
事後学習(内容・時間)	教科書の練習問題を解く(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13106

科目の概要

人間とはさまざまな「関係」の中に生きる存在である。自分自身との関係、身近な他者との関係、友だち関係、所属する集団との関係、自分をとりまく社会との関係、そして関係の築き方など、臨床心理学の観点に基づきさまざまな「関係」について学び、考える。

到達目標

- 心理学の基礎、なかでも人間関係の理解に必要とされる基礎的な事項を学習し、知識を得ること。
- 心理学という科学の学習を通じて、論理的思考や批判的思考の力を養うこと。またそれを文章で伝えられるようになること。
- 自分自身を取り巻く様々な「関係」について、ある程度客観的に考えられるようになること。
- 人間の心や関係性についての理解を、医療や看護領域においてどのように活かすか発展的に考えられるようになること。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	臨床心理学とは:目的と歴史
第2回 AL	臨床心理学のさまざまな学派①
第3回 AL	臨床心理学のさまざまな学派②
第4回 AL	人間の発達と関係性の発展(1)
第5回 AL	人間の発達と関係性の発展(2)
第6回 AL	人間の発達と関係性の発展(3)
第7回 AL	人間の発達と関係性の発展(4)
第8回 AL	人間の発達と関係性の発展(5)
第9回 AL	人間の発達と関係性の発展(6)
第10回 AL	自己を知る①
第11回 AL	自己を知る②
第12回 AL	集団と個人との関わり①
第13回 AL	集団と個人との関わり②
第14回 AL	臨床の場における関係(1)
第15回 AL	臨床の場における関係(2)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト20%
教科書	授業中に資料を適宜配布
参考文献	授業中に適宜提示する
オフィスアワー	出講日の授業の前
事前学習(内容・時間)	日常的に新聞やテレビのニュース、自分の身の回りで起こっていることに関心を向けておくこと。(1時間)
事後学習(内容・時間)	その日の授業の内容をふり返り、自分なりに要点をノートにまとめること。授業内で紹介される文献を自主的に読み、自分なりに内容を理解しておくこと。(1～2時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報化と社会	宮阪 信次	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13107

科目の概要

第4次産業革命の時代が、到来するといわれている。それは、経済や産業はもとより、私達のライフスタイルを大変革する可能性が高い。この授業では、情報技術革新の進展と社会システムの変革について最新情報を考察し、直面している少子高齢化問題などについても取組み、今後の技術動向について学習する。

到達目標

- 情報技術革命の進展、家族が抱える諸問題、社会システムの変革などの知識を身に付ける。
- 読書課題本「スローなユビキタスライフ」を通じて、次世代インターネットの考え方を身に付ける。
- SNSシステムの擬似体験から、次世代インターネット技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション(情報技術革命の進展について概括する)
第2回	情報機器の発達を学ぶ
第3回	情報のデジタル化とマルチメディアを学ぶ(オリジナル名刺のプレゼンテーション)
第4回 AL	グループワーク(コンピュータの英雄たちの調査)
第5回 AL	コンピュータの英雄たちの発表会 インターネットと情報通信ネットワークを学ぶ
第6回	ビジネス・家族・社会が変わる「第3の社会」について考察する
第7回 AL	高度社会情報システムの進展を学ぶ グループ課題(情報システムの調査課題)
第8回 AL	情報社会の危険とSNSを学ぶ グループ課題発表会(情報システム)
第9回 AL	グループワーク(Wikipediaで「地球環境問題」を協同作業)
第10回 AL	発表会(地球環境問題)
第11回	次世代インターネット社会について学ぶ
第12回	IOT社会と社会システムについて考える(IOTとはINTERNET OF THINGSの略)
第13回	IOTの基盤技術を学ぶ
第14回 AL	グループワーク発表会(課題本 スローなユビキタスライフ)と相互討議
第15回 AL	第3の社会で、私たちがどのように生きていきたいか討議する

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 50% 成果物 30% 小テスト 20%
教科書	なし
参考文献	『スローなユビキタスライフ』 関根千佳 (地湧社)
オフィスアワー	出講日の授業の前後30分
事前学習(内容・時間)	講義時に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと (1時間)
事後学習(内容・時間)	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること (1時間)
備考	講義・実習が後の講義・実習に大きく影響するので欠席がないようにしてください。 Power pointは講義・実習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
メディア社会学	北垣 博美	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13108

科目の概要

インターネットの登場、普及によって、これまでの新聞・雑誌やテレビに代わり、ネットが市民生活の主要な情報伝達手段となった。個人も情報の発信者となるネット情報は一国の政権を揺るがす力を持つ一方で、情報の真偽が問題ともなっている。災害や戦争、事件・事故の報道の歴史的な歩みをたどりつつ、現代に生きる人間として、日々起きる社会現象を判断できる視座を養いたい。一新聞記者の経験も踏まえながら。適宜、新聞紙面やビデオも活用する。

到達目標

- メディアの使命と市民社会とのかかわり方が考察できる。
- 新聞やテレビの作られ方がわかる。
- 氾濫する情報の中から正しく役立つ情報を選ぶことができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞の歩み① 近代日本の歴史と災害報道
第2回	新聞の歩み② 世論と報道 現代の領土問題
第3回	新聞の歩み③ 新聞と小説 市民社会の登場
第4回	メディアとスポーツ・文化事業 宝塚と甲子園
第5回	文化財報道と展覧会 フェノロサと岡倉天心
第6回 AL	新聞の戦争責任 暗殺(テロ)による政治
第7回	テレビの時代① 一億総白痴化
第8回 AL	テレビの時代② 「あるある大事典」とその後
第9回 AL	報道と人権① 報道被害とマスコミ不信
第10回	報道と人権② 表現の自由とプライバシーの保護
第11回 AL	報道と人権③ 表現の自由と名誉毀損訴訟
第12回 AL	メディアミックスの時代① インターネットの登場と躍進
第13回	メディアミックスの時代② ネットと新聞、ネットと出版
第14回	メディアミックスの時代③ メディア別評価
第15回	ジャーナリズムの行方 メディアリテラシーとは

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%
教科書	特になし
参考文献	授業時に適宜紹介
オフィスアワー	出講日の授業前後
事前学習(内容・時間)	講義中に言及された参考文献に接するよう努めること。(30分)
事後学習(内容・時間)	渡されるレジュメと授業内容を基に、独自ノートを作ること。(30分)
備考	新聞を読み、テレビのニュースにも接し、社会の動きに敏感になるよう努めてほしい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスケア・マーケティング	川島 隆志	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13109

科目の概要

ヘルスケアとは、保健・医療・福祉すべてを網羅する言葉です。看護の対象も病気の人ばかりとは限りません。あらゆる健康レベルへの働きかけが看護の機能です。人への働きかける際に重要になるのが、マーケティングという考え方です。本講義は、マーケティングの基本的な考え方とヘルスケア産業にかかわる企業や人がどのようなマーケティング活動をしているのかを理解し、今後の皆様自身の看護活動に対する意識を形成するのに役立てるものです。

到達目標

- ヘルスケア産業の概要を理解する。
- マーケティングの基本的な考え方を理解する。
- 医療サービス産業の従事者として、マーケティング志向で考えることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回 AL	マーケティングの基礎(生活者のニーズ)
第3回 AL	マーケティングの基礎(生活者の実態① 人口動態など)
第4回 AL	マーケティングの基礎(生活者の実態② 世帯構造など)
第5回 AL	マーケティングの基礎(生活者の実態③ 出生・死亡など)
第6回 AL	マーケティングの基礎(高齢者の実態)
第7回 AL	医療産業の概要① (病院・診療所、医療従事者)
第8回 AL	医療産業の概要② (医薬品企業のマーケティング)
第9回 AL	サプリメント・健康食品メーカーのマーケティング
第10回 AL	健康機器メーカーのマーケティング
第11回 AL	ベビー用品メーカーのマーケティング
第12回 AL	口腔ケア商品(デンタルケア)のマーケティング
第13回 AL	健診サービス企業のマーケティング
第14回 AL	総合病院のマーケティング
第15回	ヘルスケア・マーケティングのまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% レポート課題 30%
教科書	配布資料 厚生労働省のホームページより必要な統計データをダウンロードしていただきます。(講義で指示します)
参考文献	『国民衛生の動向 2016/2017』厚生労働統計協会(厚生労働統計協会)
オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定
事前学習(内容・時間)	授業計画の確認と専門用語の下調べ(90分)
事後学習(内容・時間)	レジュメおよびワークショップについて復習する(90分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生活の中の法律	岡田 康志	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13110

科目の概要

看護の仕事は常に法律問題と背中合わせにあると言えます。例えば、宗教の戒律に基づく輸血拒否などは、正に憲法の問題です。看護師試験にも法律に関する問題が毎回5問以上出題されています。専門的な知識の習得と同時に、法律の基礎を修得し、リーガルマインドと言われる法的思考センスのトレーニングが必要です。本科目では憲法の具体的事例を能動的に学習し、このセンスを磨いていきます。

到達目標

- リーガルマインド（法的思考）のセンスを身につける。
- 法律問題について自ら考え、その考えを論理的に説明できる。
- 憲法の理念を正確に理解し、憲法改正問題についても自ら考え、その考えを論理的に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	憲法:輸血拒否・医療拒否と憲法との関係
第2回 AL	憲法:天皇主権から国民主権へ 八月革命説
第3回 AL	憲法:平和主義(1) 戦争放棄
第4回 AL	憲法:平和主義(2) 統治行為論
第5回 AL	憲法:人権(1)精神的自由権 内心の自由
第6回 AL	憲法:人権(2)精神的自由権 表現の自由
第7回 AL	憲法:人権(3)経済的自由権
第8回 AL	憲法:人権(4)人身の自由
第9回 AL	憲法:人権(5)参政権 国家への自由
第10回 AL	憲法:人権(6)社会権 国家による自由
第11回 AL	憲法:国会
第12回 AL	憲法:内閣
第13回 AL	憲法:裁判所
第14回 AL	憲法:三権分立
第15回 AL	憲法:総まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記・レポート）80％ レポート課題 20％
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考文献	随時、講義中に紹介する。
オフィスアワー	講義前後に随時対応します。気軽に相談してください。
事前学習（内容・時間）	各テーマに沿った関連事項を調べる（15分）
事後学習（内容・時間）	1分間ペーパー・簡単なレポート（15分）
備考	生活の中で身近な法律問題について双方向で考えていく、アクティブで楽しい講義です。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文芸論	河内 厚郎	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13111

科目の概要

漢字の渡来→万葉仮名の成立→漢字仮名混じり文の完成と続く、日本語の成立過程から入る。さらに、能や歌舞伎、浄瑠璃などの芸能と共に普及していった中近世の文芸。そして西洋文明の受容にともなう近代文学の発生という具合に、千数百年の日本文学史をたどり、最後に日本文学の現状を考察して、文芸が大衆化・国際化していく状況について考える。また、各自に「ライフヒストリー」を書く体験をしてもらう。

到達目標

- 村上春樹の小説が各国で読まれているように、日本文学が世界で人気が高い理由を、歴史をたどりながら考え、日本文化の魅力を語れるようになる。
- 物事を結果だけでなく、そこへ到るプロセスを通して理解することを学ぶ。
- 文章表現の能力の基本となる小論文の書き方を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	日本語の成立(4～9世紀)、日本文学の発祥、翻訳文化の興隆
第2回 AL	なぜ人は「物語」を求めるのか? ストーリーとヒストリーの関係
第3回 AL	記憶再生装置としての文学 「記憶」と「時間」の関係
第4回	日本文学の特徴(恋愛と自然・季節感…)
第5回	王朝文学(『源氏物語』など)
第6回	中世の芸能と文学(世阿弥など)
第7回	町人文学の誕生と隆盛
第8回	歌舞伎と文楽(人形浄瑠璃)
第9回	近代文学の誕生、標準語の成立
第10回	谷崎潤一郎の『細雪』の世界 阪神間ブルジョアジイの文学
第11回	映像文化が文学に与えた影響
第12回	手塚治虫と宝塚歌劇
第13回	村上春樹とポストモダンの文学
第14回 AL	ライフヒストリーの試み
第15回 AL	I T 社会における文学の変容

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 60% 小テスト 40%
教科書	なし
参考文献	『わたしの風姿花伝』河内厚郎(沖積舎)
オフィスアワー	出講日の授業前後
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認し、その計画に沿って、新聞・雑誌・書籍・インターネット等で情報を収集しておく(45分程度)
事後学習(内容・時間)	日本文学史年表を授業を重ねるのにもとない完成させていく。(30分程度)
備考	学生は教員が配布した資料をファイルして保管しておくこと。 冬季の休暇期間中に、指定した文学作品(小説)を一冊読破する。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法 I	加畑公一郎 北垣 博美	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11103

科目の概要

自分の体験や気持ち、意見をだれかに伝えて理解・共感してもらうためには、大事なことを簡潔な文章にまとめて表現する技術が必要だ。この講義は、読み書きの実践を通して文章作法の極意を学ぶ授業である。受講生一人ひとりが書く作文へのきめ細かい添削が授業の軸になる。

到達目標

- 自分が最も訴えたいことを簡潔で説得力ある文章にまとめる技能を身につけることができる。
- ネット情報の短文化に影響された思考を、論理的で情感豊かな思考に改善することができる。
- 文章を読み書きするという学問の基本を身につけることで、自立心や探究心も修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	文章表現の作法(原稿用紙の約束事、執筆メモをつくる、符号や助数詞の書き方、辞書の活用など)
第2回 AL	5W1H(いつ・どこで・だれが・なにを・どのように・なぜ)を盛り込む
第3回	構成を工夫する(段落、起承転結、大事なことを先にもってくる)
第4回 AL	事物に語らせる(描写の本質とは何かを考える)
第5回	書き出しで勝負する
第6回 AL	しめくくりを決めるコツ
第7回 AL	内容を限定して掘り下げる
第8回	文章の格(主語、述語、文脈)
第9回	日本語の特徴(漢語、大和言葉、カタカナの使い方)
第10回 AL	紋切り型と戦う(独自の視点で書くために)
第11回	過剰な表現は文章を殺す(抑制することの力強さ)
第12回 AL	読む人の側に立つ(独り合点・独り善がりを避ける)
第13回	小論文の書き方(テーマと論点、事実と意見、自問自答)
第14回 AL	文章の切り口について(問題意識)
第15回	違和感・疑問を大事にする

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 70% 定期試験(レポート) 30%
教科書	使用しない
参考文献	必要に応じて授業中に紹介する
オフィスアワー	出講日の講義の前後
事前学習(内容・時間)	新聞のコラムや小説、評論などを読み、気に入った文章を原稿用紙に書き写す。自然に文章力が身につく。(1時間)
事後学習(内容・時間)	添削された自分の課題作文を清書する。(1時間)
備考	レポート課題は4回を予定しています

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ファッションアート サーヴェイ	横越谷勝雄	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13112

科目の概要

ファッション美的感性（ファッション感性のあいまいさ）はファッショントレンド感性分析の手法を用いて数値化する事によりデータとして明確にされる。消費者のファッション商品の購入動機には、ファッション美的感性による動機付けが最も重要視される。ファッション美的感性を中心としたファッションデザインマーケティングをファッションビジネスの変遷と輪郭、産業構造とマーチャンダイジングシステムを学習することでファッションビジネスが消費者に対し、夢と憧れを提供するビジネスであることを実証する。

到達目標

- ファッションビジネスの変遷と輪郭。産業構造とマーチャンダイジングシステムを理解できる。
- ファッションブランド構築のプロセスを理解し、ブランディング成功の戦略を立てられる。
- 将来のライフワークに役立てる、ファッショントレンド感性分析をもとにした美的感性を磨き、高める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ファッション概説 パリ オートクチュールとプレタポルテの成立と概要
第2回 AL	ファッショントレンドクラスター感性分析（コレクション・感想レポート1）
第3回	シルエットクラスター・オケーションクラスター感性分析
第4回	ファッションビジネス基礎知識
第5回	日本におけるファッションビジネスの変遷
第6回	ファッションビジネスの産業構造と問題点
第7回	ファッション産業の機能と業務内容
第8回 AL	ファッショントレンド情報（パリ・ミラノ・ニューヨーク）（コレクション・感想レポート2）
第9回	ファッションビジネスにおけるマーケティングの重要性
第10回	ファッションデザインマーケティング戦略
第11回 AL	マーケットセグメンテーションとブランドポジショニング（コレクション・感想レポート3）
第12回	ファッション消費と消費者ニーズ
第13回	ファッションマーチャンダイジングシステムのフロー
第14回	ファッションブランド事例
第15回	ファッションブランド戦略

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	テキストは使用せず、プリント配付と黒板の板書にて行う。随時ビデオまたはDVDによるトレンド解説（2017～18秋冬パリ・ミラノファッション情報など）や有名ブランドの紹介も行う。
参考文献	使用せず
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間）	常に現在注目されているトレンドを意識し、それが時間とともにどのように変化し、それが消費者の目には、どのように映っているのか、観察眼を鍛える訓練を日常的におこなうこと。（1時間）
事後学習（内容・時間）	毎日の生活のなかで、なにが変化しているか。政治、経済、社会、文化など幅広く見届けるため、毎日必ず新聞を読むこと。（30分）
備考	パリ・ミラノのコレクション・感想レポートと、ビデオによるトレンド情報を鑑賞して、小レポートを提出する。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
マスコミと報道	加畑公一郎	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13113

科目の概要

マスコミは巨大な組織だが、何をどのように報道するかを決めているのは、現場の記者と編集・編成担当者の個人的な経験知であり職業的な勘である。報道の表と裏、バイアス、真実に迫る努力、人びとの目を覚まさせる工夫、報道の受け止め方など、マスコミの報道に向き合うための作法を学ぶ。

到達目標

- 新聞・テレビ・ネットの諸問題を読み解くための知識や考え方を身につけることができる。
- 情報の背後に隠れている問題の本質を説明することができる。
- 感情に飲み込まれずに状況を的確に判断し自分にとって最適な態度を決めることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新聞の読み方
第2回	週刊誌の読み方
第3回 AL	テレビの見方
第4回 AL	メディア・バイアス
第5回	情報を伝えるのは正義か
第6回	大本営発表とマスコミ
第7回 AL	警鐘報道が抱える悩み
第8回	テレビ番組の捏造
第9回	お笑いと熱狂
第10回 AL	番組制作者と視聴者は共犯関係
第11回	群集心理と世論
第12回 AL	スポーツ報道とナショナリズム
第13回 AL	表現の自由を考える
第14回	ネットとマスコミ
第15回 AL	報道の初心について

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% レポート課題 30% 小テスト20%
教科書	使用しない
参考文献	必要に応じ授業で紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	毎回つぎの授業の参考資料を配るので、よく読んで理解し、質問事項などを準備しておくこと。(1時間)
事後学習(内容・時間)	授業で取り上げるキーワードは前後複数の授業にも密接な関連があるので、自分で調べてノートを作ること。(1時間)
備考	新聞を毎日読み、テレビのニュースや特番(ドキュメンタリー)も積極的に見て、問題意識を磨いてほしい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
西洋美術の源流	森口まどか	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13114

科目の概要

本講義では、古代ギリシャ・ローマからルネサンス後期までの西洋美術を概観する。所謂西ヨーロッパを中心とする社会、政治的变化と合わせ、時代ごとの代表的絵画、彫刻や建築物などを通して様式および主題などの変遷を紹介する。作品画像、ビデオ映像などを使い、できるだけ多くの作品を視覚的に捉えながら現在の西ヨーロッパの芸術・文化の根幹を理解できるようにする。

到達目標

- 古代ギリシャ・ローマから16世紀半ばまでの西洋美術の流れを理解できる。
- 各時代の代表的作品を説明できる。
- 各時代、各地域の文化、社会的背景などを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 美術用語・文献紹介など
第2回	古代ギリシャ・ローマ美術1 アルカイク様式、ヘレニズム様式などの彫刻 神殿建築、ローマ期建築など
第3回 AL	古代ギリシャ・ローマ美術2 神殿建築、ローマ期建築、彫刻など
第4回	ビザンティン美術1 初期キリスト教聖堂建築の変遷
第5回 AL	ビザンティン美術2 ハギア・ソフィア大聖堂を中心とする建造物とモザイクおよびイコン
第6回 AL	ロマネスク・ゴシック美術 聖堂建築の変遷とジョットを中心とする聖堂内壁画
第7回 AL	北方ルネサンス美術1 油彩画法の発見、北ヨーロッパ写実主義 ファン・エイク兄弟、ヒエロニムス・ボスを中心に
第8回	イタリア初期ルネサンス美術1 フィレンツェにはじまる芸術 絵画(ピエロ・デラ・フランチェスカ、ボッティチェリ)
第9回 AL	イタリア初期ルネサンス美術2 フィレンツェにはじまる芸術 彫刻(ドナテッロ)
第10回	ルネサンス美術1 フィレンツェからローマ、ミラノ レオナルド・ダ・ヴィンチ
第11回	ルネサンス美術2 フィレンツェからローマ ミケランジェロ、ラファエロ
第12回	ルネサンス美術3 ヴェネツィア派 ジョルジョーネ、ティツィアーノ
第13回	マニエリスム ヴェネツィアにおいて ティントレット、エル・グレコ
第14回	北方ルネサンス美術2 グリュネヴァルト、デューラー
第15回	まとめ 西洋美術の歴史的変遷から現在の美術へ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% レポート課題 20%
教科書	特にないが、適宜参考文献を参照する
参考文献	『西洋美術の歴史』H. W. ジャンソン、A. F. ジャンソン (創元社)
オフィスアワー	火曜日、水曜日、木曜日の中で授業以外の時間
事前学習(内容・時間)	講義時に紹介する内容について、予め参考文献などを通して準備をすること。(1時間)
事後学習(内容・時間)	講義終了時に出す課題に関するレポートを作成する。(1時間30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅰ (茶道と香道の理論と表現)	飯島 照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12201

科目の概要

本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎を配布資料等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯のお菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験し、看護の分野への応用へと誘う。また日本の伝統文化の茶の湯とともに香道の基礎を学び実際に体験学習し、自分の独自のお香作りを行なう。

到達目標

- お客に最善を尽くすという、もてなしの伝統文化の茶の湯・お香の歴史や実践を学び、理解する。
- 茶の湯・お香の歴史や実践を学ぶことで、看護の分野でも生かすことのできる協調性を身につける。
- 茶の湯・お香の実践により、無駄のない所作の正確さを身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	茶の湯入門
第2回 AL	同上
第3回	茶の建築入門
第4回	茶の庭園入門
第5回 AL	実習のための総論
第6回 AL	同上
第7回 AL	茶の湯の基礎・割稽古
第8回 AL	同上
第9回 AL	茶の湯の基礎・盆略点前
第10回 AL	同上
第11回 AL	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする
第12回 AL	茶の湯でもてなす、グループでお茶会をする
第13回 AL	同上
第14回 AL	独自のお香をつくり楽しむ
第15回 AL	同上

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物50% レポート課題50%
教科書	教科書は特に使用しない。必要に応じてプリント等の配布をする。
参考文献	『茶道文化検定公式テキスト3級』今日庵茶道資料館
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	配布資料の確認 (30分)
事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習 (1時間)
備考	日本の伝統文化、茶の湯に関心のあることが望ましい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅱ (生け花の理論と表現)	小林 秀加	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12202

科目の概要

花に触れ、花の表情に気付き、花の命の尊さ・奥深さを学ぶ。授業では、実際に季節の花を活け、花を活かすことを学び、いけ花を通して伝統芸術を学ぶ。併せて自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知る。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等を実践を交えながら学ぶ。

到達目標

- 実践を通して、生け花の本質を探り、伝統芸術の根底にある日本的な心についての知識を身に付ける。
- 季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え表現する能力・技能を修得する。
- 個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現を通してチームワークの大切さを知り、そこで得た考え方を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生け花の誕生 ― 花と人との関係を知り、その歴史を探る ―
第2回	花との対話 ― 実践を通し花を活かす「活け花」を学ぶ ―
第3回 AL	花との調和 ― 空間を演出することを実践 ― (グループワーク)
第4回	表現原理 ― いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ ―
第5回 AL	技と表現様式 ― 技を知り、飾る場所や目的に応じたいけ花を実践 ― (グループワーク)
第6回	伝統行事の花 ― 節供を中心に花との関係を探る ―
第7回	植物の効用 ― 薬用としての植物を学ぶ ―
第8回	植物染料 ― 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える ―
第9回	器との調和 ― 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ ―
第10回	敷板との調和 ― 敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ ―
第11回	京都の四季の花 ― 京都の地に生まれたいけ花、花との関係を知る ― (ディスカッション)
第12回	生け花の根源Ⅰ ― 京都の伝統的な祭り「葵祭」・「時代祭」に触れ花との関係を知る ―
第13回 AL	生け花の根源Ⅱ ― 京都の神社・祇園祭を実際見学し、花との関係を知る ― (発見学習・体験学習)
第14回	四季の花材 ― 四季における豊かな花材を知り、活ける ―
第15回 AL	芸術性の追求 ― 公の場で展示する機会を設け、いけ花の芸術性を探求 ― (グループワーク)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 85% レポート課題 15%
教科書	なし
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業時間前後
事前学習(内容・時間)	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する。(1時間)
事後学習(内容・時間)	授業時に用いた花を持ち帰り、帰宅後花を生け、作品を作る。(1時間)
備考	花材費8,000円(花ハサミの無い人は、ハサミ代2,000円がプラスされますので10,000円になります。)

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
伝統芸術表現研究Ⅲ (書芸術の理論と表現)	池田 方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	2	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字（漢字）と表音文字（仮名）があり、その書体には篆隷楷行草の五體、および仮名文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。書の美を歴史的に賞翫していく中で、筆者の深い人格性や鍛錬した技芸、詩魂や情操の結実した名筆の鑑賞と古典の学書を通して、自らの個性の開発と表現の可能性を追究し、創作する喜びを感じ得る。

到達目標

- 講義を静粛に受けることで、「傾聴力」を身につける。（看護の基本姿勢）
- 書（文字）の芸術的な魅力に目覚める。（鑑賞力の向上）
- 実際に書くという行為の楽しさを知る。（自娛）

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	(講義) 書芸術概論
第2回 AL	(実技) 臨三体千字文
第3回	(講義) 奈良朝写経
第4回 AL	(実技) 臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第5回	(講義) 平安朝三筆・三蹟
第6回 AL	(実技) 臨空海・臨行成
第7回	(講義) 平安朝仮名
第8回 AL	(実技) 仮名いろは文字
第9回	(講義) 鎌倉熊野懷紙
第10回 AL	(実技) 臨篆書・臨隸書
第11回	(講義) 墨蹟(禅の書)
第12回 AL	(実技) 座右の銘
第13回	(講義) 現代の書
第14回 AL	(実技) 自由創作
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 50% レポート課題 50%
教科書	適宜資料を配布する
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業時間前後
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認しておく (15分)
事後学習(内容・時間)	講義で配布した資料をしっかりと読むこと (15分)
備考	筆ペン(太字用)の用意。 受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけないこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語 I (Reading 1)	毛利 郁子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11301

科目の概要

英文読解を通して看護師として心得ておくべき看護・医療英語の理解を深める。そのために不可欠な医学専門用語を習得する。読解を中心に語学学習に必要な4技能全て（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を総合的に活用して英語のコミュニケーション能力を高める。実践的な看護・医療英語および専門知識を深めながら積極的に授業に取り組めるよう毎回ペア・グループワークを組み込んだ授業を行う。

到達目標

- 看護・医療英語の読解を通して国際化する医療現場で生かせる英語力と専門知識を深める。
- 読解力（リーディング）をベースに他の技能（リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に高める。
- 学習した知識を応用しながら、実際の医療現場で外国人患者に対応できる英語力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL	Unit 1: First visit to a Hospital (はじめての来院) その1
第3回	Unit 1: First visit to a Hospital (はじめての来院) その2
第4回 AL	Unit 2: How to Fill in a Registration Form (初診受付の手順) その1
第5回 AL	Unit 2: How to Fill in a Registration Form (初診受付の手順) その2
第6回	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く)
第7回 AL	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms (ブラウン氏の問診—1) その1
第8回 AL	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms (ブラウン氏の問診—1) その2
第9回 AL	Unit 5: Medical Check Up1 (健康診断1—脈拍、血圧、体重の測定の手順)
第10回	Unit 6: Medical Check Up2 (健康診断2—採血、検尿の手順)
第11回 AL	Unit 7: Mr. Brown's diagnosis (診断—1 ブラウン氏のケース) その1
第12回	Unit 7: Mr. Brown's diagnosis (診断—1 ブラウン氏のケース) その2
第13回 AL	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms (アンダーソン氏の問診—2) その1
第14回	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms (アンダーソン氏の問診—2) その2
第15回	前期総復習1
第16回	前期総復習2
第17回	中間試験返却／前期講義振り返り
第18回 AL	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms (アンダーソン氏の症状) その1
第19回	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms (アンダーソン氏の症状) その2
第20回 AL	Unit10: Explaining Blood Test Results (診断—2 血液検査結果の説明) その1
第21回	Unit10: Explaining Blood Test Results (診断—2 血液検査結果の説明) その2
第22回 AL	Unit11: How to Take Medicine (薬の説明) その1
第23回	Unit11: How to Take Medicine (薬の説明) その2
第24回 AL	Unit12: Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診—3 ジョンソン婦人のめまい) その1
第25回	Unit12: Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診—3 ジョンソン婦人のめまい) その2
第26回 AL	Unit13: An MRI Test (MRI検査) その1
第27回	Unit13: An MRI Test (MRI検査) その2
第28回 AL	Unit14: Recommending an Operation (手術の薦め)
第29回	Unit15: Post-operative Care (術後のケア)
第30回	後期総復習1 後期総復習2

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト・レポート課題 50%
教科書	『First Aid! English for Nursing』Akihiko Higuchi & John Tremarco (金星堂)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日(水曜日、木曜日)の授業前後
事前学習(内容・時間)	随時授業で伝える(30分)
事後学習(内容・時間)	毎回必須(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話 I (Listening & Speaking 1)	池田美智子	演習	1年次 通年	必修	2	60	KGE11302

科目の概要

病院を舞台とし、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に学習する。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や薬についての説明や指示のための叙述や命令形を中心に学ぶ。ここで学ぶ会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かせないものが含まれるので、看護以外でも役に立つものが多い。

到達目標

- テキストの中の役立つ表現を身につける。
- 会話だけでなく英文を書くときの最低限のルールを身につける。
- 病院で必要とされるフォームの英文記入が出来るようにする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital(その1)病院にて
第2回 AL	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital(その2) (ペアワーク)
第3回	Lesson 2 Registration: Patient Registration(その1)受付登録
第4回 AL	Lesson 2 Registration: Patient Registration(その2) (ペアワーク)
第5回	Lesson 3 Checking the Registration Card(その1)診察券を確認する
第6回 AL	Lesson 3 Checking the Registration Card(その2) (ペアワーク)
第7回	Lesson 3 Checking the Registration Card(その3)
第8回	Lesson 1からLesson 3までの小テストと解説
第9回	Lesson 4 Finding the Way: Hospital Map(その1)院内案内
第10回 AL	Lesson 4 Finding the Way: Hospital Map(その2) (ペアワーク)
第11回	Lesson 5 Personal History(その1)病歴
第12回 AL	Lesson 5 Personal History(その2) (ペアワーク)
第13回	Lesson 6 Daily Activities(その1)生活習慣について
第14回 AL	Lesson 6 Daily Activities(その2) (ペアワーク)
第15回	Lesson 6 Daily Activities(その3)
第16回	Lesson 7 More about Daily Activities(その1)より詳しい生活習慣について
第17回 AL	Lesson 7 More about Daily Activities(その2) (ペアワーク)
第18回	Lesson 8 Asking about Symptoms(その1)症状について
第19回 AL	Lesson 8 Asking about Symptoms(その2) (ペアワーク)
第20回	Lesson 9 More about Symptoms(その1)詳細な症状の説明
第21回 AL	Lesson 9 More about Symptoms(その2) (ペアワーク)
第22回	Lesson 9 More about Symptoms(その3)
第23回	Lesson 7からLesson9までの小テストと解説
第24回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight(その1)血圧と体重を測る
第25回 AL	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight(その2) (ペアワーク)
第26回	Lesson 11 Laboratory Specimens(その1)検査用検体
第27回 AL	Lesson 11 Laboratory Specimens(その2) (ペアワーク)
第28回	Lesson 12 Taking Medicines(その1)薬剤投与について
第29回 AL	Lesson 12 Taking Medicines(その2) (ペアワーク)
第30回	Lesson 13 Taking Medicines(その3)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 60% レポート課題 40%
教科書	『How Are You Feeling Today? (やさしい看護英語)』 助川尚子編 (成美堂)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	英会話の授業は授業中に集中して聞き取り、書き取りを行うため予習の必要はないが欠席すると聞き逃すことになる。(30分)
事後学習(内容・時間)	その日の授業で習った単語や役立つ表現については必ず復習すること。(30分)
備考	テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書は必ず持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12301

科目の概要

この授業では、夏休みを利用してパリにきたYumiと、彼女が偶然出会ったフランス人Alexとの間で繰り広げられるやり取りを背景として、初級会話と基礎的な文法を身につけます。それと同時に、フランスの文化にも触れながら、フランスという国に興味を抱いてもらうのもこの授業の目的です。従って会話や文法を学ぶだけでなく、フランス語版アニメやフランスの観光名所、パリの街並みといった映像もお見せいたします。

到達目標

- 旅行や日常会話における基本的なフランス語表現を身につけることができる。
- 基礎的な文法事項を習得することで、フランス語の表示や文章の読み・書きができる。
- フランスという国への理解を深めることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション:① ガイダンス ② パリの街並みとフランス語
第2回 AL	フランス語の音と文字:① アルファベ ② つづり字記号の規則 ③ 挨拶などの基本表現
第3回 AL	二人の出会い(1):① 主語人称代名詞 ② 動詞《 être 》「～です」③ 国籍の言い方
第4回 AL	二人の出会い(2):①【対話】「私は日本人です。」② さまざまな国籍 ③【コラム】「他民族社会フランス」
第5回 AL	自己紹介をする(1):① 第一群規則動詞《 -er動詞 》② 形容詞の性・数一致 ③ 名前の言い方
第6回 AL	自己紹介をする(2):①【対話】「私の名前はユミと言います。」② さまざまな言語 ③【コラム】「フランスの日本語学習」
第7回 AL	好きなものを言う(1):① 母音で始まる動詞 ② 名詞の性・数と定冠詞 ③ 疑問文
第8回 AL	好きなものを言う(2):①【対話】「僕は日本が大好きだ！」② 好きなもの(国・趣味)③【コラム】「日本の漫画・アニメ」
第9回 AL	これは何ですか？(1):① 疑問代名詞《 que 》② 不定冠詞と指示代名詞 ③ 形容詞の位置
第10回 AL	これは何ですか？(2):①【対話】「これは何ですか？」② 日用品I ③【コラム】「宮崎駿のアニメ」
第11回 AL	ここはどこ？(1):① 否定文I ② 疑問副詞《 où 》③ 《 il y a ～ 》「～があります」④ 量の表現
第12回 AL	ここはどこ？(2):①【対話】「ここはどこなの？」② 建造物・場所の前置詞 ③【コラム】「パリのカルティエ(地区)」
第13回 AL	年齢を言う(1):① 動詞《 avoir 》「持っている」② 職業を表す名詞 ③ 疑問形容詞《 quel 》
第14回 AL	年齢を言う(2):①【対話】「君はいくつ？」② 数字・年齢 ③【コラム】「日本人は若作り？」
第15回	前期のまとめ
第16回 AL	日本料理店に行く(1):① フランスの童話 ② 部分冠詞 ③ 冠詞のまとめ ④ 定冠詞の縮約
第17回 AL	日本料理店に行く(2):①【対話】「お腹減ってない？」② 食べ物と飲み物 ③【コラム】「パリのレストラン」
第18回 AL	布団が好き(1):① 所有形容詞 ② 人称代名詞の強勢形
第19回 AL	布団が好き(2):①【対話】「妹は布団で寝ている。」② 家族 ③【コラム】「日本の生活様式」
第20回 AL	店で買い物をする(1):① 指示形容詞《 ce 》② 指示代名詞《 celui 》③ 比較級 ④ 疑問副詞《 combien 》
第21回 AL	店で買い物をする(2):①【対話】「私は急須が欲しいのですが。」② 日用品II ③【コラム】「パリで出会う日本のもの」
第22回 AL	ジャパン・エキスポに行く(1):① 命令形 ② 補語人称代名詞 ③ 中性代名詞《 y 》
第23回 AL	ジャパン・エキスポに行く(2):①【対話】「君は行かないの？」② 曜日・月 ③【コラム】「ジャパン・エキスポ」
第24回 AL	天候を言う(1):① 代名動詞 ② 非人称構文 ③ 女性形容詞の特殊な形
第25回 AL	天候を言う(2):①【対話】「暑い！」② 天候・時刻 ③【コラム】「フランスの気候」
第26回 AL	美術館に行く(1):① 疑問代名詞《 qui 》② 複合過去I
第27回 AL	美術館に行く(2):①【対話】「素晴らしい、浮世絵は！」② 衣服と色 ③【コラム】「ジャポニズムとクール・ジャパン」
第28回 AL	バカンスの過ごし方(1):① 複合過去II ② 否定文II ③ 疑問副詞《 comment 》
第29回 AL	バカンスの過ごし方(2):①【対話】「多くの人がバカンスに出掛けた。」② 乗り物と行き先 ③【コラム】「バカンス事情」
第30回	後期のまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト(筆記、実技) 60% 中間試験(筆記) 20% 定期試験(筆記) 20%
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール!)』藤田裕二(朝日出版社)
参考文献	授業中に紹介します
オフィスアワー	授業時間の前後
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通して置いて下さい。(10分)
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを習得するためにも、その週に学んだ項目については復習して下さい。(30分)
備考	授業では毎回、発音および練習問題をしてもらい提出して頂きますが、翌週に添削をしてお返しします。実際、語学には地道な努力が必要ですが、まずは興味を持つことが大事ですので、その国の文化を楽しみながら少しずつ学んで下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話 I	潘 建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12302

科目の概要

中国語の入門クラス。前期前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確かなものにしたい。後期前半ではより複雑な会話を練習すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やす。

到達目標

- 発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳することができる。
- 授業で学んだ内容を活用し、簡単な会話を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、中国語の特徴
第2回	発音の基本 ①声調 ②単母音
第3回	音の基本 ③複合母音
第4回	発音の基本 ①子音
第5回	発音の基本 ②鼻母音
第6回	発音の基本 ①声調の組み合わせ
第7回	発音の基本 ②発音の総合的な練習 ③小テスト
第8回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第9回 AL	第一課 ③「吗」疑問詞 ④名前の言い方(協働学習)
第10回	第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第11回 AL	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「的」(協働学習)
第12回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」
第13回 AL	第三課 ③反復疑問詞 ④副詞「也」と「都」(協働学習)
第14回	総合練習
第15回	中国文化紹介と中間試験及び解説
第16回	第四課 ①場所をあらわす代名詞 ②存在をあらわす「在」
第17回 AL	第四課 ③動詞の重ね型 ④省略疑問文を作る「呢」(協働学習)
第18回	第五課 ①数詞 ②量詞
第19回 AL	第五課 ③「几」と「多少」 ④語気助詞「吧」(協働学習)
第20回	第六課 ①存在をあらわす「有」 ②連動文
第21回 AL	第六課 ③月日、曜日 ④時刻(協働学習)
第22回	総合練習、中国文化紹介
第23回	中国文化紹介と小テスト
第24回	第七課 ①助動詞「要」「想」 ②介詞「在」「从」
第25回 AL	第七課 ③完了をあらわす「了」(協働学習)
第26回	第八課 ①助動詞「能」「会」「可以」 ②経験をあらわす「过」
第27回 AL	第八課 ③時間の長さのあらわし方(協働学習)
第28回	第九課 ①介詞「給」「对」 ②動詞の進行をあらわす「正」「在」「正在」
第29回	第九課 ③動作・状態の持続をあらわす「着」
第30回	定期試験及び解説

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）40％ 中間試験（筆記）30％ レポート課題及び小テスト 30％
教科書	『中国語ポイント42』本間史、孟広学（白水社）
参考文献	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間）	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく。（1時間）
事後学習（内容・時間）	毎回習った会話文を復習しておく。（1時間）
備考	授業に出席するとき必ず教科書を持参しよう。発音練習時は積極的に口に出して練習しよう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ビジネス中国語	潘 建秀	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12303

科目の概要

ビジネス中国語入門コースである。初めて中国語を勉強する方やある程度中国語を学んだ人のためのコースである。中国語の基本知識や発音から始まり、基本文法と基礎会話を導入する。ビジネスに欠かせない中国語を段階的に学べる簡単な中国語会話を学習する。例えば、接待用語、連絡用語、依頼や約束等の商談用語を通じてビジネス中国語の基礎を固めていく。

到達目標

- 発音記号（ピンイン）を正しく表記し、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語から中国語、中国語から日本語に訳することができる。
- 初級のビジネスコミュニケーション能力を身につけることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、基本知識、発音と文法特徴
第2回	ピンイン紹介、母音の特徴①単母音
第3回	子音、軽声
第4回	母音の特徴②複合母音
第5回	母音の特徴③鼻母音
第6回	声調変化と発音の総合練習
第7回	小テスト、中国文化紹介
第8回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文
第9回 AL	第一課 ③「吗」疑問文 ④名前の言い方（協働学習）
第10回	第二課 ①動詞述語文 ②場所代名詞
第11回 AL	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「先…然后」（協働学習）
第12回	第三課 ①形容詞述語文 ②指示代名詞
第13回 AL	第三課 ③反復疑問文 ④副詞「也」 ⑤構造助詞「的」（協働学習）
第14回	総合練習
第15回	中間試験及び解説と中国文化の紹介
第16回	第四課 ①動詞「有」 ②助数詞
第17回 AL	第四課 ③動詞の重ね型 ④数字（協働学習）
第18回	第五課 ①時刻の言い方 ②名詞述語文
第19回 AL	第五課 ③「了」 ④所在を表す「在」（協働学習）
第20回	第六課 ①前置詞「在」 ②「（一）边…（一）边…」
第21回	第六課 ③「快/要…了」 ④存現文 ⑤動詞+过
第22回	小テスト、中国文化紹介
第23回	第七課 ①「要」「得」+動詞 ②時間詞
第24回 AL	第七課 ③「打算」「想」+動詞 ④時間量補語 ⑤選択疑問文（協働学習）
第25回	第八課 ①方位詞 ②連動文
第26回 AL	第八課 ③介詞「从」「到」「离」 ④「（是）…的」 ⑤度量衡（協働学習）
第27回	第九課 ①「一…就」 ②（有）多+形容詞
第28回	第九課 ③副詞「就」「才」 ④概数表現 ⑤比較表現
第29回	総合練習
第30回	定期試験、中国文化の紹介

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）40％ 中間試験（筆記）30％ レポート課題及び小テスト 30％
教科書	『仕事のための基礎中国語』 荘厳、佐藤貴子（金星堂）
参考文献	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間）	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく。（1時間）
事後学習（内容・時間）	毎回習った会話文を復習しておく。（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語 I	中川 光	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12304

科目の概要

イタリア語の基礎的な表現と仕組みを身につけてもらいます。毎回、文法事項と会話表現を平行して学んでいきます。授業はできるだけ発声したり、書いたりする作業をしてもらいながら進めます。テキストとプリントを併用しながら進めていきます。

到達目標

- イタリア語の基本的な仕組みを理解する。
- イタリア旅行に使えるレベルの表現を身につける。
- 繰り返し発声して、イタリア語らしい発音を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語・イタリアの紹介(1)
第2回 AL	発音と読み方 あいさつ
第3回 AL	名詞 近況をたずねる表現・自己紹介
第4回 AL	冠詞 お礼の表現・声かけ
第5回 AL	形容詞(1) 状況を表す
第6回 AL	形容詞(2) お詫び
第7回 AL	動詞essere(1) 値段の尋ね方
第8回 AL	動詞essere(2) 数字の言い方
第9回 AL	不規則動詞(1) 希望を伝える
第10回 AL	不規則動詞(2) 感情を伝える
第11回 AL	不規則動詞(3) 予定を伝える
第12回 AL	規則動詞(1) 必要性を訴える
第13回 AL	規則動詞(2) 好みを言う
第14回 AL	規則動詞(3) ものを尋ねる
第15回 AL	前期のまとめ (授業時間とは別に定期試験期間に中間試験を行います)
第16回 AL	前期の復習 イタリアの紹介(2)
第17回 AL	冠詞前置詞 場所を尋ねる
第18回 AL	副詞 有無を尋ねる
第19回 AL	所有形容詞 どれか尋ねる
第20回 AL	数詞・時間表現 手段を尋ねる
第21回 AL	疑問詞 所要時間を尋ねる
第22回 AL	不規則動詞(1) 所有を尋ねる
第23回 AL	不規則動詞(2) 依頼する
第24回 AL	不規則動詞(3) 許可を求める
第25回 AL	目的代名詞(1) 時間を尋ねる
第26回 AL	目的代名詞(2) 曜日日付を言う
第27回 AL	再帰動詞(1) 聞き返す
第28回 AL	再帰動詞(2) 励ましの表現・天候表現
第29回 AL	近過去 困ったときの表現
第30回 AL	総復習 (定期試験期間中に期末試験を行います)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% レポート課題(毎回授業時) 30% 小テスト20%
教科書	『イタリア語がびっくりするほど身につく本』鶴田真子美(あさ出版)
参考文献	各種伊和辞典(授業内で指示します)
オフィスアワー	授業前後の休み時間
事前学習(内容・時間)	テキストをあらかじめ読んでおく(目安として約10分)
事後学習(内容・時間)	例文の音読暗唱、単語の綴り書き(約20分)
備考	授業以外にもイタリア語と接する機会をつくってください(自宅復習、TVラジオイタリア語講座、インターネットなど)。授業内の小テスト時期はその都度指示します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	溝邊 敬一	演習	1年次 通年	選択	2	60	KGE12305

科目の概要

ドイツ語の入門・初級として、簡単な日常会話、基礎的な文章の読解に必要かつ十分な文法知識を学び、ドイツ語・ドイツ文化の理解を深める。ドイツ語を学ぶことを通して、ことば（コミュニケーション）の面白さを知る。

到達目標

- 文法知識を理解し、読解力および基礎的な発話力を身につける。
- ドイツ語の特性である論理的・倫理的な思考方法を身につける。
- 外国語学習を通じて、他者への理解と自己（自身および日本語・日本文化）を見つめ直す。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ドイツ語・ドイツ文化(圏)概説;ドイツ語のアルファベット
第2回	綴り字と発音の原則;日常の挨拶表現と数詞
第3回 AL	発音の復習と応用(グループワーク、朗読)——ドイツ語発音の基本を確実にする
第4回	第1課 動詞の現在人称変化(1);文の構造
第5回 AL	第1課 練習問題(グループワーク、朗読)
第6回	第2課 動詞の現在人称変化(2);sein とhaben
第7回 AL	第2課 練習問題(グループワーク、朗読)
第8回 AL	第3課 名詞(性と複数形);練習問題(グループワーク、朗読)
第9回	第4課 名詞・代名詞の格変化(1);第5課 格変化(2)
第10回 AL	第4課・第5課 練習問題(グループワーク、朗読)
第11回 AL	第6課 人称代名詞(格と語順);第6課 練習問題(グループワーク、朗読)
第12回 AL	第7課 疑問文と否定文;第7課 練習問題(グループワーク、朗読)
第13回	第8課 前置詞(1);第9課 前置詞(2)
第14回 AL	第8課・第9課 練習問題(グループワーク、朗読)
第15回	前期のまとめ;チェックテスト
第16回	第10課 話法の助動詞;応用文
第17回 AL	第10課 練習問題(グループワーク、朗読)
第18回	第11課 分離動詞;第12課 再帰動詞
第19回 AL	第11課・第12課 練習問題(グループワーク、朗読)
第20回	第13課 動詞の3基本形・第14課 過去時称
第21回 AL	第13課・第14課 練習問題(グループワーク、朗読)
第22回	第15課 現在完了時称
第23回 AL	第15課 練習問題(グループワーク、朗読)
第24回	第16課 従属接続詞と副文(従属文);第17課「zu-不定詞」
第25回 AL	第16課・第17課 練習問題(グループワーク、朗読)
第26回 AL	第18課 形容詞(付加語用法)第19課 形容詞(比較法);第18課・第19課 練習問題(グループワーク、朗読)
第27回 AL	第20課 受動文;第20課 練習問題(グループワーク、朗読)
第28回 AL	第21課 関係代名詞;第21課 練習問題(グループワーク、朗読)
第29回	第22課 接続法(仮定法)
第30回	後期のまとめ;後期定期試験について

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）60％ レポート課題 40％
教科書	『Web Drillで学ぶドイツ文法』田畑義之編著（朝日出版社、2017）必携
参考文献	独和辞典（第1回授業で紹介する）必携
オフィスアワー	授業日の午後1時～2時（非常勤講師室）
事前学習（内容・時間）	既習内容のチェック（30分）
事後学習（内容・時間）	練習問題（30分）
備考	日ごろから、ドイツ・オーストリア・スイス関連のニュース記事に注目して下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
教育学概論	伊佐 夏実	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23101

科目の概要

教育学の対象は、学校教育のような制度化された側面だけでなく、家庭や地域で行われる人間形成としての側面も含んでいる。本講義では、現代教育の諸課題について学ぶことを通して、教育学の意義や役割を概説する。その際特に、マイノリティの教育問題に焦点をあて、教育の社会的機能について検討する。

到達目標

- 教育の機能、目的、方法等について、基本的な知識を身につけ、説明することができる。
- 日本の教育の課題を考察し、必要な対応について自ら考えることができる。
- グループワークを通して、共同的な学びの意義を知ることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	教育学ってなんだろう？
第2回 AL	発達と教育:遺伝か環境か？(ディスカッション)
第3回 AL	子どもの成長・発達をめぐる諸問題(ディスカッション)
第4回 AL	現代の子育てと家族をめぐる諸問題(ディスカッション)
第5回 AL	学校教育の歴史と展開(ディスカッション)
第6回 AL	教育の現代的課題:学力低下(ディスカッション)
第7回 AL	教育の現代的課題:学力格差(ディスカッション)
第8回 AL	教育の現代的課題:格差・貧困社会における子どもの教育(ディスカッション)
第9回 AL	教育の現代的課題:階層の再生産と貧困の世代間連鎖 (ディスカッション)
第10回 AL	教育の現代的課題:ニューカマー外国人の教育実態 (ディスカッション)
第11回 AL	教育の現代的課題:ニューカマー外国人のための教育(ディスカッション)
第12回 AL	教育の現代的課題:教育のジェンダー差(ディスカッション)
第13回 AL	教育の現代的課題:障がい児教育・インクルーシブ教育(ディスカッション)
第14回 AL	社会的包摂を目指す学校づくり(ディスカッション)
第15回 AL	教育の未来を構想する(ディスカッション)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% レポート課題 30% 小テスト 20%
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。
参考文献	『教育社会学への招待』若槻健ほか (大阪大学出版会)
オフィスアワー	出講日の授業前後
事前学習(内容・時間)	毎時間のテーマに即した文献を提示しますので、それを事前に読んでくること。(1時間)
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること。(1時間)
備考	本講義は、造形芸術学部制作力創造学科に在籍し、教員免許状の取得を希望する学生対象の授業との複式で開講します。講義では毎回事前に提示した文献を元に学生間のディスカッションを行います。ディスカッションに参加できない場合出席とは認められないので、出席前の予習は必ずしておくこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	小川 詩乃	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

わたしたち人間は生まれてから死ぬまで心身ともに「変化し続ける生き物」です。こうした変化を全て「発達」ととらえ、人間のこころや身体、行動などの変化を研究するのが「発達心理学」という学問です。本講義では、人間の胎児期から高齢期までの各発達段階における特徴、および、発達障害について講義します。また本講義では、子どもの行動への対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 人間の各発達段階における発達の特性についての基礎知識を修得する。
- 発達障害の特性を理解し、発達障害児者への支援・対応について説明できる。
- 応用行動分析の基本概念を理解し、子どもの行動への対応についての考え方を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	発達心理学とは 子どもの行動への対応①
第2回 AL	胎児期・乳児期 子どもの行動への対応②
第3回 AL	幼児期① 子どもの行動への対応③
第4回 AL	幼児期② 子どもの行動への対応④
第5回 AL	発達障害① 子どもの行動への対応⑤
第6回 AL	児童期① 子どもの行動への対応⑥
第7回 AL	児童期② 子どもの行動への対応⑦
第8回 AL	発達障害② 子どもの行動への対応⑧
第9回 AL	青年期 子どもの行動への対応⑨
第10回 AL	成人期① 子どもの行動への対応⑩
第11回 AL	成人期② 子どもの行動への対応⑪
第12回 AL	発達障害③ 子どもの行動への対応⑫
第13回 AL	高齢期① 子どもの行動への対応⑬
第14回 AL	高齢期② 子どもの行動への対応⑭
第15回 AL	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% レポート課題 30%
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考文献	入門書『手にとるように発達心理学がわかる本』小野寺敦子(かんき出版) 入門書『史上最強図解よくわかる発達心理学』林洋一(ナツメ社) 『看護のための人間発達学』舟島なをみ(医学書院)
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	講義終了時に、次回講義に関するウェブサイト(例:厚生労働省の乳幼児身体発育調査等)の閲覧を指示するので、みて理解しておくこと。(30分)
事後学習(内容・時間)	講義で取り上げた内容を意識して、新聞やテレビ等のニュースをみておくこと。(60分)
備考	発達心理学で扱う内容は幅広く、本講義ですべてをお伝えすることはできません。このため、可能な限りみなさんの関心に沿った授業内容にしたいと考えています。毎回のレポートに、積極的に感想や質問、知りたいことなど記述するようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	木村 千尋	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

心理学を基礎に男性、女性の性差を考えると共に、ジェンダーの歴史を知り、差別や抑圧に満ちた現実を変える為の実践活動、フェミニズムや同性愛者解放運動、近年の日本政府による男女参画行政などとの密接な結びつきについて考える。また、最新の科学的知見といった客観的な情報にもとづき、ジェンダーやセクシュアリティという概念を駆使して、自分自身の発見や、看護に必要なジェンダーを学ぶ。

到達目標

- ジェンダーから見えてくる社会を理解できる知識を身につける。
- 多様な生き方を目指した看護職の考え方を身につける。
- 個人の特徴を生かしたミッション・ビジョン・バリュー設定の技能を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	オリエンテーション・ジェンダー論概論
第2回 AL	教育の中で伝わるジェンダーのメッセージ、隠れたカリキュラム
第3回 AL	家族変貌とジェンダーのゆくえ
第4回 AL	主婦の存在・母性って
第5回 AL	ジェンダーフリー
第6回 AL	仕事にまつわるジェンダー・ギャップ
第7回 AL	ジェンダーとセクシュアリティ
第8回 AL	性暴力をどう対処するのか
第9回 AL	見た目とモテ問題
第10回 AL	恋愛心理学・恋愛がもつ意味とチカラ
第11回 AL	ジェンダーが強い身体の役割
第12回 AL	メディアに潜むジェンダー・ステレオタイプ
第13回 AL	フェミニズムと学問
第14回 AL	ケーススタディ・看護とジェンダー
第15回 AL	性別役割・自分らしく生きる為に

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 80% 成果物 20%
教科書	プリント随時配布
参考文献	適宜紹介
オフィスアワー	出講日の授業前後
事前学習(内容・時間)	新聞・雑誌・インターネット等を通して、講義内容に関する情報を事前に収集する。(15分)
事後学習(内容・時間)	毎講義後、授業内で扱ったテーマについて家族、友人と意見を交わす。(15分)
備考	グループワークで意見を出して、興味の幅を広げてもらう事を望みます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
民俗学	鈴木 洋昭	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

柳田国男の民俗学を中心に学問の対象・方法・課題について説明する。民俗学の対象である「民俗」とは、人々の生活習慣である。生活の中の社会・経済・宗教・芸能など諸側面における習慣と伝統であり、知識・技術・観念などの生活の知恵といえる。そうした民俗の分析を通して、具体的には恋愛と結婚をテーマに、人間とは何かを考えることにより、看護の現場や自身の生涯設計においても役立てたい。

到達目標

- 人間の生命活動を理解し、比較論的研究法や民俗誌的研究法といった民俗学的方法論を身につける。
- 生活文化とその歴史的解明を行う中で、日本の伝統的な社会と文化を体系的に修得する。
- われわれの今生きている現在が、「民俗」によっていかに拘束されているかが理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	はじめに
第2回	民俗学とは何か？
第3回	民俗とは何か？
第4回 AL	柳田国男と民俗学
第5回	動作伝承と言語伝承
第6回	昔話と伝説
第7回	民俗学の方法論（1）
第8回	民俗学の方法論（2）
第9回	民俗学の方法論（3）
第10回 AL	人生と儀礼（1） 誕生～成人
第11回 AL	人生と儀礼（2） 恋愛
第12回 AL	人生と儀礼（3） 結婚
第13回 AL	人生と儀礼（4） 死
第14回	民俗学の近代化
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	なし
参考文献	その都度紹介する
オフィスアワー	授業終了後30分程度
事前学習（内容・時間）	講義時に紹介するテーマについて事前に調べる（30分）
事後学習（内容・時間）	講義終了後、講義から得られたものや感じたものを簡単にまとめる（30分）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	朝野 富三	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療と社会の関係についてジャーナリズムの視点から考える。医療を見る目は患者・家族だけでなく一般社会や国・行政もかつてないほどに厳しくなっている。それは同時に医療への期待の大きさの表れでもあろう。ジャーナリズムが医療ニュースについてどのような取り上げ方をしているのかを見ていくことを通じて、「あるべき医療」「求められている医療」とは何かを探っていきたい。

到達目標

- 社会と医療の関係性の知識を修得する。
- 患者・家族とのコミュニケーション（人間関係）能力の必要性を説明できる。
- 社会の視点からあるべき医療の姿を考える力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス・医療と社会について
第2回 AL	医療とジャーナリズム(レポート提出)
第3回 AL	先端医療の倫理(レポート提出)
第4回 AL	地域医療と社会(レポート提出)
第5回 AL	格差社会における医療のあり方(レポート提出)
第6回 AL	医療過誤・医療事故の病理(レポート提出)
第7回 AL	医療と「生死観」(レポート提出)
第8回 AL	グループ討議
第9回 AL	医療テーマの選択(グループワーク)
第10回 AL	医療テーマに関する調査・研究①
第11回 AL	医療テーマに関する調査・研究②
第12回 AL	医療テーマに関する調査・研究③
第13回 AL	調査・研究結果の発表(プレゼンテーション)①
第14回 AL	調査・研究結果の発表(プレゼンテーション)②
第15回 AL	医療と社会を考える(レポート提出)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 60% 成果物 40%
教科書	なし
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終了後30分もしくは相談に応じる。
事前学習(内容・時間)	できるだけ新聞に目を通し、特に医療関係の記事は読むこと (30分)
事後学習(内容・時間)	講義終了後にレポート課題を出すのでノートの整理をしておくこと (2時間)
備考	・原則として毎回ミニレポートを書いてもらいます。できれば辞書を持参のこと。 ・調査・研究の結果はパワーポイントを使って発表してもらいます。パソコンにも習熟しておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	毛利 郁子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など看護・医療の現場で役立つ様々な知識の基礎と応用を学びます。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語コミュニケーション能力を高めます。ペアワーク、グループワーク・ディスカッションなどアクティブラーニングを取り入れた参加型授業です。

到達目標

- 看護・医療英語における専門用語や言い回しを習得し、看護・医療英語の基礎を身につける。
- 国際的な医療従事者として心得ておくべき基本的な英作文や対話の知識を習得する。
- 医療現場において、実際に臨機応変に英語で対応できる様、習得した知識をスムーズに運用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL	Unit 1: First Visit 初診・問診票 その1
第3回	Unit 1: First Visit 初診・問診票 その2
第4回 AL	Unit 2: At the Examination Room 診察室での基本会話 その1
第5回	Unit 2: At the Examination Room 診察室での基本会話 その2
第6回 AL	Unit 3: Flu Symptoms インフルエンザの症状 その1
第7回	Unit 3: Flu Symptoms インフルエンザの症状 その2
第8回 AL	Unit 4: Pain Problems 痛みへの対処 その1
第9回	Unit 4: Pain Problems 痛みへの対処 その2
第10回 AL	Unit 5: Stomachache 胃痛 その1
第11回	Unit 5: Stomachache 胃痛 その2
第12回 AL	Unit 6: Abdominal Pain 腹痛 その1
第13回	Unit 6: Abdominal Pain 腹痛 その2
第14回 AL	Unit 7: Urinalysis 尿検査 その1
第15回	Unit 7: Urinalysis 尿検査 その2
第16回	前期総復習 中間試験返却・前期講義振り返り
第17回 AL	Unit 8: Cholesterol コレステロール その1
第18回	Unit 8: Cholesterol コレステロール その2
第19回 AL	Unit 9: Anemia 貧血 その1
第20回	Unit 9: Anemia 貧血 その2
第21回 AL	Unit10: Injury 怪我 その1
第22回	Unit10: Injury 怪我 その2
第23回 AL	Unit11: Operation Period 手術の準備 その1
第24回	Unit11: Operation Period 手術の準備 その2
第25回 AL	Unit12: Alcohol Poisoning アルコール中毒 その1
第26回	Unit12: Alcohol Poisoning アルコール中毒 その2
第27回 AL	Unit13: Ultrasound Examination 超音波検査 その1
第28回	Unit13: Ultrasound Examination 超音波検査 その2
第29回	Appendix 2 表現集 2
第30回	後期総復習1 後期総復習2

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト・レポート課題 50%
教科書	『Medical English Clinic』西原俊明、西原真弓、Tony Brown (センゲージ・ラーニング)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日(水曜日、木曜日)の授業前後
事前学習(内容・時間)	随時授業で伝える (30分)
事後学習(内容・時間)	毎回授業の復習をし、小テストに備える (30分)
備考	テキスト、ノート、辞書、筆記用具、配布プリント 各Unitその1で学んだ内容をその2で実演できるようにする

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ (Writing 1)	池田美智子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21302

科目の概要

医療、健康、栄養などの分野から現代生活に密接に結び付いた興味深い記事を新聞、雑誌から読み進める。英語Ⅰの基礎の上に、さらに応用的で高度な英語読解力、英作文能力を身につける。また、医療関連の記事を読むことで、そこで取り上げられた内容の背景まで理解する。

到達目標

- 医療ジャーナルに掲載されている記事の英語表現を用いて、英作文を作れるようになる。
- 練習問題を解くことで本文の内容をより理解し、医療関連の語彙を増やす。
- 医療関連記事を読むことで、様々な病気や治療への英語の表現に関する知識を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Study Links Stress-induced Hormone to Snacking by Women(その1)女性がポテトチップスに手が伸びるのはストレスのせい？
第2回 AL	Study Links Stress-induced Hormone to Snacking by Women(その2)
第3回	Prunes Could be Best Defense against Cancer, Heart Disease(その1)体に良い野菜や果物
第4回 AL	Prunes Could be Best Defense against Cancer, Heart Disease(その2)
第5回	Some Foods, Medicines Don't Mix(その1)薬との飲み合わせに注意
第6回 AL	Some Foods, Medicines Don't Mix(その2)
第7回	Is It Good Medicine?(その1)アメリカで人気の漢方治療
第8回 AL	Is It Good Medicine?(その2)
第9回	How Does Alcohol Affect the Body?(その1)お酒を飲んだら体の中で何がおきるのか？
第10回 AL	How Does Alcohol Affect the Body?(その2)
第11回	Beat Your Risk Factors(その1)アメリカの女性と病気の危険性
第12回 AL	Beat Your Risk Factors(その2)
第13回	Drug-resistant Tuberculosis Widespread(その1)薬の効かない結核
第14回 AL	Drug-resistant Tuberculosis Widespread(その2)
第15回	Drug-resistant Tuberculosis Widespread(その3)
第16回	Ban on Smoking Rapidly Improves Bartenders' Health: California Study(その1) 喫煙と健康と社会
第17回 AL	Ban on Smoking Rapidly Improves Bartenders' Health: California Study(その2)
第18回	Ban on Smoking Rapidly Improves Bartenders' Health: California Study(その3)
第19回	A Change of Heart(その1)ようやく再開された日本の心臓移植
第20回 AL	A Change of Heart(その2)
第21回	What about the Kids?(その1)子供のエイズ治療
第22回 AL	What about the Kids?(その2)
第23回	Helping Memory Function(その1)脳の機能を助ける酵素
第24回 AL	Helping Memory Function(その2)
第25回	Time, Money Crucial in Fighting Diseases(その1)急がれる感染症対策
第26回 AL	Time, Money Crucial in Fighting Diseases(その2)
第27回	Time, Money Crucial in Fighting Diseases(その3)
第28回	Six Percent of U.S. Doctors Have Aided in Suicide(その1)医療現場で行われる安楽死
第29回 AL	Six Percent of U.S. Doctors Have Aided in Suicide(その2)
第30回	Six Percent of U.S. Doctors Have Aided in Suicide(その3)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% レポート課題・小テスト50%
教科書	『Close up on Medical Topics(現代の医療と生活)』竹内典子編著 (三修社)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	単語などは必ず事前に調べておくこと。(30分)
事後学習(内容・時間)	各課が終わるごとに単語試験を実施するので復習しておくこと。(30分)
備考	テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書は必ず持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ（Writing 1）	永田 節子	演習	2年次 通年	必修	2	60	KGE21303

科目の概要

英語Ⅰの基礎の上に、ライティングを中心に総合的な英語力を伸ばします。グローバル化が進み、医療や看護の現場でも外国人の患者数が増え、英語でコミュニケーションを取ることが求められるようになっていきます。そこで、医療現場で本当に必要な英語表現や、役に立つ専門用語を身につけます。

到達目標

- ライティングを中心とした総合的な英語力を身につける
- 看護英語の応用力をつける
- 医療や看護に関する専門用語や英語表現を習得する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回 AL	Unit 1 Power of Language 言葉の力
第3回 AL	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう(1)
第4回 AL	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう(2)
第5回 AL	Unit 3 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう(1)
第6回 AL	Unit 3 How are you feeling? 気分を聞いてみましょう(2)
第7回 AL	Unit 4 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう(1)
第8回 AL	Unit 4 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう(2)
第9回 AL	Unit 5 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう(1)
第10回 AL	Unit 5 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう(2)
第11回 AL	Unit 6 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう(1)
第12回 AL	Unit 6 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう(2)
第13回 AL	Unit 7 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう(1)
第14回 AL	Unit 7 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう(2)
第15回 AL	Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 病歴を聞きましょう(1)
第16回 AL	Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 病歴を聞きましょう(2)
第17回 AL	Unit 9 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう 1(1)
第18回 AL	Unit 9 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう 1(2)
第19回 AL	Unit 10 You need to have an X-ray. 検査の手順を説明しましょう 2(1)
第20回 AL	Unit 10 You need to have an X-ray. 検査の手順を説明しましょう 2(2)
第21回 AL	Unit 11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう(1)
第22回 AL	Unit 11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう(2)
第23回 AL	Unit 12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう(1)
第24回 AL	Unit 12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう(2)
第25回 AL	Unit 13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう(1)
第26回 AL	Unit 13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう(2)
第27回 AL	Unit 14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞いてあげましょう(1)
第28回 AL	Unit 14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞いてあげましょう(2)
第29回 AL	Unit 15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう(1)
第30回 AL	Unit 15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう(2)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50％ レポート課題 50％
教科書	『LIFESAVER: Basic English in Medical Situations』井上真紀、佐藤利哉（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間）	テキストに目を通し、単語や熟語など調べておくこと（2時間）
事後学習（内容・時間）	授業内容やテキストを復習し、必要な表現や単語を覚えること（1時間）
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ (Listening & Speaking 2)	永田 節子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22301

科目の概要

看護に関する語彙を使った会話文を使用し、リスニングやスピーキングをとおして英会話能力を身に着ける。日本語を解しない患者とコミュニケーションを取り、症状、体調、治療に対する疑問、希望や不満を理解し、薬の飲み方の説明や治療上必要な注意事項、患者の症状、病名、治療法の説明、また、病院内の案内等に必要な英語表現を習得する。

到達目標

- 英会話能力を身につける
- 医療・看護に必要な語彙を身につける
- 現場で実際に使用できるように様々な英語表現を習得する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回 AL	Unit 1 Getting to Know the Patients 1
第3回 AL	Unit 2 Getting to Know the Patients 2 (1)
第4回 AL	Unit 2 Getting to Know the Patients 2 (2)
第5回 AL	Unit 3 Getting to Know the Patients 3 (1)
第6回 AL	Unit 3 Getting to Know the Patients 3 (2)
第7回 AL	Unit 4 Getting to Know the Patients 4 (1)
第8回 AL	Unit 4 Getting to Know the Patients 4 (2)
第9回 AL	Unit 5 Examination 1 (1)
第10回 AL	Unit 5 Examination 1 (2)
第11回 AL	Unit 6 Examination 2 (1)
第12回 AL	Unit 6 Examination 2 (2)
第13回 AL	Unit 7 Instructing Medication (1)
第14回 AL	Unit 7 Instructing Medication (2)
第15回 AL	Unit 8 Treating the Patients 1 (1)
第16回 AL	Unit 8 Treating the Patients 1 (2)
第17回 AL	Unit 9 Treating the Patients 2 (1)
第18回 AL	Unit 9 Treating the Patients 2 (2)
第19回 AL	Unit10 Treating the Patients 3 (1)
第20回 AL	Unit10 Treating the Patients 3 (2)
第21回 AL	Unit11 Operation (1)
第22回 AL	Unit11 Operation (2)
第23回 AL	Unit12 Pregnancy (1)
第24回 AL	Unit12 Pregnancy (2)
第25回 AL	Unit13 In the Hospital (1)
第26回 AL	Unit13 In the Hospital (2)
第27回 AL	Unit14 Emergencies (1)
第28回 AL	Unit14 Emergencies (2)
第29回 AL	Unit15 Living a Healthy Life (1)
第30回 AL	Unit15 Living a Healthy Life (2)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50% レポート課題 50%
教科書	『実践看護英語—専門用語の習得と英会話能力の養成—』濱田真由美（英宝社）
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間）	テキストに目を通し、わからない単語や熟語を調べておくこと。（2時間）
事後学習（内容・時間）	授業内容やテキストを復習し、英語表現や医療・看護に関する単語を復習しておくこと。（1時間）
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ（Reading 2）	永田 節子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22302

科目の概要

リーディングを中心として総合的な英語力をつけるとともに、特に医療・看護の現場で役立つ英語表現を習得します。近年、急速なグローバル化の進展に伴い、看護分野における英語力はその必要性を増してきています。このテキストは将来、病院などの医療系の現場で働く際に求められることを想定して作成されており、具体的な看護事例を題材として取り上げています。

到達目標

- リーディングを中心とした総合的な英語力を身につける
- 看護英語の応用力を身につける
- 様々な医療・看護の英語表現を習得する

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Introduction
第2回 AL	Unit 1 Risk for Injury:How to Maintain Safety 安全な生活環境
第3回 AL	Unit 2 Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene 身体の清潔
第4回 AL	Unit 2 Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene 身体の清潔
第5回 AL	Unit 3 Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress 呼吸困難の看護
第6回 AL	Unit 3 Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress 呼吸困難の看護
第7回 AL	Unit 4 Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance 体液バランスの管理
第8回 AL	Unit 4 Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance 体液バランスの管理
第9回 AL	Unit 5 Insomnia:How to Promote Rest and Sleep 睡眠と心の健康
第10回 AL	Unit 5 Insomnia:How to Promote Rest and Sleep 睡眠と心の健康
第11回 AL	Unit 6 Chronic Pain: How to Minimize or Relieve Pain リウマチ患者の介護
第12回 AL	Unit 6 Chronic Pain: How to Minimize or Relieve Pain リウマチ患者の介護
第13回 AL	Unit 7 Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight 摂食障害と食事指導
第14回 AL	Unit 7 Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight 摂食障害と食事指導
第15回 AL	Unit 8 Urinary Retention: How to Avoid Bladder Distention 膀胱カテーテル処置
第16回 AL	Unit 8 Urinary Retention: How to Avoid Bladder Distention 膀胱カテーテル処置
第17回 AL	Unit 9 Constipation: How to Promote Normal Bowel Function 排泄とその援助
第18回 AL	Unit 9 Constipation: How to Promote Normal Bowel Function 排泄とその援助
第19回 AL	Unit 10 Impaired Physical Mobility: How to Help with Crutch Walking リハビリテーションとケア
第20回 AL	Unit 10 Impaired Physical Mobility: How to Help with Crutch Walking リハビリテーションとケア
第21回 AL	Unit 11 Impaired Skin Integrity: How to Manage Burn Care 小児のやけど
第22回 AL	Unit 11 Impaired Skin Integrity: How to Manage Burn Care 小児のやけど
第23回 AL	Unit 12 Visual Alteration: How to Adjust to Visual Disorder 加齢に伴う健康問題
第24回 AL	Unit 12 Visual Alteration: How to Adjust to Visual Disorder 加齢に伴う健康問題
第25回 AL	Unit 13 Surgical Client: How to Cope with Anxiety 手術前・手術後の看護
第26回 AL	Unit 13 Surgical Client: How to Cope with Anxiety 手術前・手術後の看護
第27回 AL	Unit 14 Memory Impairment: How to Help Strengthen Memory 認知症高齢者とその家族
第28回 AL	Unit 14 Memory Impairment: How to Help Strengthen Memory 認知症高齢者とその家族
第29回 AL	Unit 15 Lifestyle-related Diseases: How to Encourage Health-seeking Behaviors生活習慣と健康
第30回 AL	Unit 15 Lifestyle-related Diseases: How to Encourage Health-seeking Behaviors生活習慣と健康

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50％ レポート課題 50％
教科書	『Nursing Case Studies 事例で学ぶ看護英語』 杉田由仁、Richard R, Caraker（成美堂）
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習（内容・時間）	テキストに目を通し、わからない単語や熟語を調べておくこと（2時間）
事後学習（内容・時間）	授業内容やテキストを復習し、英語表現を覚えること（1時間）
備考	テキスト、ノート、筆記用具、辞書を持参すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅳ (Writing 2)	池田美智子	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22303

科目の概要

病院実習を経験した学生のために、看護師として32年間病院勤務した著者が病院生活で経験した様々な経験を記録した文章を読み進める。原文を読み進めながら、主人公が診療科を移動することに、使用される医療器具や治療法などについての知識を広げるとともに、病院内ではどのようなことが実際に起こり得るのか考える。

到達目標

- 専門的知識、用語表現をリーディング、リスニング、ライティングを通して身につける。
- 汎用性の高い口語表現を身につける。
- 医療器具や治療法についての英語の表現に関する知識を広げる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	The Quiet Boy(その1)ひとりぼっちの少年
第2回 AL	The Quiet Boy(その2)
第3回	Tribulations of a Student Nurse(その1)看護学生の試練
第4回 AL	Tribulations of a Student Nurse(その2)
第5回	Not Just a 9-to-5 Job(その1)コンピューターから浣腸まで何でもあり
第6回 AL	Not Just a 9-to-5 Job(その2)
第7回	Stolen Goods(その1)盗品
第8回 AL	Stolen Goods(その2)
第9回	A Proctologist(その1)直腸病専門医
第10回 AL	A Proctologist(その2)
第11回	A Demanding Orthopedics Patient(その1)整形外科の困った患者
第12回 AL	A Demanding Orthopedics Patient(その2)
第13回	Emergency Ward(その1)救命病棟
第14回 AL	Emergency Ward(その2)
第15回	Emergency Ward(その3)
第16回	Thrown from a Window(その1)窓から投げ落とされた女性
第17回 AL	Thrown from a Window(その2)
第18回	A Doctor's Depression(その1)あるドクターの憂鬱
第19回 AL	A Doctor's Depression(その2)
第20回	An Alzheimer's Patient(その1)アルツハイマー病
第21回 AL	An Alzheimer's Patient(その2)
第22回	Brain Damage(その1)脳損傷の男性
第23回 AL	Brain Damage(その2)
第24回	Drug Abuser(その1)麻薬乱用者たち
第25回 AL	Drug Abuser(その2)
第26回	Urology(その1)泌尿器科
第27回 AL	Urology(その2)
第28回	A Paralyzed Cancer Patient(その1)癌患者
第29回 AL	A Paralyzed Cancer Patient(その2)
第30回	A Paralyzed Cancer Patient(その3)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% レポート課題 50%
教科書	『The Dramas of Hospital Life (ある看護師のみた病院生活のドラマ)』 田中芳文編著 (三修社)
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業時間の前後
事前学習(内容・時間)	単語は必ず調べておくこと。(30分)
事後学習(内容・時間)	その日学習した表現や練習問題などは復習しておくこと。(30分)
備考	テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書は必ず持参すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22304

科目の概要

この授業では、日本に旅行にきたパリの大学生Pascalと、彼の旅の案内役を務めるKumikoとの間でかわされる会話を中心に、日常生活の基本的なフランス語を身につけます。同時に、会話を学びながら基礎的な文法も習得します。また、二人の会話を通してフランス人と日本文化との親密な関係を知ること、フランスという国に親しんでもらうのもこの授業の目的ですので、フランス語による映像をお見せします。

到達目標

- 日常会話における基本的なフランス語表現を身につけることができる。
- 基礎的な文法事項を習得することで、フランス語の文章の基本的な読み・書きができる。
- 日本文化へのフランス人の強い関心を知ること、両国の親密さを感じることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション:① ガイダンス ② フランスのアニメ
第2回 AL	フランス語に親しむ:① アルファベ ② 略語 ③ フランス語の発音とつづり字の読み方 ④ サバイバルなフランス語表現
第3回 AL	国籍を言う(1):① 主語人称代名詞 ② 動詞《 être 》「～です」
第4回 AL	国籍を言う(2):① 国籍を表す名詞 ② 第一群規則動詞《 -er動詞 》③【対話】「私はフランス人です。」
第5回 AL	名前・職業を言う(1):① 職業を表す名詞 ② 形容詞の性・数の一致
第6回 AL	名前・職業を言う(2):① 名前の言い方 ② 自己紹介 ③【対話】「私はパスカルという名前です。」
第7回 AL	持ち物を尋ねる(1):① 名詞と不定冠詞 ② 指示代名詞
第8回 AL	持ち物を尋ねる(2):① 形容詞の位置 ② 動詞《 avoir 》「持っている」③【対話】「それは何ですか？」
第9回 AL	趣味を語る(1):① 定冠詞 ② 疑問文 ③ 疑問形容詞
第10回 AL	趣味を語る(2):①【対話】「私は日本の音楽が好きです。」②【コラム】「パリの歴史的建造物」③【語彙】「祈願の表現」
第11回 AL	誰か尋ねる(1):① 否定文 ② 疑問形容詞《 qui 》
第12回 AL	誰か尋ねる(2):① 《 il y a 》「～がある」②【対話】「彼は誰？」
第13回 AL	したいことを尋ねる(1):① 前置詞と定冠詞の縮約 ② 指示形容詞 ③ 否定疑問文の応答
第14回 AL	したいことを尋ねる(2):① 動詞《 vouloir 》「したい」と《 pouvoir 》「できる」②【対話】「君は美術館に行きたくないの？」
第15回	前期のまとめ
第16回 AL	住んでいる所を言う(1):① コメディ・フランセーズ ② 人称代名詞の強勢形
第17回 AL	住んでいる所を言う(2):① 所有形容詞 ② 動詞《 connaître 》「知っている」③【対話】「私は甲府に住んでいます。」
第18回 AL	何をしているか尋ねる(1):① 疑問代名詞《 que 》 ② 場所を表す前置詞 ③ 動詞《 faire 》「する」
第19回 AL	何をしているか尋ねる(2):①【対話】「彼らは何してるの？」②【コラム】「パリの公園と通り」③【語彙】「身体部位」
第20回 AL	家族を語る(1):① 否定文における冠詞の変形 ② 女性形容詞の特殊な形
第21回 AL	家族を語る(2):①【語彙】「家族」②【対話】「君は兄弟か姉妹がいるの？」
第22回 AL	年齢を言う(1):① 数字(1-30) ② 年齢の言い方
第23回 AL	年齢を言う(2):① 疑問副詞 ②【対話】「君は何歳なの？」
第24回 AL	時刻を言う(1):① 時刻の言い方 ② 時の前置詞 ③ 動詞《 finir 》「終える」と《 partir 》「出発する」
第25回 AL	時刻を言う(2):①【対話】「何時なの？」②【コラム】「パリの鉄道の駅」③【語彙】「色」
第26回 AL	紹介する(1):① 補語人称代名詞 ② 指示代名詞《 ça 》
第27回 AL	紹介する(2):① 動詞《 attendre 》「待つ」②【対話】「僕は彼らには早く会いたくてしかたない。」
第28回 AL	日常生活の表現(1):① 代名動詞 ② 動詞《 aller 》「行く」と《 venir 》「来る」
第29回 AL	日常生活の表現(2):① 近接未来「～するところだ」と近接過去「～したばかりだ」②【対話】「みんな早起きよ。」
第30回	後期のまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト(筆記、実技) 60% 中間試験(筆記) 20% 定期試験(筆記) 20%
教科書	『Pascal au Japon (パスカル・オ・ジャポン)』藤田裕二 (白水社)
参考文献	授業中に紹介します
オフィスアワー	授業時間の前後
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通して置いて下さい。(10分)
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを習得するためにも、その週に学んだ項目については復習して下さい。(30分)
備考	授業では毎回、発音および練習問題をしてもらい提出して頂きますが、翌週に添削をしてお返しします。実際、語学には地道な努力が必要ですが、まずは興味を持つことが大事ですので、その国の文化を楽しみながら少しずつ学んで下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22305

科目の概要

本科目は中国語会話の基礎作りを終えた初級者や基礎が未だ弱い中国語初心者に向けるものである。教員のリードの下で、学生が既習の中国語基礎知識や会話基本表現を復習しながら、場面別の実践中国語会話を習得していく。場面に合わせて中国の文化・習慣や看護の現状をも紹介する。アクティブラーニングを通して、学生一人一人が十分な発声練習を行い、場面別会話を体得する。

到達目標

- 中国語の発音能力や中国語に関する基礎知識を強化する。
- 場面別の中国語会話を実践しながら修得する。
- 中国の文化・習慣や看護の現状についての知識を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス(你好!/学習注意事項等); 名前を中国語で読む練習/基本挨拶復習
第2回	中国語基本知識(発音復習一)
第3回	中国語基本知識(発音復習二)
第4回 AL	場面別会話を始めよう(自己紹介)(グループワーク)
第5回 AL	是/人称代名詞/身分表現(グループワーク)
第6回 AL	ホテルに行く実用会話(場所代名詞と行き方用語)(グループワーク)
第7回	SV0/疑問文/日常活動用語
第8回 AL	タクシーを待つ実用会話(指示代名詞関連用語)(グループワーク)
第9回	指示詞/推量助詞/数詞一
第10回 AL	タクシーに乗る実用会話(依頼用語/時間用語)(グループワーク)
第11回	数詞二/時刻・時間用語一
第12回 AL	部屋を予約する実用会話(所有と存在関連用語)(グループワーク)
第13回	反復疑問文/時間用語二
第14回 AL	路を尋ねる実用会話(存在と距離関連用語)(グループワーク)
第15回	在/距離前置詞/方位詞と形容詞関連表現
第16回 AL	両替する/日中貨幣関連用語と実用会話(グループワーク)
第17回 AL	要望助動詞/比較表現/交通機関用語と実用会話(グループワーク)
第18回 AL	買い物/衣服買物用語と実用会話(グループワーク)
第19回 AL	序数詞/許可助動詞/副詞/道具関連用語と実用会話(グループワーク)
第20回 AL	電話をかける/電話関連用語と実用会話(グループワーク)
第21回 AL	進行形/完了形/年月日/活動進行用語と実用会話(グループワーク)
第22回 AL	食事用語/会/了/度量単位と実用会話(グループワーク)
第23回	選択疑問詞/前置詞「把」/結果補語など
第24回 AL	依頼用語/給/能/禁止表現と実用会話(グループワーク)
第25回	友人訪問/挨拶用語/親族呼称/様態補語
第26回 AL	年齢用語/過/方向補語と実用会話(グループワーク)
第27回 AL	価格交渉用語/「得」/二重目的語構文と実用会話(グループワーク)
第28回 AL	身体用語/程度補語/条件表現と実用会話(グループワーク)
第29回 AL	紛失関連用語/受動態/「着」/強調構文と実用会話(グループワーク)
第30回	お別れの挨拶/近未来表現/仮定形表現/使役態表現など

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(実技) 70% レポート課題 30%
教科書	『中国を歩こう(CD付)』陳淑梅、蘇明(金星堂)
参考文献	『DVDだからよくわかる中国語会話入門(DVD付)』川上美鳥著、日中学院監修(西東社)
オフィスアワー	出講日の授業の前後と出講日の5時限目(研究室場所:宝塚キャンパス本館5階505室)
事前学習(内容・時間)	毎回の授業に出る前に教科書とオーディオプレイヤーで予習しておくこと(30分)
事後学習(内容・時間)	既習内容を復習し、宿題を完成すること(1時間以上)
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。オーディオプレイヤーを活用しよう。音声練習時は積極的に口に出して練習しよう。宿題・課題は必ず完成させよう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22306

科目の概要

発音と綴り字、イントネーション、名詞の種類・変化とその関連分野（冠詞・形容詞）、動詞の変化と用法（主に現在形と過去形）を柱として、イタリア語文法の基礎固めをします。動詞の変化は主語と時制などの情報を含んでいる点で特に重要ですので、この点を徹底的に指導します。イタリア事情（文化、政治、社会、地理など）にも触れたいと思います。

到達目標

- イントネーションの違いが文の意味を左右する場合があるので、イタリア語らしい発音とイントネーションを習得する。
- 日常的な内容の文を理解し表現できる程度の文法と語彙の習得

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	アルファベットの読み方
第2回 AL	綴り字と発音
第3回	注意すべき発音
第4回	名詞の性(男性・女性)
第5回 AL	名詞の数(単数・複数)
第6回	基本動詞essereの変化と用法(現在形)①
第7回 AL	基本動詞essereの変化と用法②
第8回	基本動詞avereの変化と用法(現在形)①
第9回 AL	基本動詞avereの変化と用法②
第10回	一般動詞の変化と用法(現在形・規則変化)①
第11回 AL	一般動詞の変化と用法②
第12回 AL	注意すべき一般動詞
第13回	不規則動詞の変化と用法(現在形)①
第14回 AL	不規則動詞の変化と用法②
第15回 AL	曜日と日付の表現
第16回	目的格(補語)の代名詞①
第17回 AL	目的格(補語)の代名詞②
第18回	半過去①
第19回 AL	半過去②
第20回 AL	近過去①
第21回	近過去②
第22回 AL	過去時制の使い分け
第23回 AL	再帰動詞①
第24回 AL	再帰動詞②
第25回	命令法①
第26回 AL	命令法②
第27回	所有形容詞
第28回 AL	未来形
第29回 AL	前置詞
第30回 AL	比較表現

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験（筆記）50％ 小テスト 25％ レポート課題 25％
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ』吉富文、マッテオ・カスタニャ（朝日出版社、2015）
参考文献	『ブリーモ伊和辞典・和伊付き』（白水社）
オフィスアワー	土曜日1限目授業開始前20分、終了後30分
事前学習（内容・時間）	指定する授業内容の単語・熟語の意味を調べること。（50分）
事後学習（内容・時間）	単元ごとに小テストをします。既習内容は書いて、読んで、五感を駆使して徹底的に復習すること。（60分）
備考	B5のファイルノートを用意すること。課題（AL）などのプリントを保管するためです。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	溝邊 敬一	演習	2年次 通年	選択	2	60	KGE22307

科目の概要

ドイツ語圏各地で医学、演劇、ホテル業、スポーツなどを学ぶ6人の学生の生活と意見のドキュメンタリー映像を鑑賞して生きたドイツ語を体験しつつ、テキストを読む前にその内容をどう理解したかを話しあう。そののち、テキストを精読し、みなさんの生き方と比較する。

到達目標

- 生きたドイツ語の聴取力を身につける。
- ドイツ語テキストを読んで、読解力・表現力を身につける。
- 生活のさまざまな場で自分の意見を述べる力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ドイツ語Ⅰの復習と実力のチェック、未習者へのアドバイス
第2回 AL	テーマ1(ドイツ):ハンブルクの医学生Sandraの場合—内容について話し合う
第3回	テーマ1:テキストの音読と読解(1)
第4回	テーマ1:テキストの音読と読解(2)
第5回 AL	テーマ2(ドイツ):ベルリンの演劇科専攻生Christianeの場合—内容について話し合う
第6回	テーマ2:テキストの音読と読解(1)
第7回	テーマ2:テキストの音読と読解(2)
第8回 AL	テーマ3(オーストリア):ヴィーンのギムナジウム生Björnの場合—内容について話し合う
第9回	テーマ3:テキストの音読と読解(1)
第10回	テーマ3:テキストの音読と読解(2)
第11回	復習と小テスト①
第12回	ドイツ映画鑑賞および話し合い
第13回 AL	テーマ4(スイス):アナウンサーをしながらダンスを学ぶギムナジウム生Ninaの場合—内容について話し合う
第14回	テーマ4:テキストの音読と読解(1)
第15回	テーマ4:テキストの音読と読解(2)
第16回 AL	テーマ5(リーヒテンシュタイン):スポーツと音楽を目指す実科学校生Barisの場合—内容について話し合う
第17回	テーマ5:テキストの音読と読解(1)
第18回	テーマ5:テキストの音読と読解(2)
第19回 AL	テーマ6(イタリア南チロル):家業のホテルを継ぐための勉強をする実科学校生Peterの場合—内容について話し合う
第20回	テーマ6:テキストの音読と読解(1)
第21回	テーマ6:テキストの音読と読解(2)
第22回	復習と小テスト②
第23回	ドイツ映画鑑賞および話し合い
第24回 AL	テーマ7:ドイツの中等・高等教育制度について—内容について話し合う
第25回	テーマ7:テキストの音読と読解(1)
第26回	テーマ7:テキストの音読と読解(2)
第27回 AL	テーマ8:ドイツの冬(クリスマス)—内容について話し合う
第28回	テーマ8:テキストの音読と読解(1)
第29回	テーマ8:テキストの音読と読解(2)
第30回	ドイツ語文法の総まとめ～中級へ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間・定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% レポート課題 20%
教科書	テキストは毎回講義時に配布します。
参考文献	独和辞典 必携
オフィスアワー	授業日の午後(午後1時～2時) 非常勤講師室
事前学習(内容・時間)	テーマのテキストを音読(30分)
事後学習(内容・時間)	テキストの内容復習(30分)
備考	DVD教材のタイトル:“Jung in Deutschland”—「ヨーロッパの若者」

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

作家や詩人や評論家やジャーナリストや、時には無名の人が書いた、すぐれた文章を読んで深い感動を味わうことが、この講義の大黒柱だ。人の心を動かす言葉の力を自分も身につけたい、と受講生は思うはずだ。その目的を達成するために、教材の文章を読み、文章とは何かを考え、自分でも文章を書く。

到達目標

- エッセイ・詩・論評などに親しむことで言葉の知識が増え、魅力的な表現技術を身につけることができる。
- 人の言動や社会の出来事への観察力が高まり、問題を発見する能力を高めることができる。
- 自分の気持ちや考えを表現する技術が向上し、相手を思いやる感性を磨くことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	小説家のエッセイや新聞・雑誌のコラムを味読し、文章を書く楽しさを学ぶ
第2回	目の見えない人が書いたエッセイを読み、描写の本質、人間の感性について考える
第3回	相手を思いやる表現力とは
第4回 AL	大切なのは頭ではなく腹である(古代言語から身体と表現について考える)
第5回	前景の奥に隠れているものを見抜くには
第6回 AL	思考停止に陥らない言葉遣い
第7回	批評の精神について
第8回 AL	ユーモア感覚を身につけよう
第9回	人の尊厳をささえる文章とは
第10回 AL	問題を発見することが文章の出発点だ
第11回	ひととは違う文章の切り口(独自の視点のつくり方)
第12回 AL	誠意のこもった詫び状を書いてみよう
第13回	事実と意見をきちんと書き分ける(観察力と論証)
第14回 AL	自分を売り込む作法(抑制の美学)
第15回	人の心をつかむ文章について

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 70% 定期試験(レポート) 30%
教科書	使用しない
参考文献	必要に応じて授業で紹介する
オフィスアワー	出講日の講義の前後
事前学習(内容・時間)	新聞のコラムや小説・評論を日常的に読み、気になったことを授業で紹介してほしい。(1時間)
事後学習(内容・時間)	添削された自分の作文を清書するほか、授業で使った教材資料を読み返すこと。(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論（生命倫理）	林 貴啓	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

患者の権利、脳死と臓器移植、生殖補助医療、終末期医療、遺伝子医療といったテーマを材料に、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題を考察する。受講者に背景知識と判断材料を提供し、主体的に問題を検討し、意見を交換することを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うことがこの講義の目標である。

到達目標

- 倫理に関する知識を深める。
- 倫理が問われるさまざまな医療問題について理解する。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回 AL	倫理学のさまざまな考えかた
第3回 AL	インフォームド・コンセントと看護の視点
第4回 AL	道徳的想像力
第5回 AL	安楽死、尊厳死をめぐって
第6回 AL	脳死と臓器移植
第7回 AL	人工妊娠中絶をめぐって
第8回 AL	出生前診断と選択的中絶
第9回 AL	生殖補助医療 I—不妊治療をめぐる状況
第10回 AL	生殖補助医療 II—AIDと代理出産の問題
第11回 AL	文献を読んで考える—レポート執筆のためのワークショップ
第12回 AL	治療拒否の問題をめぐって
第13回 AL	最先端医療の倫理
第14回 AL	医療とは—看護の見地からの意味
第15回 AL	死生学の課題

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）60％ レポート課題40％
教科書	「教科書」というかたちでは、特に指定しない。
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマについて紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ—宗教なき時代に生死を語る』（京都大学学術出版会）の一読を薦める。
オフィスアワー	講義時の前30分。また講義時の配布資料に担当者のメールアドレスを記するので、Eメールを介した質問・意見は随時受け付ける。
事前学習（内容・時間）	シラバスに提示した各回のテーマについて、興味のあるものは事前に情報を集める。（30分～1時間程度）
事後学習（内容・時間）	特別には設定しないが、講義時に紹介した文献を読み、理解を深めることを推奨する。（30分～1時間程度）
備考	生命倫理の問題は、自ら考え、論じ合うことによってこそ理解しうる。そのため、本講義では授業内ミニレポートやグループ・ディスカッションなど、受講者参加型の要素を大きく導入する。平常点は、こうしたワークへの積極的な参加とその成果をもって評価される。単なる出席は評価しない。各回のワークの成果は、次回に配布する資料でフィードバックする。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、それに相反する不健康なライフスタイルを変容するためのモデルについて、喫煙や食事、運動、性行動といった具体的事例を例に講義を展開する。講義は人間の行動を包括的にとらえるために心理学・社会学・教育学・保健学など多領域の知見と理論を統合して行う。また、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、理解度を深めることを目指す。

到達目標

- 健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身につける。
- 健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解する。
- 古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、見識を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL	行動変容のためのコミュニケーション1+ALコメントシート
第3回 AL	行動変容のためのコミュニケーション2+ALコメントシート
第4回 AL	健康信念モデル+ALコメントシート
第5回 AL	オペラント条件付け・学習理論+ALコメントシート
第6回 AL	合理的行動理論・計画的行動理論・ワーク
第7回 AL	禁煙の行動科学ーどうしても煙草がやめられないー+ALコメントシート
第8回 AL	エイズパンデミックー世界・アジア・日本ー行動科学的予防アプローチ+ALコメントシート
第9回 AL	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ+ALコメントシート
第10回 AL	セクシュアルマイノリティの健康問題+ALコメントシート
第11回 AL	医療と法+ALコメントシート
第12回 AL	アートを通じた釜ヶ崎における労働者支援の現場から+ALコメントシート
第13回 AL	タイプA行動特性ー「忙しい！忙しい！」手帳に用事がビッシリ+ALコメントシート
第14回 AL	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題+ALコメントシート
第15回 AL	いのちは誰のものか+ALコメントシート

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	適宜配付資料を用意します。
参考文献	適宜紹介します。
オフィスアワー	水曜日 12：30～13：30
事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（30分）
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	坂元 美子	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11102

科目の概要

ヒトが健康を維持し、成長するために必ず摂取しなければならない食品中の成分を栄養素といい、5種類ある。食事で摂取した栄養素が体内でどのように吸収され、利用されるのかについて学ぶ。さらに、これらの栄養素と生活習慣病やその他の疾患との関連についても学び、自身が健康を維持するために必要な栄養素の摂取量を導き出す。

到達目標

- 五大栄養素の種類、消化と吸収、体内動態について理解する。
- 健康を保持・増進するための適切な栄養素の摂取について理解する。
- 生活習慣病その他の疾患と栄養素摂取について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	栄養とは:栄養摂取の意義、五大栄養素の役割
第2回	糖質の栄養:糖質の種類
第3回	糖質の栄養:消化吸収、体内動態
第4回	脂質の栄養:脂質の種類
第5回	脂質の栄養:脂質の消化吸収、体内動態
第6回	たんぱく質の栄養:たんぱく質の種類
第7回	たんぱく質の栄養:たんぱく質の消化吸収、体内動態
第8回	ビタミンの栄養:ビタミンの種類、生理作用
第9回	ミネラルの栄養:ミネラルの種類、生理作用
第10回	健康と栄養:日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド
第11回	健康と栄養:生活習慣病
第12回	健康と栄養:生活習慣病改善のための食事
第13回	健康と栄養:その他の疾患(鉄欠乏性貧血、疲労骨折、骨粗鬆症、摂食障害)
第14回	健康と栄養:健康とサプリメント摂取
第15回 AL	健康と栄養:健康のための献立作成

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(レポート) 70% レポート課題 30%
教科書	『初めて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ スポーツ・健康栄養学』坂元美子編著(化学同人) 『新食品成分表フーズサポーター付き』新食品成分表編集委員会(東京法令出版株式会社)
参考文献	授業内で適宜紹介する
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	授業開始までに前回の授業内容を見直しておくこと。(30分)
事後学習(内容・時間)	授業内容をわかりやすくノートにまとめておくこと。(30分)
備考	わからないことがあれば積極的に質問してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅰ (人体の構造と機能)	巽 圭太	講義	1年次 前期	必修	2	60	KSB11103

科目の概要

この科目は、疾病時に起こる形態及び機能的な変化の状況を理解するための最も基礎となる医学で、人体を構成する基本単位の細胞とその組み合わせの組織、及び人体各部位の構造と機能について教授する。具体的には、各器官系の主要な器官の形態と機能を理解し、今後、疾病について学習するのに必要な「正常な人体の構造と働き」の基礎知識と、大学生から社会人まで必要な学習方法の習得を目指す。

到達目標

- 大学での病態治療学・看護学、さらに卒業後の臨床でも必要な、『解剖生理学』など教科書を熟読して、自学自習できる力の礎を作る。
- 主要な器官の名称、主な構造と機能を説明出来る。
- 主要な器官の名称、主な構造と機能を説明出来るようになる学習方法を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	はじめに～医学を学ぶにあたって～
第2回 AL	解剖生理学を学ぶための基礎知識
第3回 AL	解剖生理学を学ぶための基礎知識
第4回 AL	消化器系
第5回 AL	消化器系
第6回 AL	消化器系
第7回 AL	呼吸器系・血液・確認テスト
第8回 AL	呼吸器系・血液
第9回 AL	呼吸器系・血液
第10回 AL	呼吸器系・血液
第11回 AL	循環器系
第12回 AL	循環器系
第13回 AL	循環器系
第14回 AL	泌尿器系・確認テスト
第15回 AL	泌尿器系
第16回 AL	内分泌系
第17回 AL	内分泌系
第18回 AL	内分泌系
第19回 AL	自律神経
第20回 AL	神経系
第21回 AL	神経系・確認テスト
第22回 AL	感覚器系
第23回 AL	骨格・筋系
第24回 AL	骨格・筋系
第25回 AL	骨格・筋系
第26回 AL	体表からみた構造
第27回 AL	免疫系
第28回 AL	免疫系・確認テスト
第29回 AL	生殖器系
第30回 AL	生殖器系

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 65% 確認テスト35%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]「解剖生理学」』坂井建雄(医学書院)、『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のための レビューブック2018』(メディックメディア)
参考文献	『得意になる解剖生理』美田 誠二(照林社)、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄、橋本 尚詞(成美堂出版)、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修(講談社) この他、関連科目で既購入の教科書
オフィスアワー	月曜日 12:30-13:00 615 研究室。それ以外は、k-tatsumi 【@】 takara-univ.com にメールで連絡可能です。その際は、件名に学籍番号・氏名書き、本文に用件を簡潔に書いて下さい。(送信時はE-mailアドレスから 【】 記号を除くこと)
事前学習(内容・時間)	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする。(30分)
事後学習(内容・時間)	講義・テストの復習。用語を当日、翌日、1週間後に見直す。(60分)
備 考	毎回の授業内の小テストは、学習内容の確認の為に、成績を評価対象とはしない。 ・看護学は人類の健康・幸福に貢献できる素晴らしい分野であるが、その前提として、医学・医療に関する基礎的な理解は不可欠である。したがって看護師を目指す皆様には、日々のたゆまぬ勉学の積み重ねが必要であり真剣に取り組んでほしい。 ・水曜日の「ヒトの体のしくみと医療Ⅰ」(宝塚キャンパス)は、DVD映像を多用した教養科目である。本科目と密接に関連し、看護学部生に對しては特別開講科目である。特に、DVD映像の供覧希望者や、本科目だけでは人体構造がイメージ困難と思う学生は、是非、選択・聴講して理解を深めて下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ (人体の機能と生理)	山口 三郎	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

疾病時に起こる形態及び機能的変化などを理解するために、人体を構成する基本単位である細胞からはじめて、組織及び臓器の構造と機能について講義する。具体的には、植物機能、すなわち、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系などの機能と動物機能である神経系や運動系の機能について学ぶ。

到達目標

- 看護に必要とされる人体の機能の基礎を身につける。
- 習得した人体構造の知識を応用し、専門科目の理解に役立てることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	人体の構造と機能を学ぶために
第2回	基礎知識(その1)
第3回	基礎知識(その2)
第4回	消化と吸収
第5回	呼吸
第6回	血液
第7回	心臓
第8回	循環
第9回	体液の調節と尿の生成
第10回	内臓機能の調節(その1)
第11回	内臓機能の調節(その2)
第12回	情報の受容と処理(その1)
第13回	情報の受容と処理(その2)
第14回	からだの支持と運動・外部環境からの防御
第15回	生殖発生と老化

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% レポート課題 20%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]「解剖生理学」』坂井建雄、岡田隆夫(医学書院)
参考文献	『標準生理学』小澤澹司、福田康一郎(医学書院)
オフィスアワー	出講日の授業の前後(各30分)
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む(30分)
事後学習(内容・時間)	教科書を復習し、資料の確認問題を解く(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅰ (総論と主な疾患)	高原 史郎	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、実地に不可欠な器官別での疾患について、疾患の成り立ちやその病理・病態像を、正しく認識することを目的とする。人体が単なる諸器官の集合体ではなく規律ある融合体であることを認識し、疾病における治療看護のあり方を把握するように展開する。総論では、医学用語の学修を基盤として横断的な病態病理を、各論では、その発生のメカニズムや予後を習得する。

到達目標

- 治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、疾患の成り立ちやその病理・病態像の知識を身に付ける。
- 疾患に対する基本的包括的な技術を身に付ける。
- 疾患に対する病理学的見地からの考え方を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論1(先天異常、代謝障害・細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復)(雨宮 浩)
第2回	総論2(腫瘍、炎症、移植、老化と個体死)
第3回 AL	総論3(日本の3大死因)
第4回	循環器系疾患1(心疾患)
第5回	循環器系疾患2(血管系疾患)
第6回	小テスト・解説(第1回～第5回までの確認)
第7回	消化器系疾患1(消化管疾患)
第8回	消化器系疾患2(消化器臓器疾患)
第9回	呼吸器系疾患1(喘息・腫瘍・感染症など)
第10回	呼吸器系疾患2(喘息・腫瘍・感染症など)
第11回	ホルモン依存性疾患、内分泌系疾患
第12回	造血器系疾患、感覚器系疾患
第13回	腎・泌尿器系疾患・生殖器系疾患性
第14回	脳・神経系疾患
第15回	運動器系疾患(骨、筋)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト30% レポート課題 20%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2]「病態生理学」』田中越郎(医学書院)
参考文献	『カラーで学べる病理学』渡辺照男編(ヌーヴェルヒロカワ) 『解明 病理学』青笹克之編(医歯薬出版)
オフィスアワー	授業日の講義前10分～講義終了30分後まで
事前学習(内容・時間)	教科書及びレジメを2回予習(2時間)
事後学習(内容・時間)	講義中に行った小テストについて復習すること(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	堀家なな緒	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11107

科目の概要

生化学（Biochemistry）は生命現象に関わる理を化学的に追究する学問である。生体を構成している化学物質と、それを維持している代謝調節の化学反応を分子レベルで学び、様々な生命現象と病態のしくみについて概観する。講義の前半では、生体物質の化学構造とその性質、機能、五大栄養素、遺伝子の発現調節機構を学ぶ。後半では、ホルモンとシグナル伝達、代謝（合成・分解）の調節を学ぶと共に、これらの制御機構の破綻がもたらす疾患の発症機序の理解を目指す。

到達目標

- 五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質の基本構造と性質を知る。
- 栄養素からエネルギーを獲得する代謝系全体が、酵素及びホルモンによってどのように整理・統合されているのかを理解する。
- 肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症、動脈硬化等代表的な代謝関連疾患の病因と発病機序について生化学的に理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生化学を学ぶための基礎知識
第2回	糖質
第3回	脂質
第4回	タンパク質とアミノ酸
第5回	ビタミンと補酵素
第6回	水と無機質
第7回	核酸と遺伝子発現調節
第8回 AL	生体を構成する物質
第9回	第1回～第7回までのまとめと確認テスト(筆記)
第10回	ホルモンとシグナル伝達
第11回	糖質代謝
第12回	脂質代謝
第13回	タンパク質代謝
第14回	酵素
第15回 AL	三大栄養素の代謝調節

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト、レポート課題 20%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]「生化学」』三輪一智、中 恵一（医学書院）
参考文献	『イラストでまなぶ生化学』前場良太（医学書院） 『栄養科学イラストレイテッド 生化学』菌田 勝（羊土社） 『集中講義 生化学』鈴木敬一郎ほか（メジカルビュー社）
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲をよく読み、次の授業が全体のどの位置にあるかを確認しておく（60分）
事後学習(内容・時間)	授業時の配布資料を教科書に沿って確認、要点を理解し、復習テストで知識を定着させる（90分）
備考	前半（第1回～第7回）と後半（第10回～第14回）の2回行われる試験（80%）と、毎回実施する小テスト、レポート課題など（20%）を総合して評価します。生化学の学習は、化学反応の羅列や丸暗記ではなく、包括的な理解が重要です。授業では、理解度を上げるために、複雑な概念を馴染みやすい図を用いて視覚化し、平易・簡潔な言葉で説明します。積極的に授業に出席し、多角的な視野から統合的なイメージを育んで下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	入江 章子	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

感染症の原因となる細菌やウイルスなどの病原微生物の性質、それに対する生体の感染防御機構、感染症の検査法と治療、予防、対策などを学習する。さらに治療行為によっておこる院内感染や耐性菌の出現、感染予防に役立つワクチンの役割などの理解を深める。

到達目標

- 感染症の原因となる微生物の性質と感染症を理解する。
- 感染症の当事者である微生物と、もう一方の当事者である宿主の係わり合いとしての感染症を理解する。
- 感染症を予防し、コントロールするための手段などの知識を習得し、感染症を総合的に捉える力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	ガイダンスと科目の全体像
第2回	微生物学の基礎 1
第3回	微生物学の基礎 2
第4回	感染とその防御 1
第5回	感染とその防御 2
第6回	感染源・感染経路から見た感染症
第7回	感染症の予防・診断・治療
第8回	まとめと復習
第9回	細菌感染症 1
第10回	細菌感染症 2、真菌・原虫感染症
第11回	ウイルス感染症 1
第12回	ウイルス感染症 2
第13回	感染症の現状
第14回 AL	感染症の対策
第15回 AL	まとめと復習

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% レポート課題 30%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]「微生物学」』南嶋洋一、吉田真一、永淵正法 (医学書院)
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終了後
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲を読む (15分)
事後学習(内容・時間)	教科書、授業時の内容、配布資料を参考に整理する (1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅰ（入門編）	林 勇気	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

情報処理の基礎知識として、コンピュータによる文章作成、表計算の方法、情報の検索・活用方法を実際に演習する。ソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理について説明する。社会における情報の価値、コンピュータの概念、情報インフラなどに関して事例に基づく講義を行うとともに、文章作成ソフト（Word）や表計算ソフト（Excel）、プレゼンテーションソフト（Power Point）、メールの使用方法、インターネット等の媒体から情報を入手する技術を教授する。

到達目標

- 情報処理の基礎知識を修得する。
- インターネットでの情報収集や管理方法を身につける。
- コンピュータとWord、Excel等の基本的な使用方法を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「コンピュータの使用方法と概念についてその1」「Wordの基礎 -データ入力-」
第2回	「コンピュータの使用方法と概念についてその2」「Wordの基礎 -データ入力の応用-」
第3回	「コンピュータの使用方法の応用その1」「Wordの基礎 -文章のレイアウト-」
第4回	「コンピュータの使用方法の応用その2」「Wordの基礎 -表の操作-」
第5回	「ネットワークのマナーその1 倫理」「Wordの基礎 -オートシェイプ-」
第6回	「ネットワークのマナーその2 法」「Wordの基礎 -アプリケーションとの連携-」
第7回	「メディアリテラシー」「Excelの基礎 -データ入力の基礎-」
第8回	「マルチメディアとは」「Excelの基礎 -データ入力の応用-」
第9回	「情報セキュリティその1」「Excelの基礎 -表のレイアウト-」
第10回	「情報セキュリティその2」「Excelの基礎 -数式の計算とグラフの作成-」
第11回	「情報セキュリティその3」「Excelの基礎 -数式の計算とデータベースの管理-」
第12回	「情報セキュリティその4」「Power Pointの基礎 -スライド作成の基礎-」
第13回	「情報とモバイル」「Power Pointの基礎 -スライドのデザイン-」
第14回	「情報と社会の関係」「Power Pointの応用 -画像処理ソフトと組み合わせる-」
第15回 AL	「情報社会と心」「Power Point -スライドショーを作成する-」

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物50% 小テスト50%
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office2013・2010対応』（noa 出版）
参考文献	特になし
オフィスアワー	授業日の授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	前回の講義の内容を習得しておくこと。（1時間）
事後学習（内容・時間）	毎回の講義時に小テストを出すのでそれらを再度復習しておくこと。（2時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ（応用編）	吉田 浩	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に「Power Point」を活用したプレゼンテーションが最終目標です。プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような“プレゼン”としてのメッセージを各自が整理しまとめ、それらを伝えるためのスライド（発表資料）制作に必要な方法論をポイントを絞って学びます。

到達目標

- ブレインストーミングから伝えるべき情報を整理する考え方とそれらをまとめる技能を身につける。
- プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行う知識と技術を修得する。
- 聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行える技能を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション(授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説)
第2回 AL	プレゼンテーションの準備(アイデアを提案する)(ブレインストーミング)
第3回 AL	プレゼンテーションの準備(独創的なアイデアとは)(ブレインストーミング)
第4回 AL	プレゼンテーションの準備(中心となるメッセージ)(ブレインストーミング)
第5回	プレゼンテーションの準備(意味のあるプレゼン)
第6回	プレゼンテーションの資料制作(物語の演出)
第7回	プレゼンテーションの資料制作(意思を伝える方法)
第8回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝デザインとデコレーション)
第9回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝引用句と余白)
第10回	プレゼンテーションの資料制作(スライドデザイン＝コントラスト・反復)
第11回 AL	プレゼンテーションの実践1(ミニプレゼンの実施)(プレゼンテーション)
第12回	ミニプレゼンの講評と修正(発表内容と資料のチェック)
第13回 AL	プレゼンテーションの実践2(ミニプレゼンの実施)(プレゼンテーション)
第14回	ミニプレゼンの講評と修正(発表内容と資料のチェック)
第15回 AL	最終プレゼンテーションと総評(プレゼンテーション)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(実技100%:[プレゼンテーション(発表内容70% 資料制作30%)])
教科書	特になし
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	スライドデザインに必要な資料収集を2時間
事後学習(内容・時間)	スライドデザインのブラッシュアップを2時間
備考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	中村 貞夫	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

芸術と看護には大きな共通点があります。芸術は人々の心を癒し、看護は心と身体を癒します。この授業では学生一人一人と対話しながら、「癒しと芸術」について考えていきます。画家の私は体験、体感を重視し、ナビゲーターとしてアートの内側に学生を誘い、アートの世界では正解は一つでないこと、芸術に向かう心は万人に備わっていることを体感してもらい、柔らかな感性が看護の現場で活かされるよう願っています。アンケートを度々行って、インタラクティブな授業を行います。

到達目標

- 講義と実習によって、自分の中のアーティストとしての資質に目覚める。
- 偉人の言葉に触れる。明暗のグラデーションを学ぶ。色彩感覚を磨く。遠近表現の基礎を学ぶ。人物、静物、風景画を学ぶ。音楽を絵画で表現する。
- 柔らかな感性、人としての優しさが看護の中で活かされることを目標にする。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第1回 AL	癒しと芸術の関連について	感動体験（アンケート）	実技1
第2回 AL	癒しと芸術の関連について	「見る」と「看る」	実技2
第3回 AL	癒しと芸術の関連について	「見る」と考える	実技3
第4回 AL	癒しと芸術の関連について	聴くことについて	実技4
第5回 AL	看護における芸術の役割	美について	実技5
第6回 AL	看護における芸術の役割	素直な筒	実技6
第7回 AL	看護における芸術の役割	優しさについて	実技7
第8回 AL	感性を磨く	右と左（アンケート）	実技8
第9回 AL	感性を磨く	i(不確定、保留)について	実技9
第10回 AL	感性を磨く	補色の軸について(アンケート)	実技10
第11回 AL	感性を磨く	マザー・テレサ	実技11
第12回 AL	感性を磨く	ヘレン・ケラー	実技12
第13回 AL	感性を磨く	パブロ・ピカソ	実技13
第14回 AL	感性を磨く	ピエール・ボナール	実技14
第15回 AL	総論	自分探しの旅	実技15
	授業の進行状況で順序が変わることがあります。		

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 100%
教科書	なし
参考文献	『「聴く」ことのちから―臨床哲学試論』 鷲田清一（阪急コミュニケーションズ） 『マザー・テレサと神の子[新版]』 小林正典写真集（ビレッジプレス）
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	週ごとに、次回のテーマ（課題）の趣旨を理解し、指示された用具、材料、資料等を用意する。（30分程度）
事後学習（内容・時間）	美術展鑑賞、レポートの作成が行われることがあります。（30分程度）
備考	指定のスケッチブック使用。鉛筆4B、2B、HB。色鉛筆、カラーペン等、着色材料を各自で用意。初回に「自画像」のため手鏡を持参してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ（内科系）	巽 圭太	講義	1年次後期 2年次前期	必修	2	60	KSB11106

科目の概要

代表的な内科疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて教授する。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒業社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”の習得を目指す。

到達目標

- 教科書を代表的な疾患と用語から読み込んでいき、単位取得後に自学自習できる読解力を身に付ける。
- 各器官系について、おのこの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明することが出来る。
- 特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、診断の基準、治療方法、予後、疫学について計1分以上説明することが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	はじめに～内科学を学ぶにあたって～
第2回 AL	呼吸器疾患
第3回 AL	呼吸器疾患
第4回 AL	呼吸器疾患
第5回 AL	確認テスト
第6回 AL	循環器疾患
第7回 AL	循環器疾患
第8回 AL	循環器疾患
第9回 AL	消化管疾患
第10回 AL	消化管疾患
第11回 AL	消化管疾患
第12回 AL	確認テスト
第13回 AL	肝疾患/検査値の見方
第14回 AL	胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患
第15回 AL	胆道・膵臓・脾臓・腹膜疾患
第16回 AL	内分泌疾患
第17回 AL	内分泌疾患
第18回 AL	代謝疾患
第19回 AL	代謝疾患
第20回 AL	確認テスト
第21回 AL	腎疾患
第22回 AL	腎疾患
第23回 AL	脳・神経疾患
第24回 AL	脳・神経疾患
第25回 AL	脳・神経疾患
第26回 AL	アレルギー疾患、膠原病
第27回 AL	アレルギー疾患、膠原病
第28回 AL	確認テスト
第29回 AL	血液疾患
第30回 AL	血液疾患

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）50％ 中間試験（筆記）25％ 確認テスト25％
教科書	後期購入：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「呼吸器」、「循環器」、「消化器」』（医学書院）、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）2018年度前期購入：『系統看護学講座「血液・造血器」、「内分泌・代謝」、「脳・神経」、「腎・泌尿器」』（医学書院）、この他、「人体構造機能論Ⅰ」で既購入の教科書
参考文献	『わかりやすい内科学（第4版）』井村 裕夫（編集主幹）（文光堂）、『病気がみえる「vol.4 呼吸器」、「vol.5 血液」、「vol.8 腎・泌尿器」』（メディックメディア） この他、関連科目で既購入の教科書
オフィスアワー	月曜日 12:30-13:00 615 研究室。それ以外は、k-tatsumi 【@】 takara-univ.com にメールで連絡可能です。その際は、件名に学籍番号・氏名書き、本文に用件を簡潔に書いて下さい。（送信時はE-mailアドレスから 【】 記号を除くこと）
事前学習（内容・時間）	教科書での予習。講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする。（30分）
事後学習（内容・時間）	講義・テストの復習。用語を当日、翌日、1週間後に見直す。（60分）
備考	毎回の授業内の小テストは、学習内容の確認の為にを行い、成績を評価対象とはしない。 水曜日の「ヒトの体のしくみと医療Ⅱ」（宝塚キャンパス）は、DVD映像を多用した教養科目である。本科目と関連し、看護学部生に対しては特別開講科目である。特に、DVD映像の供覧希望者や、本科目だけでは疾患概念・医療がイメージ困難と思う学生は、是非、選択・聴講して理解を深めて下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ（外科系）	高原 史郎	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21102

科目の概要

外科各科に共通する臨床看護学に必要な知識と技術や理念を習得する。特に外科看護の総論に力点をおき、各論では病態治療学Ⅰ（病理学）の内容を基盤とし、外科治療の対象となる疾患とその治療法について習得する。総論では、外科医療に特異的な看護の基礎を理解し、周手術期・手術前・手術中・手術後の患者に対する看護、ICUにおける看護、各論では、頭部、胸部、腹部、四肢、小児に関する外科的疾患及び臓器移植について学ぶ。

到達目標

- 外科医療の看護、周手術期・手術前・手術中・手術後、ICUにおける看護及び臓器移植についての知識を身に付ける。
- 外科各科の基本的な技術を習得する。
- 疾患に関する外科的アプローチについての考え方を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	滅菌法および消毒法
第2回	手術室の構造と機能、手術室業務（手洗い、手術介助、機械だし）
第3回	外科治療上注意すべき術前の合併疾患（感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、肝硬変、慢性腎不全、糖尿病、肥満、免疫不全、精神障害）
第4回	術後合併症1（中枢神経系合併症、循環器系合併症）
第5回	術後合併症2（呼吸器系合併症、消化器系合併症、術後感染症、多臓器不全）
第6回	輸液、輸血、栄養
第7回	麻酔
第8回	小テスト（第1-7回授業分）及び解説
第9回	腹部疾患1（消化管癌、急性腹症）
第10回	腹部疾患2（肝胆膵）
第11回	鏡視下手術
第12回	頭部疾患（外傷、脳出血、脳梗塞）
第13回	胸部疾患（乳癌、心筋梗塞、肺癌、気胸）
第14回	小児外科（小児外科の特徴と術前術後管理）、老人外科（高齢者患者の特徴と術前術後管理）
第15回 AL	臓器移植

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）50％ 小テスト30％ レポート課題20％
教科書	『ナースの外科学（改訂6版）』磯野可一編（中外医学社）
参考文献	『外科系実践的看護マニュアル』川崎みどりほか（看護の科学社）
オフィスアワー	授業日の講義前10分～講義終了30分後まで
事前学習（内容・時間）	教科書及びレジメを2回予習（2時間）
事後学習（内容・時間）	講義中に行った小テストについて復習すること（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
薬理学	内海 美保	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法の実施のために、薬が作用するしくみや生体への影響を学ぶ。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の特徴（体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意）など、薬物療法に関する幅広い視点から薬の知識を身につける。第1～2回目の総論では、薬の基本を概説し、第3回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品を取り上げ、その薬理作用と副作用を、疾患を踏まえて教授する。

到達目標

- 薬が作用するしくみや生体への影響について説明できる。
- 臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴等）について説明できる。
- 薬物療法時の看護のポイントを列挙できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	薬理学総論 I
第2回 AL	薬理学総論 II
第3回	抗感染症薬 I
第4回	抗感染症薬 II
第5回	抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬
第6回	末梢神経系に作用する薬物
第7回	中枢神経系に作用する薬物 I
第8回	中枢神経系に作用する薬物 II
第9回	心臓・血管系に作用する薬物 I
第10回	心臓・血管系に作用する薬物 II
第11回	血液に作用する薬物
第12回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第13回	物質代謝に作用する薬物
第14回	皮膚科用薬・眼科用薬、消毒薬
第15回	救急の際に使用される薬物、輸液剤・輸血剤

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]「薬理学」』吉岡充弘、泉 剛、井関健編著（医学書院）
参考文献	『NEW 薬理学』田中 千賀子、加藤 隆一 編著（南江堂）
オフィスアワー	出講日の授業時間後
事前学習（内容・時間）	次の講義内容を教科書で確認しておいてください（1時間）。
事後学習（内容・時間）	授業内容が広範囲に及ぶため、1回の講義に対して、最低1時間の復習をされることをお勧めします。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学	日高 庸晴	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21104

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

- 「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付ける。
- 疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解する。
- 現代の健康問題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義
第2回	疫学の基礎的な考え方:因果関係や疾病・診断の定義
第3回 AL	疫学調査1:研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性+ALワーク
第4回 AL	疫学調査2:研究倫理、質問紙調査方法1+ALワーク
第5回 AL	疫学調査3:質問紙調査方法2+ALワーク
第6回	スクリーニングと予防・慢性疾患の疫学
第7回	臨床疫学
第8回	感染症疫学1:主な感染症、要因、流行、予防
第9回	感染症疫学2:注目される新興・再興感染症、関連法規
第10回 AL	行動疫学+ALコメントシート
第11回	我が国の公衆衛生の歴史
第12回	差別と疾病ーハンセン病の歴史+ALコメントシート
第13回	環境疫学・産業疫学
第14回 AL	国際保健学(アフリカでの疫学研究の実際)+ALコメントシート
第15回	疾病別の疫学動向

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』牧本清子（医学書院）
参考文献	適宜紹介します。
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30
事前学習（内容・時間）	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（30分）
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
福祉情報技術	宮阪 信次	講義・演習	2年次 前期	選択	2	30	KSB23201

科目の概要

電子・情報技術の進歩によって私達の生活は便利で豊かになり、新しい福祉社会を実現しようとする試みが始まった。本講義では、看護をされる側、する側が容易に情報の共有ができるネットワークや障害者・高齢者に使いやすい福祉機器・コミュニケーション支援技術の特質などの現状・将来について講義する。

到達目標

- ・コミュニケーション支援に関する福祉情報技術の理論を理解し、実践につなげる。
- ・ピアカウンセリングのグループ実習を通じて、コミュニケーション支援の考え方を身に付ける。
- ・肢体不自由者用ソフトを用いた疑似体験実習から、障害者・高齢者に使いやすい福祉機器の知識を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション「福祉と情報処理技術」福祉とは？
第2回	障害者・高齢者とは(1)「障害の定義と統計」
第3回	障害者・高齢者とは(2)「高齢者の機能」
第4回 AL	障害の疑似体験と共感的理解 疑似体験(障害共感)
第5回	心身の機能とその障害 調査結果プレゼンテーション(健康寿命と平均寿命)
第6回 AL	ピアカウンセリングの説明 グループ課題(ロールプレイ実習)
第7回 AL	ピアカウンセリング発表会と相互討議
第8回	障害者・高齢者が使いやすいヒューマンインターフェースとは
第9回	障害者・高齢者の可能性を拓けるコンピュータ機能
第10回	情報機器のアクセシビリティ(1)
第11回	情報機器のアクセシビリティ(2)
第12回 AL	肢体不自由者用ソフト「オペナビ」体験 グループ体験(ソフトを用いた体験実習)
第13回 AL	体験実習発表会と相互討議
第14回 AL	グループ別調査課題の発表会
第15回	課題本の発表、日本・海外の教育・福祉制度

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 50% 成果物 30% 小テスト 20%
教科書	『福祉と情報技術 (知の科学)』市川薫ほか (オーム社)
参考文献	『死はこわくない』立花隆 (文藝春秋) 2章のみ
オフィスアワー	出講日の授業の前後30分間
事前学習(内容・時間)	講義中に紹介した文献などは次回までに読んでおくこと (1時間)
事後学習(内容・時間)	講義中に出す課題について個人ファイルに作成すること (1時間)
備考	講義・実習が後の講義・演習に大きく影響するので欠席がないようしてください。 Power pointは講義・演習で不可欠なツールであるので基本機能をマスターしておいてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
カウンセリング	増田 千景	講義	2年次 前期	選択	1	30	KSB23102

科目の概要

看護職として対象者に日常的に接する中で、いかに対象者の心理的状态を把握し、効果的なケアに結びつけられればよいのかについて、カウンセリングの理論や技法から考える。様々な精神疾患や心理療法の基礎理論を紹介し、心理テストや個別の作業学習、グループ演習を通して実践的に取り組み学ぶ。

到達目標

- 気分障害・神経症性障害・統合失調症といった精神疾患の概要と援助方法が説明できる。
- 行動療法、精神分析的な心理療法の基礎理論と技法を日常の中に見られる諸現象と関連づけて説明できる。
- さまざまな心理テストに取り組むと共に、アセスメントの注意点について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	「こころ」って何だろう？(レポート課題)
第2回	気分障害とその援助①
第3回 AL	気分障害とその援助②(レポート課題)
第4回 AL	神経症性障害とその援助(レポート課題)
第5回 AL	ストレス理論とバーンアウト(作業学習、グループ討論)
第6回	映画から学ぶ統合失調症(前編)
第7回	映画から学ぶ統合失調症(後編)
第8回 AL	統合失調症とその援助(レポート課題)
第9回 AL	心理アセスメントの基礎知識①:質問紙法(作業学習、グループ討論)
第10回 AL	心理アセスメントの基礎知識②:投影法(作業学習、グループ討論)
第11回	学習理論と行動療法①
第12回	学習理論と行動療法②
第13回 AL	学習理論と行動療法③(レポート課題)
第14回	精神分析的な心理療法(レポート課題)
第15回	全体のまとめと復習

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% レポート課題 30% 小テスト 20%
教科書	『看護学生のための心理学』長田久雄 編 (医学書院)
参考文献	講義内に適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	講義時に使用するテキストのページ、参考文献を次回講義までに読んでおくこと。(30分)
事後学習(内容・時間)	講義時に配布したレジュメを参考にしてノートにまとめる。(45分)
備考	小テストはレポート2回を予定しています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川章子	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21105

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を学び、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を習得させる。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを学ぶ。

到達目標

- 医療従事者として理解しておかなければならない社会保障を理解する。
- グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして考察する。
- 社会福祉学を通して、「人を援助する」ことを学び修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第2回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第3回	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第4回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第5回 AL	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第6回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第7回	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第8回 AL	青年期の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第9回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	高齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回 AL	成人期以降の社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループワークを行う。
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回	年金制度の概要 —— 障害年金・遺族年金・老齢年金 ——

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 50% 定期試験(レポート) 50%
教科書	特になし。毎講義で講師の方から用意します。
参考文献	『はじめての社会保障』 椋野美智子、田中耕太郎 (有斐閣)
オフィスアワー	出講日の授業後
事前学習(内容・時間)	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと。(1時間)
事後学習(内容・時間)	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること。(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	講義・演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について学ぶ。具体的にはEBMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムの概要を学ぶ。さらに医療情報や公の統計情報のなどの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌、PubMedなど情報リソースを活用した情報収集とその整理・分析方法を理解し、収集したデータの集計およびプレゼンテーション方法をも身につけることを目標とする。

到達目標

- 情報をアクティブに収集していくことの重要性を理解する。
- 情報収集の過程で、情報にはクオリティがあることを知る。
- 情報のクオリティと善し悪しを見分け、最善の情報を収集する技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションー現代社会における公衆衛生上の課題
第2回	EBMの理念
第3回	患者中心の医療のための情報化と医療現場における情報システム
第4回 AL	保健衛生に関する統計資料(1)
第5回 AL	保健衛生に関する統計資料(2)
第6回 AL	保健衛生に関する統計資料(3)
第7回 AL	保健衛生に関する統計資料(4)
第8回	医学研究における倫理と患者対象調査
第9回 AL	医療情報の検索方法(1)(検索演習)
第10回 AL	医療情報の検索方法(2)(検索演習)
第11回 AL	医療情報の検索演習+AL(検索演習)
第12回 AL	医療情報の検索演習+AL(検索演習)
第13回 AL	プレゼンテーション
第14回 AL	プレゼンテーション
第15回	労働者の職場環境や職業性ストレスとワークライフバランス

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	適宜配付資料を用意します。
参考文献	適宜紹介します。
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと（30分）
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。バブル崩壊、リーマンショック、企業の倒産、失業率の増加、少子化・高齢化の促進等がその要因となっている。本講義により、医療と経済の関係を理解し、効果的・効率的なケアを保証する看護の必要性を理解する。

到達目標

- 経済学の基本を理解する。
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で読めるようになる。
- 医療と経済の関わりを理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回	経済学の基礎
第3回 AL	人口動態と医療・看護の関係
第4回 AL	世帯構成と医療・看護の関係
第5回 AL	高齢者の生活状況と医療・看護の関係
第6回 AL	労働と医療・看護の関係
第7回 AL	医療従事者数、医療施設数と医療・看護に期待されること
第8回 AL	介護保険と医療・看護の関係
第9回 AL	福祉従事者、福祉施設と医療・看護の関係
第10回 AL	国民医療費の推移と医療・看護の関係
第11回 AL	社会保障給付金と医療・看護の関係
第12回 AL	保健師、保健所と医療・看護の関係
第13回	財務諸表の基礎
第14回	病院経営
第15回	医療と経済のまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% レポート課題 30%
教科書	配布資料 厚生労働省のホームページより必要な統計データをダウンロードしていただきます。(講義で指示します)
参考文献	『国民衛生の動向 2016/2017』厚生労働統計協会(厚生労働統計協会)
オフィスアワー	講義前、講義後の時間で設定
事前学習(内容・時間)	授業計画の確認と専門用語の下調べ(90分)
事後学習(内容・時間)	レジュメおよびワークショップについて復習する(90分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生涯教育論	伊佐 夏実	講義	2年次 後期	選択	2	30	KSB23101

科目の概要

これからの社会で必要とされる生涯教育（生涯学習）とは何か、生涯教育の理念や意義、役割について学び、今後の生涯教育の在り方についての理解を深めるための内容を講義する。また、ワークショップやグループワークを通して、参加型の学習方法についても体験することで学んでいく。

到達目標

- 現代社会における生涯教育についての理解を深める
- これからの生涯学習社会の中で自己の生涯学習に取り組むスキルや方法を身につける
- 社会教育の専門的職員として活動するための基礎的な能力を身につける

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション 生涯にわたる人間形成
第2回 AL	生涯教育の理念と思想〔グループワーク〕
第3回 AL	生涯学習と学校教育〔グループワーク〕
第4回 AL	生涯学習と社会教育・家庭教育〔グループワーク〕
第5回 AL	生涯学習の多様な学習方法1 〔グループワーク〕
第6回 AL	生涯学習の多様な学習方法2 〔グループワーク〕
第7回 AL	生涯学習活動を支える社会教育施設の役割〔グループワーク〕
第8回 AL	子どもを育てる地域コミュニティ〔グループワーク〕
第9回 AL	南北問題やグローバルな課題への取り組み〔グループワーク〕
第10回 AL	多文化共生社会のなかでの生涯学習の役割〔グループワーク〕
第11回 AL	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割①〔グループワーク〕
第12回 AL	男女共同参画社会のなかでの生涯学習の役割②〔グループワーク〕
第13回 AL	メディア・リテラシー①メディア・リテラシーの概念と今日的課題〔グループワーク〕
第14回 AL	メディア・リテラシー②〔グループワーク〕
第15回 AL	これからの生涯教育（生涯学習）を構想する〔グループワーク〕

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）50％ レポート課題30％ 小テスト20％
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。
参考文献	なし
オフィスアワー	出講日の授業前後
事前学習（内容・時間）	毎時間グループワークを行いますので、テーマについて事前に調べてくること（1時間）
事後学習（内容・時間）	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること（1時間）
備考	本講義は、造形芸術学部在籍し、博物館学芸員の資格取得を希望する学生対象の授業との複式で開講しますので、受講生の意欲的な参加を求めます。また、科目の性質上毎時間ワークショップを実施しますので、受講者数の上限を40名とし、予定を上回る場合は抽選を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康	今村 ふみ子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

骨格の正しい位置と形状や特徴を理解して、動きやすい身体を構築していく授業です。ヤムナボールという特殊なボールを使って筋肉を理解し、関節の可動域を広げ、骨に刺激を与えて柔軟性、そして筋力を上げていきます。また、ピラティスやヨガのプログラムも含めて様々な呼吸法を学び、筋肉チェーンを理解して、強くしなやかな身体作りの方法を学びます。フットセラピーでは、足部の重要性を、フェイストレーニングでは顔面骨頭蓋骨を学びます。

到達目標

- フットセラピーの反射区ツボの施術を理解する。
- ヤムナボールを使って、身体の使い方を理解する。
- ピラティスを体験して、柔軟性と筋力のバランスを理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	骨格ワーク① 骨の役割と関節の機能(下半身)フットセラピー 関節筋周辺のほぐし キレイBODYワーク
第2回 AL	骨格ワーク② 骨の役割と関節の機能(上半身)フットセラピー 肩関節周辺のほぐし キレイBODYワーク
第3回 AL	骨格ワーク③ 頭蓋骨と顔面骨 フェイスリフトワーク キレイBODYワーク 顎関節と股関節のワーク
第4回 AL	骨格ワーク④ 脊柱の役割と全身のつながり 関節ほぐし体操 ピラティスマットワーク
第5回 AL	骨格ワーク⑤ ピラティスワークの必要性と全身のつながり フットセラピー キレイBODYワーク ピラティス
第6回 AL	腹筋の役割 筋の種類と関節筋 ピラティスマットワーク フットセラピー
第7回 AL	腹筋の役割 深呼吸と表層筋 ピラティスマットワーク フットセラピー
第8回 AL	内臓と筋肉・骨格の関係 呼吸法(ヨガ)
第9回 AL	筋コンディショニングとストレッチ e-ストレッチ キレイBODY
第10回 AL	筋コンディショニングとストレッチ バランスワーク・腹筋スクワット・プッシュアップ
第11回 AL	ピラティス理論と実技
第12回 AL	ヨガ理論と実技
第13回 AL	フットセラピーの理論と実技
第14回 AL	骨格ワークからだと心とつながるストレスフリーワークとは？
第15回 AL	まとめ 実技試験

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（実技）100%
教科書	毎回プリントを配布
参考文献	なし
オフィスアワー	授業後15分
事前学習(内容・時間)	質問事項を1つ考えてくる（10分程度）
事後学習(内容・時間)	講義中に習った簡単なエクササイズを実践し、確認する（10分程度）
備考	水分を補給しながらの実技なので水を用意してください。Gパン・スカートは×。動きやすい服装で。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅰ (概論)	峯岸由紀子	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSP11101

科目の概要

看護を構成する「健康」「環境」、看護の対象の「人間」の捉え方、看護の役割・機能である「看護活動」など、4年間の看護学の学習の基本となる概念を学ぶ。また、看護実践における倫理的な問題と、専門職業人としての看護職者の責務について学ぶ。

到達目標

- 看護の役割と機能を説明できる。
- 看護の対象である人間を、健康という側面から説明できる。
- 専門職業人としての看護職者の責務について説明できる。
- 看護職者に必要な倫理的態度について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	1) ガイダンス: 本看護学科のカリキュラムにおける看護学概論の位置づけ、学習の方法 2) 看護の本質①
第2回	1) 看護の本質② 2) 看護の役割と機能①(看護ケアについて)
第3回 AL	グループワーク「ナイチンゲールおよびヘンダーソンの看護」
第4回	看護の役割と機能②(看護実践とその質保障、看護の役割・機能の拡大)
第5回	看護の対象の理解(人間の心とからだ、生涯発達し続ける存在としての人間)
第6回	看護の提供者(職業としての看護、看護職の養成制度と就業状況、看護職者の教育とキャリア開発)
第7回	健康のとらえかた(WHOの健康の定義、国際生活機能分類、継続看護)
第8回 AL	グループによる発表「看護における倫理」
第9回 AL	グループワーク「なぜ、倫理について学ぶのか」
第10回 AL	グループによる発表「看護の提供のしくみ」①(サービスとしての看護、看護サービスの提供の場、看護をめぐる制度と政策)
第11回 AL	グループによる発表「看護の提供のしくみ」②(看護サービスの管理、医療安全と医療の質保証)
第12回 AL	グループによる発表「広がる看護の活動領域」①(国際化と看護)
第13回 AL	グループによる発表「広がる看護の活動領域」②(災害時における看護)
第14回 AL	グループワーク「私はどのような看護の場で活動したいと思うか」
第15回 AL	個人による発表「私はどのような看護の場で活動したいと思うか」、まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]「看護学概論」』茂野香おる(医学書院) 『看護の基本となるもの』V. ヘンダーソン著、湯槇ます、小玉香津子訳(日本看護協会出版会) 『ワークブックで学ぶ ナイチンゲール＜看護覚書＞』徳本弘子(メヂカルフレンド社) 『看護覚え書 看護であること看護でないこと』F. ナイチンゲール著、湯槇ます訳(現代社)
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	月曜 12:20～13:20
事前学習(内容・時間)	教科書の指定された項目を読んでくること。グループによる発表についてはPowerPointを使用して発表できるように準備すること。個人への課題も必ずやってくる。 (2時間)
事後学習(内容・時間)	講義およびグループ発表された内容の理解と記憶をすること。 (1時間)
備考	・成績評価の成果物には、小テスト、課題レポート、グループワーク提出物等を含む。 ・入学前の各個人の経験による看護のイメージから、専門職業人としての看護へと、知識および態度の転換を図る。看護の活動分野が拡大していること、それにより看護職者にはより高度の能力が求められていることを理解し、自分の看護職者としての将来のビジョンを描き、それを目標として学修する態度を養う科目である。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅱ (コミュニケーション技術)	澤田 京子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

看護師は患者を中心としたチーム医療の中で、高いコミュニケーション能力が期待される。そのために患者や家族に対する良好なコミュニケーション能力を習得する必要がある。看護師の何気ない一言や態度で患者との信頼関係が崩壊するケースがある。本講義では、患者と良好なコミュニケーションをとるための基礎的知識について学習する。コミュニケーション技術は演習を通して学ぶ。

到達目標

- 共感について説明できる。
- 日常生活場面でのあいさつや敬語が使える。
- 実習におけるコミュニケーションに必要な態度を述べることができる。
- コミュニケーション技法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	1) ガイダンス 2) コミュニケーションとは
第2回 AL	特別講義 「コミュニケーションとマナー」
第3回 AL	特別講義 「コミュニケーションとマナー」
第4回 AL	グループワークの方法
第5回 AL	トータルコミュニケーション(言語と準言語と非言語)
第6回 AL	準言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第7回 AL	事例のグループワーク
第8回 AL	事例のグループワーク 発表
第9回 AL	アクティブラーニング(「聞く」と「聴く」語調から聴く、表情から聴く、状況から聴く)
第10回 AL	共感(同情と共感、励ましと共感、共感の効果)
第11回 AL	コミュニケーション技法(うなずきと相づち、繰り返し、明確化)
第12回 AL	プロセスレコード
第13回 AL	アサーティブ・コミュニケーション
第14回 AL	実習におけるコミュニケーション技術①
第15回 AL	実習におけるコミュニケーション技術②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% レポート課題 20%
教科書	資料配布
参考文献	『誰と一緒にでも疲れない「聴き方・話し方」のコツ』水島広子(日本実業出版社) 『やっぱり見た目が9割』竹内一郎(新潮社)
オフィスアワー	授業前後30分
事前学習(内容・時間)	自分の日常生活でのコミュニケーションを振り返る。(15分)
事後学習(内容・時間)	日常生活での挨拶や敬語が使えるように努力する。(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅲ (健康教育)	藤田 俱子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

看護職者は、普段から入院している患者に教育的なかかわりを持つほか、患者および地域に暮らす人々を対象に健康教育を行う。本科目は、患者および地域に暮らす人々を対象とした健康教育の理念および健康教育に用いられる理論と方法について理解することを目的とする。また、集団を対象とする効果的な健康教育の方法、実践的なアプローチを、演習を通して理解できるよう教授する。

到達目標

- 健康教育の目的を説明できる。
- 健康教育に用いられる種々の理論について説明できる。
- 健康教育の企画、立案、実践、評価ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	健康教育の理念
第2回	保健・医療と健康教育
第3回	保健行動と健康教育
第4回	健康教育の理論(ヘルスビリーフモデル)
第5回	健康教育の理論(自己効力感)
第6回	健康教育の理論(変化のステージ理論)
第7回	健康教育の理論(プリシード・プロシードモデル)
第8回 AL	健康教育の方法と媒体
第9回	個人とコミュニティを対象とした健康教育と評価
第10回 AL	健康教育実施演習1(企画立案1)
第11回 AL	健康教育実施演習2(企画立案2)
第12回 AL	健康教育実施演習3(媒体作成)
第13回 AL	健康教育実施演習4(発表・評価1)
第14回 AL	健康教育実施演習5(発表・評価2)
第15回 AL	健康教育の目的と方法と媒体の関係の理解

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%
教科書	『最新保健学講座(別巻1) 健康教育論』宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著(メヂカルフレンド社)
参考文献	『チェンジング・フォー・グッド』ジェイムズ・オー・プロチャスカ他著、中村正和監訳(法研)
オフィスアワー	オフィスアワーの一覧表参照
事前学習(内容・時間)	自分自身および周囲の人の健康に関連する行動について考えてみよう(30分)
事後学習(内容・時間)	自分自身および周囲の人の健康課題を解決するための健康教育について考えてみよう(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－1 (基礎看護技術)	峯岸・澤田 假谷・平野	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護の対象者が日常生活を送る上で必要な基本的ニーズについての理解を深め、健康の維持・増進や健康の回復、疾病の予防のために必要な基本的な看護技術を修得する。看護技術を実施する時には、目的や根拠を明確にして、安全で安楽な技術を目指す。さらに、看護技術そのものに潜む危険や実施する看護者、看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保についても考察できるようにする。

到達目標

- 看護技術の根拠を明確にし、原理原則に基づいた技術が実施できる。
- 技術そのものに潜む危険や実施する看護者、看護場面に潜むリスクを認識し、対象者の安全の確保について考察できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス:看護技術の考え方、受講の手引き、実習室の使い方
第2回	講義「環境」に関する看護技術
第3回 AL	演習「ベッドメイキング」
第4回	講義「ボディメカニクス、活動と休息」に関する看護技術
第5回 AL	演習「安楽な体位、体位変換」①
第6回 AL	演習「安楽な体位、体位変換」②
第7回 AL	演習「体位変換と移送の方法」③
第8回	講義「清潔」に関する看護技術
第9回 AL	演習「臥床患者のシーツ交換」
第10回 AL	演習「洗髪」
第11回 AL	演習「寝衣交換」
第12回 AL	演習「清拭・足浴」①
第13回 AL	演習「清拭・足浴」②
第14回	技術チェック
第15回	講義「安全・安楽」 まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ 成果物 40％
教科書	『基礎看護技術』阿曾洋子他（医学書院） 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』任 和子他（医学書院）
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]「解剖生理学」』坂井建雄、岡田隆夫（医学書院） その他は授業で紹介します
オフィスアワー	金曜 13:30～17:00
事前学習（内容・時間）	授業資料とテキストを読み、手順書を講義・演習までに学習して臨んでください。（3時間）
事後学習（内容・時間）	演習レポート・国家試験過去問等の学習課題を期限までに提出してください。単元で学習した看護技術について、技術修得できるまで繰り返し練習をしてください。（6時間）
備考	・成績評価の成果物は、演習・課題・技術チェックから総合して評価します。 ・目的や根拠を明確にし、安全で安楽な技術を修得できるように繰り返し練習を重ねてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅳ－２ (基礎看護技術)	峯岸・澤田 假谷・平野	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

基礎看護学Ⅳ－２では、看護の対象となる人が、安楽で安全に診療が受けられる援助と、医師の診療の補助に関する基礎的知識・技術・態度を修得することをめざす。看護における診療に伴う技術は、医師の指示に基づいて診療の補助を行うと同時に、患者の療養上の世話を含めた観察と援助を含む。そのため、看護の対象となる人の状態を把握して、適切なアセスメントを行い、最適な状態になるような方法で、診療の援助が展開できる基礎的能力を養う。具体的な内容においては、バイタルサイン、電法、食事、排泄、感染予防、薬物療法、検査に関する看護技術を学ぶ。

到達目標

- バイタルサインの測定ができる。
- 無菌操作が確実にできる。感染性廃棄物の取り扱いができる。
- 食事・排泄の援助ができる。
- 薬物療法・検査時における安全の確認ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	診療の補助とは 演習計画 バイタルサインとは(講義)①
第2回	バイタルサイン②(講義)
第3回 AL	バイタルサイン③(演習)
第4回	バイタルサイン④(講義)
第5回 AL	バイタルサイン⑤(演習)
第6回	電法の原理と援助方法①(講義)
第7回 AL	電法の原理と援助方法②(演習)
第8回	感染予防①[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](講義)
第9回 AL	感染予防②[標準予防策・手指衛生・防護用具の装着](演習)
第10回	感染予防①[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](講義)
第11回 AL	感染予防②[滅菌物の取り扱い・消毒物品の渡し方](演習)
第12回	食事の援助①[栄養と食事](講義)
第13回 AL	食事の援助②[食事介助・口腔ケア](演習)
第14回 AL	食事の援助③[食事介助・口腔ケア](演習)
第15回	排泄の援助①(講義)
第16回 AL	排泄の援助②(演習)
第17回	導尿・浣腸の援助①(講義)
第18回 AL	導尿・浣腸の援助②(演習)
第19回 AL	導尿・浣腸の援助③(演習)
第20回	薬物療法①[薬物療法とは・薬物療法の種類・経口・吸入・直腸など](講義)
第21回 AL	薬物療法②[薬物療法とは・薬物療法の種類・経口・吸入・直腸など](演習)
第22回	薬物療法①[注射に関する薬物療法とその方法(皮内・皮下・筋肉内)](講義)
第23回 AL	薬物療法②[注射に関する薬物療法とその方法(皮内・皮下・筋肉内)](演習)
第24回	薬物療法①[薬物療法の方法(静脈内・点滴静脈内)](講義)
第25回 AL	薬物療法②[薬物療法の方法(静脈内・点滴静脈内)](演習)
第26回	検査時の援助①(採血・検尿)(講義)
第27回 AL	検査時の援助②(採血・検尿)(演習)
第28回	技術チェック①
第29回	技術チェック②
第30回	診療の補助のまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 定期試験(実技) 30% レポート課題 30%
教科書	『基礎看護技術』阿曾洋子(医学書院) 『基礎・臨床看護技術』任 和子(医学書院)
参考文献	『ナーシンググラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術』志自岐 康子他(メディカ出版) 『基礎看護学テキスト』深井喜代子(南江堂)
オフィスアワー	月曜 12:20～13:20
事前学習(内容・時間)	事前学習課題・手順書を講義・演習までに学習して臨んでください。(2時間)
事後学習(内容・時間)	演習レポート・国家試験過去問等の学習課題を期限までに提出してください。(2時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント)	峯岸由紀子 假谷ゆかり 平野加代子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

看護には、人々の健康状態を理解し、その人らしく生きていくことができるように支援する役割がある。基礎看護学Ⅴの講義では、看護の対象となる人の健康状態を、系統立ててアセスメントするために必要な基礎的知識を学習する。さらに、演習では、安全・安楽に留意して、現在の状態を的確に判断するために必要な問診とフィジカルイグザミネーションを実施し、基礎的知識・技術・態度の修得をめざす。

到達目標

- 呼吸系、循環系、消化系、感覚系、運動系、脳神経系の基本的な問診とフィジカルイグザミネーションが実施できる。
- 事例に応じたフィジカルアセスメントができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	フィジカルアセスメントの概念、基本技術：問診・視診・触診・打診・聴診
第2回	呼吸系のフィジカルアセスメント [講義]
第3回	呼吸系のフィジカルアセスメント [演習]
第4回	循環系のフィジカルアセスメント [講義]
第5回	循環系のフィジカルアセスメント [演習]
第6回	消化系のフィジカルアセスメント [講義]
第7回	消化系のフィジカルアセスメント [演習]
第8回	感覚系のフィジカルアセスメント [講義]
第9回	感覚系のフィジカルアセスメント [演習]
第10回	運動系のフィジカルアセスメント [講義]
第11回	運動系のフィジカルアセスメント [演習]
第12回	脳神経系のフィジカルアセスメント [講義]
第13回	脳神経系のフィジカルアセスメント [演習]
第14回	フィジカルアセスメントの方法 事例用いたシステムレビュー(総合演習)
第15回	フィジカルアセスメントのまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% レポート課題 20%
教科書	『フィジカルアセスメント完全ガイド』藤崎郁(学研) 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹(メヂカルフレンド社)
参考文献	『フィジカルアセスメントガイドブック』山内豊明(医学書院) 『診察と手技がみえるVOL. 1』古谷伸之(メディックメディア)
オフィスアワー	月曜、水曜 15:00～17:00
事前学習(内容・時間)	フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能に関する事前学習課題(2時間)
事後学習(内容・時間)	演習レポート・国家試験過去問題等の課題(1時間)
備考	事前学習を通し、基礎的知識を理解して講義・演習に臨みましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学Ⅵ (看護過程)	峯岸由紀子	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程とは、看護の知識体系に基づいて、対象の健康上の問題を明らかにし、最適かつ個別的な看護を提供するための組織的・系統的な看護実践方法のひとつである。本科目においては、看護問題とは何かを理解し、その問題を解決する思考過程について学ぶ。この科目での修得事項は、基礎看護学実習Ⅱにおいて実践する。

到達目標

- 看護過程とは何かを理解することができる。
- 事例について、看護上必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。
- 事例について、看護上の問題を明確にすることができる。
- 事例について、看護計画を立案することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス:看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の起源と進展
第2回	看護過程の各段階(1)アセスメント(情報収集・分析・解釈・推論・問題の統合)
第3回	看護過程の各段階(2)看護上の問題の明確化、全体像の把握
第4回	看護過程の各段階(3)看護目標、具体的援助計画の立案
第5回	看護過程の各段階(4)実施・評価
第6回 AL	事例を用いた看護過程の展開(1)事例の提示、情報収集
第7回 AL	事例を用いた看護過程の展開(2)情報の分析・解釈・推論・統合<1>
第8回 AL	事例を用いた看護過程の展開(3)情報の分析・解釈・推論・統合<2>
第9回 AL	事例を用いた看護過程の展開(4)看護問題の明確化
第10回 AL	事例を用いた看護過程の展開(5)全体像の把握
第11回 AL	事例を用いた看護過程の展開(6)看護目標の策定
第12回 AL	事例を用いた看護過程の展開(7)具体的援助計画の立案
第13回 AL	事例を用いた看護過程の展開(8)実施
第14回 AL	事例を用いた看護過程の展開(9)評価
第15回 AL	事例を用いた看護過程の展開(10)まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 60% 定期試験(筆記) 40%
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」』有田清子(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱのなかで、事例の疾患に応じて使用する。(他の授業で使用するものを共用する)
参考文献	『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド』任 和子(照林社) 『疾患別 看護過程の展開』山口瑞穂子、関口恵子監修(学研)
オフィスアワー	月曜 12:20～13:20
事前学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読んでおく。(1時間)
事後学習(内容・時間)	指定された課題を必ずやってくる。 (2時間)
備考	・成績評価のレポート課題には、授業時に実施する小テストも含む。 ・本科目を修得するには、看護学科の広範な他の科目で学んだ知識と、それらの知識を活用する論理的思考力が必要である。各授業は、すべて前回授業時の内容を習得していることが前提になるので、授業を欠席すると科目全体の理解が困難になる。知識を伝達する授業ではなく、学生自身の論理的思考力を訓練するものなので、主体的な学習態度が求められる。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅰ (概論)	瀬川 睦子	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSP11102

科目の概要

成人各期の身体的・心理社会的特徴、発達課題、生活の特徴を学ぶとともに、健康障害による生活への影響を理解する。また、生活習慣、職業、生活ストレスに関連する健康障害について理解するとともに、様々な健康障害をもつ成人期にある人々への問題解決のために必要な概念や理論について学ぶ。

到達目標

- 成人各期の特徴を身体的変化と心理・社会的諸相との関連による統一体として理解できる。
- 成長発達過程と健康及び健康破綻について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
- セルフケアによる生活の再構築やQOL維持への援助について説明できる。
- 成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
- 健康レベルに応じた看護の方法に関する主要概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	成人期にある人の理解:ライフサイクルから見た成人各期の区分と特徴
第2回 AL	成人期の特徴:身体的変化と精神的・社会的発達の相互的關係
第3回	成人期にある人の健康①:生涯発達の視点から見た成人期の人の健康をめぐる諸問題
第4回	成人期にある人の健康②:ライフモデルでとらえる成人期の人の保健と健康障害
第5回	成人への基本的な看護アプローチ:機能障害とセルフケアへの援助
第6回 AL	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 ー1) 事例検討
第7回 AL	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害 ー2) 事例検討
第8回	急性期の対象と看護:慢性的経過をたどる疾患の急性増悪期
第9回	慢性期の対象と看護:慢性期にある人の自律とアンドラゴジー理論(成人教育)
第10回	終末期の対象と看護:終末期にある人の苦痛・不安への緩和ケア
第11回 AL	終末期の対象と看護:ターミナル期における悲嘆とその人らしさへの援助
第12回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 ー1)
第13回	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論 ー2)
第14回	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護:ヘルスプロモーション(1次予防・2次予防・3次予防)
第15回	成人看護における倫理と今日的課題

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 90% レポート課題 10%
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える』林直子、佐藤まゆみ編集(南江堂)
参考文献	『系統看護学講座 成人分野Ⅱ 成人看護学[1]「成人看護学総論」』小松浩子他(医学書院) 『ナースングラフィカ 成人看護学(1) 成人看護学概論』安酸史子編集(メディカ出版)
オフィスアワー	火、木曜日 16:30～17:30
事前学習(内容・時間)	次回のシラバスの内容について予習する。(1時間)
事後学習(内容・時間)	授業で理解できなかったことを各自で学習する。(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅱ (急性期・回復期援助論)	佐藤 郁代 大串 晃弘	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

健康面において急激な変化を生じる状況におかれた成人期にある患者およびその家族に対する侵襲に伴う変化への対応、心身の回復に向けたクリティカルケアについて学ぶ。また、回復期において患者・家族が日常生活へ復帰するための看護について学ぶ。

到達目標

- 急性期・回復期およびクリティカルケアの概念と、急性期・回復期にある患者・家族の身体・心理・社会的状況の特徴が理解できる。
- 周手術期看護の概要および必要な看護が理解できる。
- 手術や侵襲による生体反応および回復過程と回復を促進するための援助が理解できる。
- 回復期におけるリハビリテーションの概念および日常生活に復帰するために必要な援助について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	急性期およびクリティカルケアの概念
第2回	危機的状態にある患者・家族の特徴
第3回	侵襲とは
第4回	侵襲に対する生体反応
第5回	呼吸機能障害とケア
第6回	循環機能障害とケア
第7回	脳・神経機能障害とケア
第8回	凝固・線溶系機能障害および重症感染症とケア
第9回	創傷とケア
第10回	精神障害を呈する場合のケア
第11回	救急医療の概要
第12回	一次救命処置・二次救命処置の原則と実際
第13回	周手術期看護の概要
第14回	術前看護(術前患者のアセスメント、術前オリエンテーション、術前訓練)
第15回	術前看護(手術前日の看護、手術当日の看護)
第16回	術中看護
第17回	術後看護(術後合併症の予防と発症時の対応①)
第18回	術後看護(術後合併症の予防と発症時の対応②)
第19回	術後看護(疼痛管理、手術創部の観察と処置、ドレーンの管理)
第20回	術後看護(早期離床への援助、回復を促進させる援助)
第21回	肺葉切除術を受ける患者の看護
第22回	胃切除術を受ける患者の看護、胆嚢摘出術を受ける患者の看護
第23回	子宮全摘術を受ける患者の看護、乳房切除術を受ける患者の看護
第24回	前立腺摘出術を受ける患者の看護、人工股関節置換術を受ける患者の看護
第25回	呼吸管理の技術
第26回	体液・循環管理の技術
第27回	回復期の概念
第28回	回復期にある患者・家族の特徴
第29回	急性期・回復期のチーム医療の特殊性
第30回	日常生活に復帰するために必要な援助

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記)80%、レポート課題20%
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護』林直子、佐藤まゆみ編集(南江堂) 『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護』佐藤まゆみ、林直子編集(南江堂)
参考文献	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅲ、成人看護学Ⅰで使用した教科書
オフィスアワー	講義・演習の後30分
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論、病態治療学(外科系)について学習しておいてください。(30分～1時間)
事後学習(内容・時間)	授業で理解できなかった内容について、自己学習をしてください。(30分～1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅲ (慢性期・終末期援助論)	山口 利子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人とその家族の特徴を理解し、病気とともに生活する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について学習する。ターミナルケア・緩和ケアに関する概念を理解し、ターミナルケアを必要とする人および家族への援助方法を学ぶ。

到達目標

- 慢性疾患をもつ人とその家族の特徴について説明できる。
- 長期にわたり療養法を行っていく慢性疾患をもつ人の援助方法について説明できる。
- 緩和・ターミナルケアにかかわる概念、援助の基本的な考え方を説明できる。
- 患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、ターミナルケア・緩和ケアの必要性を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	慢性疾患をもつ人の特徴と看護援助①
第2回 AL	慢性疾患をもつ人の特徴と看護援助②
第3回 AL	呼吸器系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助
第4回 AL	循環器系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助
第5回 AL	消化器系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助
第6回 AL	代謝・内分泌系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助①
第7回 AL	代謝・内分泌系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助②
第8回 AL	腎・泌尿器系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助
第9回 AL	脳・神経系の慢性疾患をもつ人とその家族への援助
第10回 AL	がんとともに生きる人への援助
第11回	化学療法・放射線療法を受ける人への援助
第12回	造血腫瘍をもつ人への援助
第13回	緩和ケア・ターミナルケアとは
第14回	ターミナル期にある人とその家族の特徴と援助
第15回 AL	ターミナルケアにおける倫理

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』鈴木久美編（南江堂） 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』鈴木静江編（ヌーヴェルヒロカワ）
参考文献	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱの教科書
オフィスアワー	具体的な日程が決まりしだい、お知らせします
事前学習（内容・時間）	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱで授業テーマと関連するところを復習しておくこと（1時間）
事後学習（内容・時間）	授業ノートと資料を整理し、復習をすること（1時間）
備考	主体的な参加を望みます

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	瀬川・山口 佐藤・大串	演習	3年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

成人期にある患者への看護における身体的な援助方法を実施（演習）し、救命や回復促進およびセルフマネジメントへの援助技術を修得する。

到達目標

- クリティカルな状態を理解し、救命救急技術を習得する。
- 手術侵襲による生体反応を理解し、回復を促進するための技術を習得する。
- 手術後の身体機能の変化や喪失に対する適応への援助および自己管理に向けた援助技術を習得する。
- 慢性疾患患者のセルフマネジメントを促進するための教育内容を理解し、具体的支援方法や支援技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	急性期の看護①(BLS)
第2回	急性期の看護②(AED)
第3回 AL	周手術期の事例検討 対象理解①(病態、治療、生活背景など)
第4回 AL	周手術期の事例検討 対象理解②(病態、治療、生活背景など)
第5回 AL	周手術期の事例検討 対象理解③(病態、治療、生活背景など)
第6回 AL	周手術期患者(事例)の看護計画立案①
第7回 AL	周手術期患者(事例)の看護計画立案②
第8回 AL	周手術期患者(事例)の看護計画立案③
第9回 AL	術前の看護(看護計画に基づいて実施・評価)
第10回 AL	術直後の看護①(呼吸・循環管理、体温管理、異常の早期発見)
第11回 AL	術直後の看護②(輸液管理、創傷管理、酸素吸入、吸引)
第12回 AL	術後の看護①(看護計画に基づいて実施:合併症予防の援助)
第13回 AL	術後の看護②(看護計画に基づいて実施:安楽・自立の援助)
第14回 AL	術後の看護③(ボディイメージ変化の受容に対する支援)
第15回 AL	退院に向けての看護②(状況に応じた看護計画の評価・修正)
第16回 AL	退院に向けての看護③(評価・修正した計画に基づいた実施)
第17回	摂食嚥下障害をもつ患者の看護①
第18回 AL	摂食嚥下障害をもつ患者の看護②
第19回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護①
第20回	呼吸理学療法を必要とする患者の看護②
第21回 AL	呼吸理学療法を必要とする患者の看護③
第22回	セルフマネジメントのための教育的支援(アンドラゴジー、教育的支援のプロセス)
第23回 AL	教育的支援の計画立案①
第24回 AL	教育的支援の計画立案②
第25回 AL	教育的支援の演習①(ピークフローモニタリング)
第26回 AL	教育的支援の演習②(呼吸法)
第27回 AL	教育的支援の演習③(糖尿病患者の食事療法)
第28回 AL	教育的支援の演習④(血糖自己測定)
第29回 AL	教育的支援の演習⑤(インスリン自己注射)
第30回 AL	教育的支援の演習⑥(透析患者の食事療法)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(レポート) 70% レポート課題30%
教科書	これまでに購入したテキストを使うため、適宜案内する。
参考文献	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』矢永勝彦、小路美喜子編集(医学書院) 『慢性期看護論』鈴木志津枝他編集(ヌーヴェルヒロカワ) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学「呼吸器」、「循環器」、「血液・造血器」、「消化器」、「内分泌・代謝」、「脳・神経」、「腎・泌尿器」、「女性生殖器」、「運動器」』(医学書院) 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護学概論』林直子他編集(南江堂)
オフィスアワー	演習終了後30分
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ～Ⅲ、成人看護学Ⅰ～Ⅲのなかの授業テーマと関連するところを事前に復習すること。(30分～1時間)
事後学習(内容・時間)	行った技術を繰り返し練習すること。行った援助をふりかえり、まとめること。(30分～1時間)
備考	グループワーク形式で行います。毎時の授業が後の授業に大きく影響するので、欠席しないようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅰ (概論)	原田 俊子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21101

科目の概要

高齢者とその家族に対して個別的看護を展開するための基盤となる知識である「高齢者看護の原理」として高齢者の「健康問題」、生活の場である「老年」「施設」「医療機関」、高齢者のQOL、家族の形態と社会問題、社会情勢の変化に伴う課題などについて学生の思考性や創造性を踏まえながら学習を進めていく。

到達目標

- 「若い」の意味について身体的、心理・精神的、社会的に特徴を捉え説明できる。
- 高齢化が社会に及ぼしている現状を知り、現状の課題と今後の課題について捉え説明できる。
- 高齢者を取り巻く社会制度と生活の場を捉えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	老年看護の理念と役割について学ぶ。若い学び:高齢者のイメージを言語化し、老年観を考える。
第2回	高齢期の発達課題の特徴
第3回	加齢・老化・高齢者・高齢者の健康・生活機能の概念
第4回	高齢者の社会生活とQOL:ライフストーリー
第5回	高齢者の社会的特徴:住環境・社会参加
第6回 AL	高齢者の身体的特徴・高齢者の心理的特徴
第7回 AL	老化とサクセスフルエイジングについて
第8回 AL	高齢者体験と身体の生理的变化の理解① 演習
第9回 AL	高齢者体験と身体の生理的变化の理解② 演習
第10回 AL	高齢者のコミュニケーション:ユマニチュード
第11回	高齢者のスピリチュアリティとスピリチュアルニード
第12回 AL	高齢者における倫理的課題とリスクマネジメント、高齢者の尊厳と権利擁護・アドボカシー・意思決定・虐待
第13回	高齢者を支える社会制度と社会資源:高齢者の生活の場を捉える。
第14回	高齢者医療の現状と課題
第15回	高齢者看護の理念と目標、老年看護学の今後の課題

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ レポート課題 40％
教科書	『老年看護学概論「若いを生きる」を支えることとは』正木治恵（南江堂） 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』真田弘美、正木治恵（南江堂） 『ナースンググラフィカ 老年看護学（2）高齢者看護の実践』堀内ふき ほか（メディカ出版）
参考文献	適宜資料を配布
オフィスアワー	月曜日5限
事前学習（内容・時間）	講義の理解を助けるための課題を課すので、必ず事前に取り組むこと。（45分）
事後学習（内容・時間）	講義終了後に講義内容の理解を深めるための課題を課します。忘れずに取り組むこと。（45分）
備考	高齢者の特徴を理解し、健康問題について学習を深めることを目的に、予習・復習の習慣化を図るためシラバスの進行に伴って事前学習を課す。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅱ (疾病と障害)	原田 俊子	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

加齢に伴い高齢者に発生頻度の高い疾患あるいは病態が、高齢者の生活にどのように影響しているのか特徴的な疾患を通して理解し、治療的、予防的視点から、学生自身が看護を思考し、創造できるように学習を進めていく。

到達目標

- 高齢者に特有な疾患とその病態について説明できる。
- 高齢者に特有な疾患の看護について説明できる。
- 高齢者の看護上の特徴と課題について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (循環器疾患)
第2回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (脳・神経系疾患)
第3回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (骨・運動器疾患)
第4回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (内分泌・代謝疾患)
第5回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (消化器系疾患)
第6回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (呼吸器疾患)
第7回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (腎泌尿器疾患)
第8回	高齢者に留意すべき疾患・病態の特性 (感覚器疾患), 老年看護学Ⅱまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ レポート課題 40％
教科書	『老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは』正木治恵（南江堂） 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』真田弘美、正木治恵（南江堂） 『ナースンググラフィカ 老年看護学2 高齢者看護の実践』堀内ふき ほか（メディカ出版）
参考文献	人体構造機能論Ⅰ、病態治療学Ⅰ・Ⅱのテキスト
オフィスアワー	月曜日5限
事前学習（内容・時間）	講義の理解を助けるための課題を課すので、必ず事前に取り組むこと。（45分）
事後学習（内容・時間）	講義終了後に講義内容の理解を深めるための課題を課します。忘れずに取り組むこと。（45分）
備考	加齢にともなう身体的変化・精神的変化・社会的変化を踏まえて、疾患を理解し、高齢者への看護を学習するため、老年看護学Ⅰ、およびフィジカルアセスメントを復習して受講することを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅲ (理論とアセスメント)	原田 俊子	演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

理論を活用した高齢者のアセスメントができるようになることを目的として高齢者を対象に個別的な看護ができるための援助の理論と看護の実践についてディスカッションを通してともに考えていく。具体的には、理論として（ニード論、セルフケア理論、危機の適応、役割理論、エンパワメント等）について事前や事後、授業中の課題に対応できる思考性や創造性を追求しながら学習目標の達成に向けて学習を進めていく。

到達目標

- 高齢者看護に活用するアセスメントのための理論が説明できる。
- 高齢者看護に活用するケアアプローチに関する理論が説明できる。
- 活用する理論を展開でき、グループワークを通して説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	高齢者看護に活用できる健康の概念 オリエンテーション
第2回	高齢者看護に活用できる理論とアプローチ
第3回	高齢者看護に活用できるニード論、セルフケア理論
第4回	高齢者看護に活用できるサクセスフルエイジング
第5回	高齢者看護に活用できるエンパワメント
第6回	高齢者看護に活用できる危機理論
第7回 AL	高齢者看護に活用できるコンプライアンス、アドヒアランスからコンコーダンス(1)
第8回 AL	高齢者看護に活用できるコンプライアンス、アドヒアランスからコンコーダンス(2)
第9回 AL	高齢者看護に活用できるウェルネスケアアプローチ
第10回	高齢者看護に活用できるコンフォート理論
第11回	高齢者看護に活用できるウェルネスケアアプローチとコンフォート理論 (1)
第12回	高齢者看護に活用できるウェルネスケアアプローチとコンフォート理論 (2)
第13回	高齢者看護に活用できる家族看護論①
第14回	高齢者看護に活用できる家族看護論②
第15回	グリーフケア:悲嘆とケア

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）60％ レポート課題 40％
教科書	『老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは』正木治恵（南江堂） 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』真田弘美、正木治恵（南江堂） 『ナーシンググラフィカ 老年看護学（2）高齢者看護の実践』堀内ふき ほか（メディカ出版）
参考文献	『コルカバ コンフォート理論』キャサリン・コルカバ（医学書院） 『コンコーダンス 患者の気持ちに寄り添うためのスキル21』安保寛明、武藤教志（医学書院） 随時資料を配布する
オフィスアワー	月曜日5限
事前学習（内容・時間）	講義の理解を助けるための課題を課すので、必ず事前に取り組むこと。（45分）
事後学習（内容・時間）	講義終了後に講義内容の理解を深めるための課題を課します。忘れずに取り組むこと。（45分）
備考	看護学実習や臨床に即した看護実践力を習得するため、老年看護学Ⅰと連携しながら高齢者の看護に必要な理論を展開するため復習を要します。また、学生参加を授業に求めるため予習や復習を含めた事前や事後学習を重要視します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	原田 俊子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

老年看護の対象である高齢者の諸機能の変化を踏まえて、健康障害を持つ高齢者の健康レベルの理解を深め、対象の健康に関する顕在的・潜在的能力が最大限に発揮できるようにするための基本的な能力を養う。また、高齢者の発達の特徴や倫理的課題を理解し、高齢者がその人らしく生きていくことができるように、個別事例を通してアセスメントを行い、具体的にケアプランを作成し、老年看護学における看護実践力を高めるために学生の能動的な学びを展開していく。

到達目標

- 高齢者に特有な症状と看護について説明できる。
- 認知症患者の原因と症状、治療、アセスメント内容、生活支援の方法を説明できる。
- 高齢患者の生活障害を踏まえた看護過程の展開方法を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	老年看護学の特徴 事例紹介
第2回 AL	看護過程の方法説明(実習記録を用いて書き方の説明)
第3回	脳梗塞を起こした患者の看護 (栄養:摂食障害について)
第4回	脳梗塞を起こした患者の看護 (活動:セルフケア・転倒について)
第5回	脳梗塞を起こした患者の看護 (排泄障害と看護援助)
第6回 AL	演習① 食事介助
第7回 AL	演習② 左半身麻痺のある患者の移動・移送の援助
第8回 AL	排泄障害の看護
第9回	高次機能障害の病態生理と看護の視点
第10回 AL	認知症の理解とアセスメントツールと看護の視点
第11回	褥瘡ケア
第12回	手術療法をうける高齢者の看護(大腿骨頸部骨折)
第13回	薬物療法を受ける高齢者の援助とリスクマネジメント
第14回	高齢者に対するリハビリテーション療法の意義と特徴
第15回	尊厳ある介護と看取り・終末期の支援(その他)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% レポート課題 40%
教科書	『老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは』正木治恵(南江堂) 『老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する』真田弘美、正木治恵(南江堂) 『ナーシンググラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践』堀内ふき ほか(メディカ出版) 『生活機能からみた老年看護過程』山田律子(医学書院)
参考文献	『老年看護 病態・疾患論』佐々木英忠ほか(医学書院)、『老年看護技術』亀井智子編(医学書院) 『老年症候群別 看護ケア関連図&ケアプロトコル』田中悦子ほか(中央法規出版)、人体構造機能論Ⅰ、病態治療学Ⅰ・Ⅱのテキスト 他 資料配布
オフィスアワー	月曜日5限 不在時はメモを残して下さい。
事前学習(内容・時間)	講義の理解を助けるための課題を課すので、必ず事前に取り組むこと。(45分)
事後学習(内容・時間)	講義終了後に講義内容の理解を深めるための課題を課します。忘れずに取り組むこと。(60分)
備考	看護学実習や臨床に即した看護実践力習得のため、老年看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、およびフィジカルアセスメントを復習して受講することを期待します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅰ (概論と保健)	合田 友美	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

小児看護の対象である子どもの構造・機能や小児各期（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）の発達課題について学び、成長・発達の特徴および健康の保持増進のあり方について理解する。また、現代の社会現象をとらえ、子どもの権利を擁護した支援について理解を深めるとともに、子どもとその家族に対する小児看護の役割について理解する。

到達目標

- 小児各期の成長・発達について説明することができる。
- 現代の社会状況を理解し、子どものよりよい生活および家族の養育支援のあり方を考察して記述することができる。
- 子どもの権利擁護のあり方について自らの考えを記述することができる。
- 小児看護の役割と今後の課題を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	子どもとは、小児看護の特徴と理念
第2回 AL	小児・家族の生活と社会
第3回 AL	小児の成長・発達1:小児にとっての成長・発達
第4回 AL	小児の成長・発達2:新生児、乳児①
第5回 AL	小児の成長・発達3:乳児②
第6回 AL	小児の成長・発達4:幼児①
第7回 AL	小児の成長・発達5:幼児②
第8回 AL	小児の成長・発達6:学童期
第9回 AL	小児の成長・発達7:思春期
第10回 AL	小児の人権擁護1:小児の権利と人権擁護
第11回 AL	小児の人権擁護2:児童虐待とその予防
第12回 AL	小児・家族の生活と社会1:小児医療の変遷、日本と諸外国
第13回 AL	小児・家族の生活と社会2:小児を中心とした保健、医療、福祉の法律
第14回 AL	小児・家族の生活と社会3:病弱教育、特別支援教育
第15回 AL	小児看護の目標と専門的役割

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）90％ 成果物 10％
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]「小児看護学概論、小児臨床看護総論」』奈良間美保他（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]「小児臨床看護各論」』奈良間美保他（医学書院）、『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳沢正義編著（講談社）
参考文献	人体構造機能論で使用するテキスト（解剖生理学、医学書院）。小児の参考文献については別途提示します。
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	第1回ガイダンスで配布する資料に基づいて、該当箇所について次回講義までに読んでおくこと。（30分）
事後学習（内容・時間）	講義箇所について教科書を用いて復習すること。（30分）
備考	自分の子ども時代を思い出してください。どのような養育によって今の自分があるのか、今を生きる子どもの成長発達にはどういった支援が必要か。日頃から子どもとその周りの社会全体に目を向けるようにしよう。 ＊小児の解剖生理の理解のために、成人の体の構造・機能について復習を十分に行って臨むこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅱ (主な疾患と看護)	合田 友美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

看護介入のあり方を理解するために、小児期の主な症状や疾病について形態機能の特徴からとらえる。また、発達障害における対人関係上の問題等についても考えを深める。さらに疾病・障害が小児と家族に与える影響について学び、健康障害の小児の理解を深める。

到達目標

- 小児の代表的な疾患について、起こりうる症状の病態を説明することができる。
- 主な小児疾患の治療（内科的療法、外科的療法）について説明することができる。
- 疾患・障害が子ども・家族に及ぼす影響について考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	小児における耳鼻科疾患
第2回	小児における代謝性疾患、内分泌疾患
第3回	小児における腎疾患、感染性疾患
第4回	小児における呼吸器疾患、循環器疾患
第5回	小児における腫瘍、血液疾患
第6回	小児における整形外科疾患
第7回 AL	小児における神経疾患
第8回 AL	小児における事故と外傷

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]「小児看護学概論、小児臨床看護総論」』奈良間美保他（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]「小児臨床看護各論」』奈良間美保他（医学書院）、『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳沢正義 編著（講談社）
参考文献	人体構造機能論テキスト、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲテキスト、薬理学テキスト ＊小児の参考文献は別途示します。
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	第1回ガイダンス配布する資料に基づいて、該当箇所について次回講義までに読んでおくこと。（30分）
事後学習（内容・時間）	講義でとり上げた疾患について、教科書を読んで復習をすること。（30分）
備考	「子どもと大人の違い」を理解すること。 ＊人体構造機能論（解剖生理学）、病態治療学Ⅰ（病理学、臨床検査）、病態治療学Ⅱ（内科疾患）、病態治療学Ⅲ（外科疾患）、薬理学を復習しながら講義に臨むこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅲ（健康障害のある小児と家族への援助）	合田 友美 西田 千夏	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

健康障害のある小児と、家族のさまざまな療養環境の特徴について理解する。小児に特徴的な症状と、代表的な健康障害の経過や症状・治療・看護についての知識を習得し、小児と家族への健康回復・保持・増進のための看護を理解することができる。

到達目標

- 様々な健康障害のある小児および、家族の療養環境の状況や健康障害の特徴について知ることができる。
- 小児にみられる主な症状の機序・観察・看護を理解し、グループ内・全体での討議・発表によって説明することができる。
- 小児の治療・処置についての看護を理解し、インフォームド・アセントに基づいた看護を説明・実演することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス / 病気・障害をもつ子どもと家族の環境
第2回	外来・入院における小児と家族の看護
第3回	手術を受ける小児と家族の看護
第4回	気管支喘息の小児と家族の看護
第5回	腎炎・ネフローゼ症候群の小児と家族の看護
第6回	血液疾患・悪性腫瘍の小児と家族の看護
第7回	終末期にある小児と家族の看護
第8回	ハイリスク新生児と家族の看護
第9回	在宅療養中の小児と家族の看護
第10回 AL	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護1(グループワーク)
第11回 AL	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護2(発表準備、発表会、グループディスカッション)
第12回 AL	小児にみられる主な症状のアセスメントと看護3(発表会、グループディスカッション)
第13回 AL	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護1(グループワーク)
第14回 AL	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護2(グループワーク)
第15回 AL	治療処置、検査を受ける小児と家族の看護3(発表会、グループディスカッション)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 成果物 20％
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]「小児看護学概論 小児臨床看護総論」』奈良間美保他（医学書院）、『系統看護学講座 専門分野Ⅱ「小児看護学[2]「小児臨床看護各論」』奈良間美保他（医学書院）、『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦、柳沢正義 編著（講談社）
参考文献	別途、提示します。
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	講義前に該当箇所について、テキストを読んで予習をする。提示した事前課題を行う。（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義後は、テキストおよび資料を読んで復習をすること。（1時間）
備考	小児看護学Ⅱと並行して学習します。 病態だけでなく小児とその家族の理解が重要であるため、小児看護学Ⅰの復習をして臨みましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	合田 友美 西田 千夏	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

さまざまな発達、健康段階にある小児とその家族への看護実践に必要な知識・アセスメント能力・看護技術を習得する。看護過程演習では、事例の小児とその家族を身体・精神・社会的側面から統合的に捉え、必要な看護を導き出す。小児看護技術演習では、基本的な理論と技術を習得する。授業は、小グループのディスカッション形式を中心に展開する。

到達目標

- 事例を通して、健康障害のある小児と家族のアセスメントができ、全体像を捉えて必要な看護を導き出すことができる。
- 健康障害のある小児と家族に必要な看護技術の意義とその方法を説明することができる。
- 健康障害のある小児に必要な看護技術を、モデル人形やロールプレイング等を用いて実施し、実施後の評価ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講義ガイダンス（看護過程演習および小児看護技術演習オリエンテーション）
第2回 AL	看護過程演習（事例の設定と必要な知識の共有学習）
第3回 AL	看護過程演習（アセスメント・全体像の理解）
第4回 AL	看護過程演習（アセスメント・全体像の理解）
第5回 AL	看護過程演習（看護問題の抽出）
第6回 AL	看護過程演習（事例を想定したバイタルサイン測定と観察）
第7回 AL	看護過程演習（事例を想定した環境整備・清潔援助）
第8回 AL	看護過程演習（事例を想定した診療補助技術）
第9回 AL	看護技術演習（乳児を想定したバイタルサイン測定）
第10回 AL	看護技術演習（乳児を想定した身体計測技術）
第11回 AL	看護技術演習（技術テスト）
第12回 AL	看護技術演習（技術テスト）
第13回 AL	看護技術演習（入院環境を想定した観察と危険・感染防止）
第14回 AL	看護技術演習（入院環境を想定した観察と危険・感染防止）
第15回 AL	看護技術演習・小児看護学Ⅳのまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 20％ 定期試験（実技）10％
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]「小児看護学概論 小児臨床看護総論」』奈良間美保他（医学書院） 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]「小児臨床看護各論」』奈良間美保他（医学書院） 『ナースングラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術』中野 綾美（メディカ出版） 『こどもの病気の地図帳』嶋下重彦、柳沢正義 編著（講談社）
参考文献	『発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程』荃津智子編著（医歯薬出版）
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	事例の発達・疾患・治療・看護、指定された小児看護技術の事前学習を行って授業に臨むこと。（1時間）
事後学習（内容・時間）	グループディスカッション後の事後学習、看護技術演習の評価を行う。（1時間）
備考	小児看護学の集大成です。小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習をして臨みましょう。 毎回グループ内・グループ間のディスカッションを行います。主体的・積極的に学ぶ姿勢で臨んで下さい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅰ (概論)	溝口 全子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21105

科目の概要

女性のライフサイクルにわたる健康について、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念をふまえ、社会の状況を考える。母性看護学の視点から、女性のQOL向上について考えを発展させることができるように学習する。

到達目標

- 女性のライフサイクル各期の健康問題とヘルスケアが説明できる。
- 母性関連の法律、施策について述べるができる。
- 母性を取り巻く環境について家族・社会との関係から考察することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	オリエンテーション、身近な「母性関連」の情報、話題
第2回	母性看護の意義、及び特性、ライフステージの考え方
第3回 AL	思春期女性の健康問題とヘルスケア：主に月経のしくみ(ホルモン動態)について学ぶ
第4回 AL	成熟期女性の健康問題とヘルスケア
第5回	更年期女性の健康問題とヘルスケア
第6回	人間の性とセクシュアリティ
第7回 AL	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ①
第8回	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ②
第9回 AL	「子どもを産む」ということ、「子どもを育てる」ということ
第10回 AL	母子関係と家族の成り立ち(母子の愛着形成、父子関係、パートナーとの関係)
第11回	日本の母性看護の変遷と現状
第12回 AL	日本における母子保健の現状と動向
第13回	諸外国における母子保健の現状と動向
第14回 AL	日本と外国の出産の文化ー考え方
第15回	母性看護と倫理、母性看護のあり方

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% レポート課題 20%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]「母性看護学概論」』森 恵美編著(医学書院)
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]「女性生殖器」』池田 正編著(医学書院) 『国民衛生の動向 2016/2017』厚生労働統計協会(厚生労働統計協会)
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	母性に関するニュースや新聞記事についてレポートを必ず提出して下さい。(1時間)
事後学習(内容・時間)	テキスト及び資料を読んで復習してください。(1時間)
備考	“母性を取り巻く環境”は変わってきています。「調べる」こと、“母性”とは何か、自ら「考える」こと、“次世代育成”のための施策・法律について「知識を修得する」ことを目指しています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅱ (女性生殖・周産期医療)	上山 直美	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21106

科目の概要

周産期に罹患しやすい疾病の病態・診断・治療について学ぶ。合わせて、女性のライフサイクルにおける性と生殖、リプロダクティブヘルスとヘルスケアの問題を理解し、それらについての支援方法を学ぶ。

到達目標

- 女性の健康問題、女性生殖器疾患や医学的治療について理解する。
- 周産期の異常に対しての看護を述べることができる。
- 周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）のリスク因子をもつ母子に対する看護について理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Gender-specific Medicine (GSM)-女性の悪性腫瘍、女性生殖器疾患の統計上でみられる特徴
第2回	女性内生殖器疾患-エストロゲン依存性疾患(子宮がん・卵巣がん)と看護ケア
第3回	女性外生殖器疾患-乳がんの疾病理解と看護ケア
第4回	妊娠期の異常-妊娠経過と健康逸脱
第5回	分娩期の異常-分娩経過と健康逸脱
第6回	産褥の異常-産褥経過と健康逸脱
第7回 AL	不妊症と看護ケア
第8回 AL	更年期症状と看護ケア、ヘルスプロモーション

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 小テスト 20% レポート課題 10%
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]「女性生殖器」』池田 正編著(医学書院)
参考文献	母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅲで使用したテキスト、その他の資料は適宜配布する。
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	妊娠期、分娩期、産褥期の生理的变化について既学習内容を復習してください。(1時間)
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し(1時間)、質問を次回の講義で行ってください。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅲ (周産期アセスメント)	上山 直美	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における女性と新生児、および家族を対象とした生理的、心理・社会的変化と特徴を理解する。また、それらの対象に対する看護過程の展開とウェルネスの視点について学ぶ。

到達目標

- 生理的過程として経過する対象の身体的、心理的・社会的変化について理解でき、説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護援助についてウェルネスの視点からも理解でき、説明できる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、生理的経過の範囲を逸脱した状態や健康障害についての看護が理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態①
第2回 AL	妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態②
第3回 AL	母親役割獲得状況と家族関係のアセスメント
第4回 AL	ハイリスク妊娠と看護
第5回 AL	正常分娩経過のアセスメントと看護①
第6回 AL	正常分娩経過のアセスメントと看護②
第7回 AL	産婦の心理変化、母子愛着形成および家族のアセスメント
第8回 AL	出生直後の新生児のアセスメントと看護援助
第9回 AL	産科処置と産科手術
第10回 AL	退行性変化のアセスメント
第11回 AL	進行性変化のアセスメント
第12回 AL	出産後の育児技術取得状況、愛着形成、家庭と社会生活への適応のアセスメント
第13回 AL	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント①
第14回 AL	新生児の子宮外生活適応についてのアセスメント②
第15回 AL	講義のまとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）70％ 小テスト 10％ レポート課題 20％
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂）
参考文献	『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北野真理子他（メヂカルフレンド社）
オフィスアワー	水曜日12:20～13:20、講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	授業前に教科書の該当部分を予習。（1時間）
事後学習（内容・時間）	前講義の復習。（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	上山 直美	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児）にある女性と新生児および家族を対象とした身体的・心理的特徴を踏まえ、母性看護に必要な援助技術を学ぶ。具体的には対象者の看護上の問題や医療上の問題、生活上の問題の理解と周産期におけるセルフケアの視点に基づいた援助について学ぶ。

到達目標

- 周産期のフィジカルアセスメントおよび心理、社会的な側面におけるアセスメントができる。（心身の変化の把握と判断ができる）
- 周産期の基本的技術の目的・必要性を認識し正確な技術を用いることができる。
- 問題解決思考、ウェルネスの視点および母子関係に着目し、それに基づく看護の展開ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	妊娠期のヘルスアセスメント① 妊婦健康診査の項目と援助
	産褥期のヘルスアセスメント① 退行性変化と進行性変化
	新生児のヘルスアセスメント① 新生児の抱き方、おむつ交換 更衣
第2回 AL	妊娠期のヘルスアセスメント② 腹囲と子宮底長の測定、レオボルド診断法、胎児心拍の聴取
	産褥期のヘルスアセスメント② 子宮底高と硬度の測定 悪露の観察、乳房・乳頭の観察
	新生児のヘルスアセスメント② 新生児の抱き方、おむつ交換 更衣
第3回 AL	新生児のヘルスアセスメント③ 全身観察とバイタルサイン測定
第4回 AL	新生児のヘルスアセスメント④ 全身観察とバイタルサイン測定 沐浴の目的、準備および留意点
第5回 AL	新生児のヘルスアセスメント⑤ 沐浴演習
第6回	看護過程の展開:妊娠期の事例
第7回	看護過程の展開:分娩期の事例
第8回	看護過程の展開:産褥期の事例①
第9回	看護過程の展開:産褥期の事例②
第10回	看護過程の展開:産褥期の事例③
第11回	看護過程の展開:新生児の事例①
第12回	看護過程の展開:新生児の事例②
第13回	看護過程の展開:新生児の事例③
第14回	事例の統合 関連図
第15回	講義のまとめと確認

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）50％ レポート課題 50％
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他（南江堂） 『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北野眞理子他（メヂカルフレンド社）
参考文献	なし
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:20、講義終了後1時間
事前学習（内容・時間）	講義該当部分を予習し、実技項目の手順書の作成。（1時間）
事後学習（内容・時間）	実技項目の復習。（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅰ (精神保健)	八田 勘司	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21107

科目の概要

精神看護学とは何かを学ぶ上で理解しておくべき基本的知識を身につける。心の健康・不健康について理解する。精神医療の歴史を理解する。精神科的面接について理解する。精神療法や精神科リハビリテーション、社会療法と生活療法について理解する。精神医療の法制度を理解する。職場におけるメンタルヘルスの保持・増進について学び、さらに自殺予防についても理解する。

到達目標

- 精神看護学について説明できる。
- 精神（心理）療法、精神科リハビリテーション、社会療法と生活療法について述べることができる。
- 精神科入院制度について述べることができる。
- メンタルヘルスの保持・増進、自殺予防について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	精神看護学とは 心の健康・不健康 睡眠障害
第2回 AL	作家の病跡
第3回 AL	精神医療の歴史
第4回 AL	心理現象の生物学的基礎
第5回 AL	精神障害の定義と分類 主な精神症状
第6回 AL	精神科的面接(患者へと接するときの工夫)・検査 DVD
第7回 AL	薬物療法と身体治療法 DVD
第8回 AL	精神(心理)療法その1
第9回	精神(心理)療法その2
第10回 AL	精神科リハビリテーション、社会療法と生活療法
第11回 AL	法と精神医学(刑法、精神保健福祉法)
第12回	暮らしの場と精神の健康 職場におけるメンタルヘルス
第13回 AL	現代社会と精神の健康 自殺
第14回 AL	シネマでわかる精神医学 『セント・オブ・ウーマン/夢の香り』
第15回 AL	シネマでわかる精神医学 『セント・オブ・ウーマン/夢の香り』

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	『専門医がやさしく語る はじめての精神医学』渡辺雅幸（中山書店）
参考文献	『「死にたい」気持ちをほぐしてくれる シネマセラピー上映中」高橋祥友（晶文社）、『精神疾患ビジュアルブック』落合慈之監修（学研）、『精神医学テキスト』上島国利他編（南江堂）
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習（内容・時間）	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる（45分）
事後学習（内容・時間）	ノートのポイントを読み直して記憶する（45分）
備考	知的好奇心をもって、積極的にビデオなどで自己学習すること

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅱ (主な精神疾患と精神症状)	八田 勘司	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21108

科目の概要

看護師として、精神疾患を理解するうえで必要な基礎知識を学び、主な精神障害について事例を通して、概念、症状、診断基準、治療について理解する。

到達目標

- 代表的な精神障害の疾患の概念、症状、診断基準、治療について述べることができる。
- 神経症とストレス関連障害、統合失調症、気分障害、器質性精神障害について述べることができる。
- 物質関連障害群、物質依存症、パーソナリティ障害について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	神経症とストレス関連障害
第2回 AL	統合失調症 その1
第3回 AL	統合失調症 その2
第4回 AL	気分障害 その1
第5回 AL	気分障害 その2
第6回 AL	器質性精神障害 (アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症)
第7回 AL	物質関連障害群、物質依存症
第8回 AL	パーソナリティ(人格)障害

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ 小テスト 30％
教科書	『専門医がやさしく語る はじめての精神医学』渡辺雅幸（晶文社）
参考文献	『精神疾患ビジュアルブック』落合慈之監修（学研） 『精神医学テキスト』上島国利他編（南江堂）
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習（内容・時間）	課題をノートにまとめる。（45分）
事後学習（内容・時間）	学習内容を復習する。（45分）
備考	知的好奇心をもって主体的に学ぶこと。参考文献を活用すること。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅲ (施設における援助)	高橋 篤信	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21209

科目の概要

精神疾患について理解し、精神科看護に必要な基礎的知識を学習する。その上で、精神障害への考え方、必要な看護を考えることができる。また、グループワークを通して自身の考えだけでなく他者の考えを知り、精神障害についての理解を深める。

到達目標

- リカバリー・ストレングス・WRAPについて説明することができる。
- 薬物療法によって起こる、作用・副作用について4つ以上述べることができる。
- グループワークで、その疾患の特徴、治療、看護についてグループメンバーと協力し、見やすい発表資料を作成するとともに、分かりやすく発表することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	精神疾患患者の理解 対人関係 プロセスレコード
第2回	精神保健医療の法制度
第3回	精神障害の捉え方(リカバリー、ストレングス、WRAP)
第4回	精神科における安全な治療環境の提供(病棟構造、身体拘束、隔離などの行動制限)
第5回	精神科で用いられる治療法(1) 薬物療法
第6回	精神科で用いられる治療法(2) 作業療法、認知行動療法、SST
第7回 AL	グループワーク
第8回 AL	統合失調症患者の看護
第9回 AL	気分障害患者の看護
第10回 AL	器質性精神障害患者の看護
第11回 AL	精神作用物質使用による精神行動の障害患者の看護
第12回 AL	人格障害患者の看護
第13回 AL	精神遅滞と広汎性発達障害患者の看護
第14回 AL	神経症、ストレス関連障害患者の看護
第15回	映画鑑賞

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%
教科書	適宜プリントを配布します
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]「精神看護の基礎」』武井麻子他(医学書院) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]「精神看護の展開」』武井麻子他(医学書院) 『看護のための精神医学』中井久夫、山口直彦(医学書院)
オフィスアワー	平日:10:00～17:00 ただし、実習中はこの限りではない
事前学習(内容・時間)	講義内容について参考文献を用いて確認(3時間)
事後学習(内容・時間)	講義内容について、配布資料・文献を用いて確認(3時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ (地域における援助)	美王 真紀	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

ノーマライゼーションの観点から、地域における精神障がい者が利用する社会資源やリハビリテーションを知り、精神障がい者の現状を理解する。さらに、今後の課題について自分なりに考えることができる。

到達目標

- 地域精神医療を考えるとときに必要な概念について自分の言葉で説明でき、障害者総合支援法ができるまでの法律の変遷について大きな流れを理解し、事業内容について説明することができる。
- 地域で暮らす精神障害者とその家族が置かれた状況と意思について自分の考えを述べることができる。
- 入院中から始まる精神科リハビリテーションの内容を説明することができる。あわせて、長期入院患者の現状から、自分なりの課題や看護ケアについての考えを述べるすることができる。
- 国内・国外の地域精神医療の現状を知り、これからの課題について自分の考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1・2回	精神科リハビリテーションとは / 精神医療に関する法律の変遷 / 障害者総合支援法の概要と事業内容
第3・4回 AL	グループワーク(第5-10回までの発表準備)
第5・6回 AL	地域精神医療を考えるとときに必要な概念:リカバリー、ストレングスとは、WRAP(Wellness and Recovery Action Plan)
第7・8回 AL	ACT(Assertive Community Treatment)とは
第9・10回 AL	セルフヘルプグループの効果と限界:アルコール依存症、薬物依存症、発達障害者 精神障害を持つ患者の家族の思い、家族会の現状と課題について 統合失調症又は躁うつ病を持つ人の闘病記を読んで 長期入院患者の特徴と課題
第11・12回 AL	べてるの家での地域精神医療について/イタリアの地域精神医療の実際
第13・14回 AL	地域精神医療を考えるとときに必要な概念 WRAP 特別講師:進 あすか先生 訪問看護ステーションみのり 所長
第15回	ビデオ鑑賞

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%
教科書	資料を配布する
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]「精神看護の基礎」』武井麻子他(医学書院) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]「精神看護の展開」』武井麻子他(医学書院) 『看護のための精神医学』中井久夫、山口直彦(医学書院) 『リカバリー 希望をもたらすエンパワーメントモデル』カタナ・ブラウン編(金剛出版)
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	シラバスにあるキーワードについて調べる。(1時間)
事後学習(内容・時間)	講義で生じた疑問について調べる、講義内容の復習。(1時間)
備考	成果物30%は、グループで作成した資料とプレゼンテーションの評価で行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅰ (概論)	藤田 俱子	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21109

科目の概要

虚弱さや健康障害を持ちながら在宅で生活をする人々とその家族の生活の質の向上を目指した看護を実践するための基本的な考え方や基礎的知識を理解することを目的とする。在宅看護の概念や社会的背景および制度、家族支援やケアマネジメント、地域包括ケアシステムを体系的に教授する。

到達目標

- 在宅看護の定義を説明できる。
- 在宅看護の制度を説明できる。
- 在宅看護における支援の基本としてのケアマネジメントの基礎的知識を説明できる。
- 在宅看護における家族支援の考え方について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護の理念と対象
第2回	在宅看護の歴史
第3回	在宅看護を支える制度
第4回	地域包括ケアシステム
第5回 AL	ケアマネジメントと社会資源
第6回 AL	医療機関における退院支援の実践
第7回 AL	家族支援
第8回	在宅における個別への支援とコミュニティへの支援

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）90％ レポート課題 10％
教科書	『新体系看護学全書 在宅看護論』河野あゆみ編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	なし
オフィスアワー	火曜日12：20～13：00
事前学習（内容・時間）	該当部分のテキストを読んでおく（15分）
事後学習（内容・時間）	授業時間に指示された課題を実施する（1時間）
備考	小説や闘病記などで在宅療養生活を送る人のお話に触れて在宅看護のイメージを膨らませてみましょう。授業は周囲の人に迷惑をかけないように心がけて受講しましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅱ (訪問看護の展開方法)	上田 裕子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

在宅療養者及び家族を理解するために必要な知識を習得し、多職種と連携・協働しながら実践する在宅看護過程の展開方法について学ぶ。演習では、在宅看護過程に必要な基本的な情報を収集・アセスメント項目などの在宅看護過程に必要な視点を養い、在宅看護計画の立案および評価まで学修する。

到達目標

- 在宅看護過程の構成要素とその特徴を学び、収集する情報や収集方法、アセスメントの項目などの施設内看護との違いについて説明できる。
- 在宅看護過程に必要な情報収集項目に記入し、家族・住環境・社会資源を含めたアセスメントが記入できる。
- 在宅看護過程のアセスメントを基に、在宅看護計画を立案する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護過程の展開のポイント:対象者の生活や価値観の多様性を尊重した生活を支える看護・支援体制の理解(講義)
第2回	在宅看護過程の特徴と構成要素(講義)
第3回 AL	在宅看護過程の情報収集:基本的情報収集項目の理解と情報の整理(演習)
第4回 AL	在宅看護過程の情報収集:基本的情報収集項目の理解と情報の整理(演習)
第5回 AL	在宅看護過程のアセスメント:在宅療養者及び家族のニーズ・住環境・社会資源からのアセスメント(演習)
第6回 AL	在宅看護過程のアセスメント:家族介護力・経済的側面からのアセスメント(演習・中間発表)
第7回 AL	在宅看護過程の目標設定と計画立案(演習)
第8回 AL	在宅看護過程の目標設定と計画立案・実施及び評価方法(演習)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他(医学書院)
参考文献	なし
オフィスアワー	毎週月曜日12時20分～13時20分
事前学習(内容・時間)	テキストをしっかりと熟読し、進度に合わせて、事前に指示された課題を学修してきてください。(30分)
事後学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を補うために必要な資料や参考書を読み、追加修正してください。(60分)
備考	在宅看護過程の展開を学修するために、講義2回と演習6回を予定しています。演習では、情報収集からアセスメントまでをグループワークで実施し、中間発表することで学びを共有する機会を設けます。その後、アセスメントの修正から計画立案までを個人ワークで行い、最終成果物として提出してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	上田 裕子	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅療養生活を継続するための生活課題や社会資源を活用しながら、基礎看護技術を応用した在宅看護技術を修得する。具体的には、在宅にある物品や福祉用具を活用した看護実践や、在宅療養者及び家族の多様なニーズを満たすための在宅看護技術について学修する。また、日常生活援助だけでなく、在宅人工呼吸器や在宅酸素療法、在宅経管栄養法やストーマ管理など、高度な医療技術を実践するために必要な技術を養い、知識と看護実践能力を高める。

到達目標

- 在宅にある生活用品や福祉用具を活用した在宅での日常生活援助技術について理解できる。
- 在宅医療機器を管理するために必要な知識と基本的看護技術を応用した在宅看護技術を修得できる。
- 在宅ケアチームのなかで、高度な医療技術の実践と家族支援のための援助を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	在宅看護技術①:療養環境の整備
第2回 AL	在宅看護技術②:家庭訪問技術とバイタルサインの測定
第3回 AL	在宅看護技術③:服薬管理の実際と疼痛管理
第4回 AL	在宅看護技術④:食生活と嚥下に関する看護技術
第5回 AL	在宅看護技術⑤:排泄管理 尿道留置カテーテル・ポータブルトイレ・尿とりパッドの活用
第6回 AL	在宅看護技術⑥:清潔の援助 清拭・陰部洗浄・洗髪
第7回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術①:在宅中心静脈栄養法 (HPN)
第8回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術②:在宅経管栄養法 (HEN)
第9回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術③:褥瘡管理
第10回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術④:ストーマ管理 (人工肛門・人工膀胱)・摘便
第11回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術⑤:在宅人工呼吸器療法 (HMV) と排痰法
第12回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術⑥:非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) と在宅酸素療法 (HOT)
第13回 AL	在宅医療機器管理に必要な知識と在宅看護技術⑦:レスピレーターや酸素チューブの装着体験
第14回 AL	在宅での福祉用具と住環境の支援に必要な知識と看護実践①
第15回 AL	在宅での福祉用具と住環境の支援に必要な知識と看護実践②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』秋山正子他（医学書院）
参考文献	適宜、紹介します
オフィスアワー	月曜日 12：20～13：20
事前学習（内容・時間）	テキストの該当部分を読んでおいてください（30分）
事後学習（内容・時間）	講義時間内に指示された課題を、期日までに提出してください（60分）
備考	事前に演習に必要な物品の持参や服装を提示しますので、準備をして講義に臨んでください。お互いで測定したりします。積極的な姿勢で授業に出席し、学びを共有しましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	藤田 俱子	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

在宅ケア・在宅看護サービスが在宅看護の対象者に効果的に展開されるために必要な地域包括ケアにおけるネットワークの形成およびそのための仕組みづくりの理解を目的とする。在宅看護領域において重要な課題であるエンドオブライフ、難病、リハビリテーション、重症心身障がい児、認知症、介護予防、高齢者虐待に関する地域包括ケアシステムづくりについて教授する。

到達目標

- 在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成と仕組みづくりを説明できる。
- 地域包括ケアシステムに関わる機関について説明できる。
- 地域包括ケアシステムにおける連携方法と看護職の役割を説明できる。
- 健康課題別に地域包括ケアシステムづくりの考え方を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域包括ケアシステムづくりと地域包括支援センター
第2回	地域包括ケアシステムづくりの方法と実際
第3回	エンドオブライフケアとケアシステム
第4回	難病ケアとケアシステム
第5回	リハビリテーションとケアシステム
第6回	重症心身障がい児ケアとケアシステム
第7回	認知症ケアとケアシステム
第8回	要介護高齢者ケアとケアシステム
第9回	介護予防とケアシステム
第10回	高齢者虐待とケアシステム
第11回 AL	課題における演習1(グループワーク)
第12回 AL	課題における演習2(発表準備)
第13回 AL	課題における演習3(発表1)
第14回 AL	課題における演習4(発表2)
第15回	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	『新体系看護学全書 在宅看護論』河野あゆみ編集（メヂカルフレンド社）
参考文献	授業にて適宜紹介する
オフィスアワー	火曜日12：20～13：00
事前学習（内容・時間）	テキスト該当部分を読んでおく（15分）
事後学習（内容・時間）	授業中に指示した課題と演習課題に取り組む（1時間）
備考	授業は周囲の人に迷惑をかけないように心がけて受講しましょう

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－① (絵画療法)	木村 千尋	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

絵画を鑑賞する、絵を描く事は、患者や医療従事者のストレス発散になったり、表現の喜びを知り、自信の回復にもなる。また、描く事は、形や色を自由に使え、言葉では表せない自己の感情を示し、それを通して患者の心理状態を知り、コミュニケーションをとる事ができ、治療に繋がる。アートを学ぶと共に、精神医学、心理統計の基礎知識を学習する。模擬カウンセリング演習を通して、その問題・事例の対処法を修得する。

到達目標

- 臨床芸術療法と患者のカウンセリング技法の知識を身に付ける。
- 患者や看護師自身のセルフケアに心理学を活用した考え方を身に付ける。
- ホスピタルアートの表現方法や病院内での絵画選択を身に付けて、院内の色彩計画書を作成できる技能を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	オリエンテーション 芸術療法とは何か
第2回 AL	臨床芸術療法と看護の意識
第3回 AL	色彩心理学概論
第4回 AL	カウンセリング導入と絵画療法
第5回 AL	医療と癒しのリズム
第6回 AL	臨床芸術療法 樹木画
第7回 AL	臨床芸術療法 家屋画
第8回 AL	臨床芸術療法 人物画
第9回 AL	風景構成法 読み取りトレーニング
第10回 AL	ホスピタルアートとミュージックセラピー
第11回 AL	コラージュ療法
第12回 AL	視覚コミュニケーションと色彩心理学
第13回 AL	病院内での色彩活用方法
第14回 AL	看護に使う具体的事例
第15回 AL	ホスピタルアートのファシリテーション方法

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 80% 成果物 20%
教科書	プリント随時配布
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	第11回コラージュ療法の切り抜き準備 (15分)
事後学習(内容・時間)	講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること。(60分)
備考	絵を上手に描く必要はなく、色や形を楽しんで表現する事を望んでいます。カウンセリング方法・コミュニケーション能力を身に付けて頂きたい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－② (音楽療法)	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。現在、音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師として、音楽療法とどう関わっていくかを学ぶ。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を習得する。
- 看護師としての立場から、音楽療法に積極的・効果的に関わるための姿勢を理解できるようになる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	音楽療法の概要と歴史①
第2回	音楽療法の概要と歴史②
第3回	心身障がい者(児)のための音楽療法①
第4回 AL	心身障がい者(児)のための音楽療法②
第5回	精神科における音楽療法①
第6回 AL	精神科における音楽療法②
第7回	小テスト・解説
第8回	高齢者施設における音楽療法①
第9回 AL	高齢者施設における音楽療法②
第10回	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法①
第11回 AL	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法②
第12回	小テスト・解説
第13回 AL	音楽療法のデザインと実践①
第14回 AL	音楽療法のデザインと実践②/総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら①
第15回 AL	総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	小テスト 50% 期末レポート 30% 成果物(授業における感想文・グループワーク用紙など) 20%
教科書	特になし 資料随時配布
参考文献	必要に応じて適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	授業のテーマについて、本・インターネットなどで自分なりに知識を得ておく (30分)
事後学習(内容・時間)	授業の要点(資料を配布)の復習 (30分)
備考	音楽に興味があることが望ましい(音楽的能力・知識は関係なし)。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－③ (笑い療法)	八田 勘司	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

笑いは相手の不安や緊張をほぐし、心に潤いや穏やかさをもたらす。人の心と心をつなぎ、極めて重要なコミュニケーションの道具である。歌や楽器演奏でこころを和ませ、大道芸を楽しみ、笑顔で盆踊りを踊って脳を活性化させれば、疲れたこころは癒され、新たな活力が生まれる。ちんどん屋風の笑い療法をグループで企画し、医療や福祉現場で実践して、笑いが患者や家族の不安を軽減し、QOLを高める可能性を考察する。看護の場面で役立つ笑いを生み出す心のケアを学ぶ。

到達目標

- 笑いや笑顔の健康やコミュニケーションへの効果について説明できる。
- 音楽、大道芸、盆踊りなどを自ら楽しむことができる。
- グループで、ちんどん屋風の笑い療法を企画し、施設で実演し評価考察ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	芸術療法
第2回	笑い与健康
第3回	ちんどんセラピー(高齢者へのアプローチと研究)
第4回 AL	ちんどん博覧会
第5回 AL	ちんどん楽器と音楽①
第6回 AL	ちんどん楽器と音楽② 演奏
第7回 AL	大道芸
第8回 AL	大道芸の演じ方(クラウンメイク、バルーンアート、マジックなど)
第9回 AL	盆踊り
第10回 AL	ちんどん屋風笑い療法のプログラム作成、役割分担 練習
第11回 AL	フィールドワーク①
第12回 AL	フィールドワーク②
第13回 AL	フィールドワーク③
第14回 AL	フィールドワーク④
第15回 AL	振り返り(スライドショー)実践の評価考察

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%
教科書	適宜資料を配布する
参考文献	『芸術療法』飯森真喜雄(日本評論社) 『心を癒す芸術療法 一心に“いい汗”をかきませんか』徳田良仁(ごま書房) 『笑いの世紀』日本笑い学会編(創元社)、『大道芸大全』馬越ふみあき(同文書院)
オフィスアワー	授業のある日の昼休み
事前学習(内容・時間)	大道芸、楽器演奏、踊りの練習 (45分)
事後学習(内容・時間)	大道芸、楽器演奏、踊りの練習 (45分)
備考	笑い、音楽、大道芸、踊りなどに興味・関心があることが望ましい。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－④ (セラピーメイク)	中井美賀子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、看護現場でもメイクアップの力が求められています。身だしなみを整える化粧行動は、外観を整えることで前向きになり明るく行動的になるなど、心理面にもよい効果があること「化粧療法」が様々な研究で明らかになってきています。その化粧療法に必要な知識と技術、カウンセリングやアドバイスなどのメイクを通したコミュニケーションについて学びます。

到達目標

- 看護師としての身だしなみでもある「セルフメイク」の知識と技術が習得できる。
- 人に寄り添う医療のための「セラピーメイク」の知識と技術が習得できる。
- 看取りの際におこなう「エンゼルメイク」の知識と技術が習得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画		
第1回 AL	オリエンテーション	メイクと心の関わりについて	セラピーメイクの必要性について
第2回 AL	メイクアップ基礎	皮膚理論・スキンケア(グループワーク)	
第3回 AL	メイクアップ基礎	皮膚理論・スキンケア(グループワーク)	
第4回 AL	メイクアップ基礎	眉の形作りと描き方	
第5回 AL	メイクアップ基礎	アイメイクの形作りと塗り方	
第6回 AL	メイクアップ基礎	チーク・リップの形作りと塗り方(ディスカッション)	
第7回 AL	メイクアップ基礎	色の効果と立体感・肌悩み解決や肌色に合う色の選び方(グループワーク)	
第8回 AL	メイクアップ応用	エイジレスメイク	若々しく見えるメイク
第9回 AL	メイクアップ応用	顔分析メイク	左右のパーツの違いをそろえるメイク
第10回 AL	メイクアップ応用	敏感肌用メイク	アトピー性皮膚炎や敏感肌のメイク
第11回 AL	メイクアップ応用	ニキビ用メイク	ニキビ肌・ニキビ痕のメイク(グループワーク)
第12回 AL	メイクアップ応用	カバーメイク	アザや傷跡のメイク
第13回 AL	メイクアップ応用	エンゼルメイク	基礎
第14回 AL	メイクアップ応用	エンゼルメイク	応用 (ディスカッション)
第15回	まとめと試験		

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 小テスト 30%
教科書	テキストを授業内で配布
参考文献	無し
オフィスアワー	授業の前後
事前学習(内容・時間)	配布資料を確認する(30分)
事後学習(内容・時間)	授業で習った技術を自宅で練習(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－⑤ (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

芸術療法の理解を目的として、陶芸制作に実践的に取り組みながら考察します。そして、医療にとって身体健康と等しく重要である心の健康を、焼きものをつくることで体感し、その重要性を認識します。また、集団で窯詰めや窯焚きを行う事で協調性を育み、今後の実習等に活かします。人間の心と身体健康について考える機会を持つ講義です。

到達目標

- 基礎的な焼きものの技術や制作過程を学ぶと共に、ものづくりの楽しさを自ら発見し、何かに熱中する機会を持つ。
- こちらの働きかけにより絶えず変化し続ける土と向き合うことで、観察力を身につける。
- 窯詰め、窯出し等の作業を協同で行うことにより、協調性を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	手びねり技法を学び、カップやお茶碗、立体作品等の制作
第2回	カップやお茶碗、立体作品等の成形
第3回	乾燥後のカップやお茶碗、立体作品等の削り作業
第4回	乾燥後のカップやお茶碗、立体作品等に粘土を使つての加飾
第5回	粘土の塊から立体作品、土鈴、貯金箱等の制作
第6回	内部をくり抜き繋ぎ合わせる
第7回	粘土の板を乾かして組み合わせ、四角を基本とした小物入れや立体作品を制作
第8回	生乾きの粘土板の組み立て
第9回	乾燥した作品の仕上げ作業
第10回	素焼きの窯詰めをして、釉薬の種類を学ぶ
第11回	素焼きした作品の窯だし作業
第12回	絵付けをして、釉薬作業
第13回	本焼きの窯詰め
第14回	本焼きの窯焚き
第15回 AL	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会(意見交換)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物(制作した作品の完成度、表現力等) 100%
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	授業終了後 13時20分から16時30分まで
事前学習(内容・時間)	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと (1時間)
事後学習(内容・時間)	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に生かせるようにすること (1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ)	植松 陽一 木村 金博 炭釜 啓人 森 合音	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

環境のもたらす各種影響は、事故や病気を未然予防したり、抑制したり、進行させたりする。また、患者の闘病（回復）意欲にも影響をおよぼすなど、人とそれを取りまく環境はたがいに密接な繋がりをもっている。したがってここでは、多種多様な領域に跨がり、具体例をもって講義編成する。

到達目標

- 看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護に与える役割を理解する。
- 色彩や芸術表現を用い、小児科等の空間に芸術がどのように応用できるかを理解する。
- グループワークでのコミュニケーションや役割分担などチームとして活動する方法を理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コミュニケーションとデザイン (植松)
第2回 AL	ビジュアルデザインの基本 (植松) (グループワーク)
第3回 AL	モノ・コトを考える1 (植松) (グループワーク)
第4回 AL	モノ・コトを考える2 (植松) (グループワーク)
第5回	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現1 (木村)
第6回 AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現2 (木村) (グループワーク)
第7回 AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現3 (木村) (グループワーク)
第8回 AL	イラストレーションを用いたコミュニケーションと表現4 (木村) (グループワーク)
第9回	ユニバーサルデザインとは (炭釜)
第10回 AL	ユニバーサルファッションとは (炭釜) (グループワーク)
第11回	医療とファッション (炭釜)
第12回 AL	ファッションデザインと機能性について (炭釜) (グループワーク)
第13回	ホスピタルアートとは ―医療現場に於けるアートの取り組みとその理念について― (森)
第14回 AL	医療者と患者をつなぐコミュニケーション実践報告とワークショップ1 (森、作家 井上由季子)
第15回 AL	医療者と患者をつなぐコミュニケーションツールとしてのものづくり ワorkshop2 (作家 井上由季子)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 50% 成果物 50%
教科書	特になし
参考文献	特になし
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なデザインをリサーチ、分析 (2時間)
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、看護にいかせる部分をまとめる (2時間)
備考	授業はオムニバス形式で行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	瀬川 睦子 澤田 京子	講義	4年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護学教育の目的を明らかにし、その目的を達成するための看護教育制度と歴史の変遷について理解を深める。さらに、看護教育を具体化するための教育課程について基礎的な理解を深め看護教育への関心を高める。学習指導案を通して効果的な授業展開に必要な学習者観、教育観、教材観の学びも探求する。

到達目標

- 看護教育の理念・目的について述べるができる。
- 日本の看護教育制度、看護教育の現状と課題について述べるができる。
- 看護教育における教育課程についてその概要を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護教育学とは
第2回	我が国における看護教育の歴史の変遷、看護教育制度と看護教育関連法規
第3回 AL	諸外国の看護教育制度の現状と課題
第4回	看護教育課程 カリキュラムの概念
第5回 AL	教育方法、授業設計 看護教育評価
第6回 AL	学習指導案の作成①
第7回 AL	学習指導案の作成② 成果発表
第8回 AL	看護卒後教育と看護学教育の今日的課題と展望

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 80% 成果物 20%
教科書	毎回資料を配布します
参考文献	『看護教育学』杉森みど里（医学書院）
オフィスアワー	授業日の終了後1時間まで
事前学習（内容・時間）	教科書を授業計画に沿って事前学習（1時間）
事後学習（内容・時間）	授業内容を復習（1時間）
備考	現在の看護教育、就職後の継続教育、将来の看護教育について興味をもって一緒に考えましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅰ (リスクマネジメント)	澤田・片山 米須・荒瀧	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

医療は患者中心に提供されるものであり、安全性が100%保障されなければならない。しかし、医療・看護が人間によって行われる限りエラーをゼロにすることは非常に困難なことである。近年の医療は専門化・細分化・高度化・複雑化しており、プロフェッショナルとしての倫理観や責任感を備えていても、個々人の注意だけでは医療事故を防ぐには限界があり、徹底したチーム医療と施設としての医療事故予防システムの構築が重要である。医療を安全に提供する為の体制や対処システムについて、また、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて学習する。

到達目標

- 医療安全とリスクマネジメントの概念を理解できる。
- 看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策が理解できる。
- 臨地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について考えることが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療安全と看護の責務
第2回	医療安全施策と医療の質の評価
第3回 AL	事故発生のメカニズムと防止対策;事故発生のメカニズム、事故分析について
第4回	医療機関における安全対策;病院としての安全対策の取り組みについて
第5回 AL	医療機関における安全対策;事故の原因の分析と対策の検討⇔グループワーク
第6回 AL	医療機関における安全対策;患者・家族と協働による取り組み⇔グループワーク
第7回	医療機関における安全対策;医療安全文化の醸成について
第8回	在宅看護における安全対策;在宅看護の現状と提供の場を通して起こりうる事故発生
第9回	看護における安全対策;看護業務と事故の種類と安全対策について
第10回	看護における安全対策;看護業務と事故の種類と安全対策について
第11回	医療事故後の対応
第12回	看護業務上の危険と防止策;感染の危険を伴う病原体への暴露、電離放射線・抗がん剤の被曝
第13回 AL	看護業務上の危険と防止策;スタンダードプリコーション⇔感染管理認定看護師と演習
第14回 AL	看護学生の実習と安全;習得すべき看護技術のリスクと安全
第15回 AL	看護学生の実習と安全;実習における安全について⇔グループワーク

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『看護の統合と実践（2）医療安全』松下由美子他編（メディカ出版）
参考文献	なし
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	教科書を授業計画に沿って事前学習（1時間）
事後学習（内容・時間）	授業内容を復習（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅱ (看護管理)	嶋田加壽代 澤田 京子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

管理論の発展過程、主要概念、組織論等の「管理」についての基本概念を教授する。組織の中で顧客中心思考の看護管理を行うための考え方と実際、組織の活性化と人材育成、管理者の役割と責任等を論議し、看護管理の基礎的能力を養う。看護行為は医療行為と連携して行われるものであり、医療におけるサービスの本質を踏まえ、顧客満足の視点とそのマネジメントの関係を理解する。

到達目標

- 医療・看護ケアにおける看護師としての調整能力やリーダーシップ及びマネジメントに関する知識を修得する。
- 臨床現場での看護管理の実際を理解することが出来る。
- グループワークを通して、学んだことを言語化し、共有することでコミュニケーション能力・チームワーク能力を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護とマネジメント:看護管理学とは、マネジメントとは、看護におけるマネジメントとは
第2回	看護ケアのマネジメント:看護ケアのマネジメントと看護職の機能、患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療
第3・4回	看護サービスのマネジメント:看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、施設設備環境のマネジメント、物品のマネジメント、情報のマネジメント、組織におけるリスクマネジメント、サービスの評価
第5回	看護を取り巻く諸制度:看護の定義、看護職、看護実践の領域と場、医療制度
第6回 AL	マネジメントに必要な知識と技術:組織とマネジメント、リーダーシップとマネジメント、組織の調整、組織と個人(演習)
第7回 AL	看護管理の実際1:看護と経営、看護の質の保証と看護管理、看護実践の評価と改善
第8回 AL	看護管理の実際2:施設、災害時とまとめ(演習)
第9回	看護とマネジメント:管理とマネジメント、マネジメントのプロセス、看護ケアと看護サービス
第10回 AL	看護組織論:リーダーシップとフォロワーシップ [グループワーク、発表]
第11回 AL	リスクマネジメント:危険予知トレーニング [グループワーク、発表]
第12回 AL	看護の継続:チームナースング、他職種との協働 [グループワーク、発表]
第13回 AL	看護の専門化:専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 [グループワーク、発表]
第14回 AL	問題解決と意思決定:コンフリクトと交渉 [グループワーク、発表]
第15回 AL	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% レポート課題 50%
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]「看護管理」』上泉和子(医学書院)
参考文献	適宜紹介する
オフィスアワー	出講日の授業の前後
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(30分)
事後学習(内容・時間)	授業内容を整理する(30分)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好 弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

2025年問題（後期高齢者の増加）の中核である地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉・司法等の連携について理解し、高齢者や障害者にとって地域生活に重要な介護保険や障害福祉サービスの意義・制度・問題点を学びます。さらに高齢者や障害者への支援体制のあり方と問題点を把握することで、今後、地域で期待されている看護職の役割について学びます。

到達目標

- 地域リハビリテーションの基本概念について歴史、思想、実践を踏まえて理解できる。
- 高齢者や障害者が地域で生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携の場、連携方法を理解できる。
- 看護職に求められる理念と知識、地域におけるチーム医療の重要性を理解し、自ら実践できる基盤を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講師自己紹介、地域とは何か、地域での支え合いについて
第2回 AL	地域リハビリテーションに対する基本的な考え方 グループワーク「地域での支え合いについて・住民歴書を作成しよう」
第3回	地域リハビリテーション活動の歴史
第4回	地域リハビリテーションの主要な概念（ノーマライゼーション、ICF、ストレングス、エンパワメントなど）
第5回 AL	介護保険と地域リハビリテーション（高齢者）グループワーク「高齢者の生活をイメージしてみよう」
第6回 AL	地域リハビリテーションの実際 自助グループについて当事者たちの体験談に耳を傾ける
第7回 AL	具体的事例によるグループワーク（高齢者）
第8回 AL	地域リハビリテーションの実際 家族会活動など当事者の家族たちの体験談に耳を傾ける
第9回 AL	具体的事例によるグループワーク（身体障害者・知的障害者など）「障害者の生活をイメージしてみよう」
第10回 AL	地域リハビリテーションの実際 地域で活躍している医療・福祉従事者（社会福祉士など）たちの体験談に耳を傾ける
第11回 AL	具体的事例によるグループワーク（精神障害者）「精神障害者の生活をイメージしてみよう」
第12回	連携とネットワークづくり、地域包括ケアシステムについて
第13回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族への支援について
第14回 AL	地域包括ケアシステムにおける在宅生活に対する支援と家族への支援 グループワーク「私ができること・私たちができること」
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）70％ レポート課題 30％
教科書	なし
参考文献	『地域リハビリテーション論』大田仁史編（三輪書店）、『リハビリテーション看護』奥宮暁子等編（メディカ出版） 『地域包括ケアと地域医療連携』二木立著（勁草書房）、『障害学のリハビリテーション』川越敏司編（生活書院）等
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	前講義の配布資料を確認しておくこと。（30分）
事後学習（内容・時間）	講義時に出す課題についてレポートを作成すること。（20分）
備考	地域のなかで保健・医療・福祉の専門職が連携をとりながら、地域が持っている力をいかに活用して住民を支援していくのかについて、事例やグループワーク、支援者や当事者・家族による体験談をとり込みながら進めていきます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
移植コーディネーション論	高原 史郎	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施には多くの職種が関わり、提供者・受者および家族への精神的ケアや、救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。提供現場では、家族が親しい人の死を受け止めるための精神的援助やグリーフ・ケアなど、医学的な対応だけでなく精神的な対応も求められる。この科目では様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解していく。

到達目標

- 様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療の知識を身に付ける。
- 臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持ち現場の対応に関する技術を身に付ける。
- 救急医療の診断・治療についての基本的な考え方を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	臓器移植Ⅰ
第2回	臓器移植Ⅱ
第3回	我が国の脳死移植の現状
第4回	臓器移植Ⅲ
第5回 AL	レシピエント・コーディネーターの役割
第6回	論述試験と解説
第7回	わが国の臓器移植の現状-日本臓器移植ネットワークとコーディネーターの役割-
第8回	院内コーディネーターの役割
第9回	プロキュアメント・コーディネーション
第10回 AL	プロキュアメント・コーディネーション
第11回	救急医学Ⅰ
第12回	救急医学Ⅱ
第13回	臓器移植Ⅳ
第14回	臓器移植Ⅴ
第15回 AL	ラウンドテーブルディスカッション

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% レポート課題 30% 小テスト(筆記) 20%
教科書	『臓器移植とそのコーディネーション 基礎から応用まで』 監修：寺岡 慧、編集：高原史郎、福嶋教偉、横田裕行、芦刈淳太郎、小中節子（日本医学館）
参考文献	なし
オフィスアワー	授業日の講義前10分～講義終了30分後まで
事前学習(内容・時間)	教科書を予習(1時間)
事後学習(内容・時間)	教科書及びレジメの復習(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・藤田 上山・合田・美王	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について学ぶ。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深める。

到達目標

- 看護研究の意義と研究方法（文献研究・実験研究・量的研究・質的研究）を理解する。
- 看護の現場からのクリニカルクエスチョンを言語化することができる。
- 仮説を導き出すことができる。
- 仮説に基づき、変数化すると共に質問紙を設計できる。
- 質問紙に基づいた変数測定の方法の概要を理解できる。
- 適切な研究デザインを選択できる。
- 適切な論文クリティークができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文のスタイル、研究の種類とその違い(藤田)
第2回	研究の実施手順、研究計画書とは何か(藤田)
第3回	質的研究1(美王)
第4回	質的研究2(美王)
第5回	量的研究1(合田)
第6回	量的研究2(合田)
第7回	質問紙設計1(日高)
第8回	質問紙設計2(日高)
第9回	クリティークとは何か 文献レビューの方法(上山)
第10回	研究倫理とは何か(藤田)
第11回 AL	演習(日高、藤田、上山、合田、美王)
第12回 AL	演習(日高、藤田、上山、合田、美王)
第13回 AL	演習(日高、藤田、上山、合田、美王)
第14回 AL	演習(日高、藤田、上山、合田、美王)
第15回 AL	まとめ(日高、藤田、上山、合田、美王)

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 100%
教科書	適宜紹介する
参考文献	『よくわかる看護研究の進め方・まとめ方ー量的研究のエキスパートを目指して』横山美江 編著（医歯薬出版） 『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方ー看護研究のエキスパートを目指して』グレッグ美鈴他編著（医歯薬出版）
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーに準ずる
事前学習(内容・時間)	第1回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（30分）
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究（看護の統合）	看護系教員	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

学生個々の興味と関心に基づくテーマの討議とプレゼンテーションを中心としたゼミナール形式で授業を行い、看護を学問として追究し、看護の将来像が構想できる基礎的能力を養う。

到達目標

- 看護に関する問題意識を研究課題として提示できる。
- 文献検索・文献検討ができる。
- クリティークした結果をゼミナールで討議することができる。
- 研究目的を達成するために実現可能な研究計画書を作成できる。
- 看護研究活動を続けていく上での基本的態度が修得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 第2回 AL ～ 第30回 AL	オリエンテーション 担当教員の指示を基に授業・演習を行う。 ＊詳細は、「看護の探究(看護の統合)」の手引きによる。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 100%
教科書	教科書は特に指定しない
参考文献	『系統看護学講座 別巻「看護研究」』坂下玲子他（医学書院）
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーを参照
事前学習(内容・時間)	関連文献を、積極的に精読し、研究論文としての内容の理解に努める。(30時間)
事後学習(内容・時間)	関連文献を、積極的に精読し、自己の研究計画に活用するよう努める。(30時間)
備考	成績評価には、主体的に取り組む姿勢も加味します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
海外看護活動論	吉井 紀子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

グローバル化が急速に進み、他国で起こった健康問題や災害も自国での生活や健康に影響を及ぼすようになった現在、我が国でもグローバルヘルスの理解と国際救援活動や国際看護活動への積極的な取り組みが求められている。本科目では、様々な地域が抱える健康問題とその背景にある多様な文化を理解し、緊急援助や異なる環境下での看護活動についてグループワークを通して学ぶ。

到達目標

- 世界で直面している健康問題を知ることができる
- 人々の健康や生活に深く根ざした多様な文化を理解することができる
- さまざまな異なる環境における看護活動について考えることができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	海外看護活動論の概要（グループワーク）
第2回	グローバルヘルスの現状と課題
第3回	ミレニアム開発目標(MDGs)から持続可能な開発目標(SDGs)へ
第4回	国際協力諸機関とその役割
第5回 AL	貧困が健康に与える影響 ジェンダー、教育、リクロダクティブ・ヘルスの視点から（グループワーク）
第6回	紛争が健康に与える影響 難民・国内避難民が抱える健康問題と課題
第7回 AL	文化と看護を考える 中東のイスラム文化を例に（グループワーク）
第8回	災害緊急援助における看護活動① 災害看護活動の概要
第9回	災害緊急援助における看護活動② 災害看護活動の実践
第10回 AL	異なる環境での看護活動①（グループワーク）
第11回 AL	異なる環境での看護活動②（グループワーク）
第12回 AL	異なる環境での看護活動③（グループワーク）
第13回 AL	異なる環境での看護活動④（グループワーク）
第14回	他文化共生看護① 在日外国人の健康問題
第15回 AL	他文化共生看護②（グループワーク）

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 小テスト 40%
教科書	『国際看護学 看護の統合と実践 開発途上国への看護実践を踏まえて』柳澤理子(ピラールプレス)
参考文献	『看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 (第3版)』編集: 浦田喜久子、小原真理子(医学書院)
オフィスアワー	講義日の休憩時間および講義後30分
事前学習(内容・時間)	ニュースなどの情報媒体から昨今の国際情勢やグローバルヘルスに関する情報を収集しておくこと(30分)
事後学習(内容・時間)	教科書や資料の振り返り(30分)
備考	教科書は必ず購入して下さい

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ (対象理解)	峯岸・澤田 假谷・平野	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

看護場面の見学と患者さんとのコミュニケーションを通して、看護の機能や役割について知ることをねらいとする。また、実習にあたっては、主体的に取り組み、看護への興味や関心をもつことに加え、看護職者として必要な倫理的態度を養う。

到達目標

- 受け持つ患者さんの思いやニーズを理解するために、関心や思いやりをもって関わるができる。
- 看護の機能や役割を知る。
- 主体的に学習し、看護への興味・関心を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅰ(1週間) 1年次 平成29年8月28日(月)～平成29年9月1日(金) 平成29年9月4日(月)～平成29年9月8日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設は法人名を省略) 関西電力病院、協立病院、多根総合病院、多根脳神経リハビリ病院、星が丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	実習日は、その日の実習終了後
事前学習(内容・時間)	基礎看護学Ⅰ(概論)で学んだ「看護の本質」と「看護の役割・機能」と基礎看護学Ⅱ「コミュニケーション技術」について復習しておくこと。(8時間)
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことをまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる。(2日間)
備考	入学して初めて患者さんに接する実習です。この実習において何よりも大事なものは、患者さんがどのような思いをもっていらっしゃるのかを理解しようとする態度です。前期の基礎看護学の授業では、そのために必要なコミュニケーション能力を養い、また知識と技術を学びます。学内授業での学びが実習に直結しますので、毎日の授業にしっかり取り組んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	峯岸・澤田 假谷・平野	実習	2年次 後期	必修	2	90	KSP21401

科目の概要

患者さんを受け持ち、患者さんとのコミュニケーションをとおして、また診療記録等から情報収集して患者さんを一人の人間全体として理解する。また看護上の問題を明らかにしその問題解決の思考プロセスを展開する基礎的能力を養う。

到達目標

- 情報収集から解釈・分析までのアセスメントができる。
- 看護上の問題の明確化および看護計画立案ができる。
- 看護計画の実施・評価ができる。
- 受け持つ患者さんとの関わりを振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅱ(2週間) 2年次 (全グループ) 平成30年2月16日(金) (前半グループ) 平成30年2月19日(月)～平成30年2月27日(火) (後半グループ) 平成30年3月1日(木)～平成30年3月9日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 関西電力病院、協立病院、多根総合病院、星が丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	その日の実習終了後
事前学習(内容・時間)	基礎看護学Ⅳ(看護過程)で学んだ内容や事例を復習しておくこと。また、人体構造機能論Ⅰ・Ⅱや病態治療学Ⅰ、薬理学、基礎看護学Ⅳ-1、Ⅳ-2、基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)で学んだ知識や技術を習得しておくこと。(40時間)
事後学習(内容・時間)	今後の学習へ動機づけとなるように自己の課題を明確にする。(10時間)
備 考	この実習では、初めて患者さんを一人の人間全体として理解し、看護者として可能な援助を計画・立案・実施・評価するという課題が課せられます。そのために、基礎看護学Ⅵ(看護過程)で学んだ看護過程展開で学んだ思考プロセスが必要となります。この思考プロセスを展開するにあたっては、人体構造機能論Ⅰ・Ⅱや病態治療学Ⅰ、薬理学、基礎看護学Ⅳ-1、Ⅳ-2、基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)の知識・技術が不可欠です。このような多方面の知識・技術を看護上の問題解決に活用することで看護職の専門性を達成することができます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	瀬川・山口 佐藤・大串	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

健康面において急激な変化を生じる状況におかれた成人期にある患者およびその家族に対して、手術侵襲に伴う変化と心身の回復を理解し、日常生活への復帰に向けた看護を実践する能力を養う。

到達目標

- 手術を受ける患者・家族を総合的に理解できる。
- 手術侵襲や麻酔に伴う生体反応および患者・家族の苦痛を理解し、術後回復過程における看護を実践できる。
- 身体機能の変化や喪失を踏まえ、社会生活への復帰に向けた看護を実践できる。
- 急性期・回復期におけるチーム医療について理解できる。
- 看護実践を通して、自己の看護観を発展させる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅰ(3週間) 3年次 平成29年10月16日(月)～平成30年2月23日(金) 4年次 平成30年 5月14日(月)～平成30年7月13日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪暁明館病院、関西電力病院、北野病院 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 成人看護学実習Ⅰ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時相談に応じる。
事前学習(内容・時間)	成人看護学実習要項に記載している事前学習内容をしっかり学習すること (1～2時間)
事後学習(内容・時間)	実習で受け持った患者の病態や実習中に理解できなかったことを振り返り学習すること (1～2時間)
備考	積極的な姿勢で実習に臨むようにしてください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ （慢性期・終末期）	瀬川・山口 佐藤・大串	実習	3年次後期 4年次前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助およびQOLの維持・向上を目指した看護を実践する能力を養う。

到達目標

- 慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる
- 患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる
- 患者の療養生活継続への援助が理解できる
- 患者および家族と援助的な人間関係を成立・発展させることができる
- 看護実践を通して、自己の看護観を発展させることができる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 成人看護学実習Ⅱ(3週間) 3年次 平成29年10月16日(月)～平成30年2月23日(金) 4年次 平成30年5月14日(月)～平成30年7月13日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪暁明館病院、関西電力病院、北野病院 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	毎日の実習終了後
事前学習(内容・時間)	成人看護学Ⅲ・Ⅳおよび受け持ち患者の疾患について「病態治療学Ⅱ」で学んだ内容を復習する。(2時間)
事後学習(内容・時間)	成人看護学実習Ⅱの体験を意味づけ、自身の看護観を明確にする。(2時間)
備考	積極的に取り組み、看護とは何かを考えながら実習しましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	原田 俊子	実習	3年次後期 4年次前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

高齢者の生活を、施設内から家庭・地域までの広い視野でとらえ、高齢者への対応を学ぶ。また、様々な健康レベルにある高齢者を対象に、対象の健康にかかわる顕在的・潜在的能力が最大限に発揮できるように援助するための、基礎的能力を身につける。実習は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設において、老年期にある対象の個別的な環境や成長発達過程を理解し、老年期にある人が、生き生きと暮らせるための看護援助を考え実践する。また、健康障害を持つ高齢者を受け持ち、問題解決技法を用いて看護を展開する。具体的には、対象者を全人的に把握すると共に援助計画を立案し、その人らしさを保てる援助を行う。実習を通して、老年観及び老年看護に対する自己の考えを表現することができるように取り組む。

到達目標

- 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を捉え記述することができる。
- 高齢者の特徴を基盤に、受け持ち患者の個性を踏まえたアセスメントができ、看護計画を作成することができる。
- 高齢者の特徴を踏まえ看護計画に基づいた看護実践を行い、評価することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記の1～2を組み合わせで行う。 老年看護学実習(4週間) 1. 施設実習(2週間) 3年次 平成29年10月2日(月)～平成29年12月1日(金) 4年次 平成30年 5月7日(月)～平成30年5月18日(金) 2. 病院実習(2週間) 3年次 平成29年10月30日(月)～平成29年12月15日(金) 平成30年1月8日(月)～平成30年3月30日(金) 4年次 平成30年5月7日(月)～平成30年6月22日(金) ○実習施設:下記の1～2を組み合わせ、各項目とも項目内のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 施設実習:介護型ケアハウス豊泉家桃山台、介護老人保健施設錦秀苑、特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑、特別養護老人ホーム豊泉家北緑丘 2. 病院実習:多根脳神経リハビリテーション病院、阪和病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 老年看護論実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	月曜日5限
事前学習(内容・時間)	事前課題の実施(2時間)
事後学習(内容・時間)	毎日実習を振り返り、指導された内容を含めた自己課題の改善に取り組むこと(2時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	合田 友美 西田 千夏	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

臨地実習を通して、子どもの成長発達や日常生活を認識するとともに、対象を身体的、精神・心理的、成長発達からアセスメントし、総合的にとらえることができる。また、子どもとその家族の看護上の問題を明確にし、対象に適した看護が提供できるような支援能力を養う。

到達目標

- 小児の健康上の問題について、発達特性を踏まえて理解できる。
- 健康上の問題が小児と家族の生活に与える影響を理解できる。
- 小児と家族の看護上の問題を問題解決のプロセスにより解決できる。
- 小児の発達段階と健康上の問題に応じて、安全に看護援助を実施することができる。
- 家庭療養中にある小児と家族の健康保持、増進、回復のための実際を理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 小児看護学実習(2週間) 3年次 平成29年10月9日(月)～平成29年12月15日(金) 平成30年1月8日(月)～平成30年3月23日(金) 4年次 未定 ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立東大阪医療センター、北野病院、高槻病院、中津病院、兵庫県立尼崎総合医療センター その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 小児看護学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 小児看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	原則、実習終了後1時間
事前学習(内容・時間)	実習開始前に別途課題を提示します。課題は、実習初日に提出して下さい。(10時間/期間)
事後学習(内容・時間)	毎日、実習を振り返り、実習の評価をしてください。(30分)
備考	教員や臨床指導者へすすんで連絡・報告・相談を行うことで、対象にとって安全で安楽な実りある実習ができます。事前学習ノートは、実習中に必ず携帯してください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	上山 直美 堀 陽子	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

周産期の母子と家族の看護実践活動から、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、新生児および家族への支援に必要な能力を養う。さらに、女性のライフステージにおける健康について、セルフケアの視点に基づいて看護展開を行う。病院施設と助産所等での実習を通して、女性のライフサイクル全般にわたる健康支援について学びを深める。

到達目標

- 周産期の母子およびそのパートナーや家族に対する看護過程の展開が出来る。
- ライフサイクル各期の女性の健康問題を理解し、援助法を考えることができる。
- 生命誕生、親としての存在について考えを深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 母性看護学実習(2週間) 3年次 平成29年10月～平成30年3月 4年次 平成30年5月～平成30年7月 ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立伊丹病院、大阪暁明館病院、北野病院、第二協立病院、中津病院 井田助産院、きた助産所、プリマ助産院、ゆう助産院、らふ その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 母性看護学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 母性看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時相談に応じる
事前学習(内容・時間)	実習に際する事前学習(夏休み課題 1日1時間程度が望ましい)
事後学習(内容・時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開(1日2～3時間程度が望ましい)
備考	これまで学内で学習してきた知識・技術を活用し、積極的な姿勢で取り組んでください。実際に対象者に関わるので、自己の健康に留意し、良好な健康状態で実習に臨んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	八田 勘司 美王 真紀 高橋 篤信	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害を持つ対象者との関わりを通じて、生命の尊厳、人間としての基本的な権利とその家族への理解を深める。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個別性を尊重したヒューマンケアを実践できる基礎的能力を育む。

到達目標

- 精神に障害を持つ対象者を総合的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。
- プロセスレコードを用いながら、患者―看護師間の治療的相互関係を通してお互いに成長できる。
- 受け持ち患者に対してインフォームド・コンセントに基づいたケアプランを立案し、実施できる。
- 精神に障害を持つ対象者および家族の地域での生活を理解し、社会資源や医療、多職種との連携について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 精神看護学実習(2週間) 3年次 平成30年1月～平成30年3月 4年次 平成30年5月～平成30年6月 ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 精神看護学実習:八尾こころのホスピタル 2. 訪問看護ステーション実習:訪問看護ステーション みのり、訪問看護ステーション みのり(サテライト) 訪問看護ステーション アットホーム高槻 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 精神看護学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 精神看護学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	実習終了後30分
事前学習(内容・時間)	実習要項に記載している事前学習の内容に取り組むこと (3時間)
事後学習(内容・時間)	受け持ち患者の疾患や指導された内容を振り返り、自己の課題改善に取り組むこと (3時間)
備考	事前学習にしっかり取り組んで、実習に臨んでください。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	藤田 俱子 上田 裕子	実習	3年次後期 4年次前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

在宅看護対象者への援助や福祉関連機関等との連携、生活環境や社会資源の活用の実際を体験する。在宅で生活している人々の健康やQOLの向上を目指した活動が、各活動の場により、どのように展開し、連携しているのかを学ぶ。訪問看護ステーションにおける在宅看護活動を中心に在宅で医療や介護を必要としている人々への看護や役割、機能について学ぶ。また、行政機関や福祉機関との連携について学ぶ。

到達目標

- 在宅療養者が暮らす生活環境と療養生活をふまえた訪問看護援助について理解する。
- 対象者および家族の自立支援やQOLの維持向上のための訪問看護の役割と機能について理解する。
- 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の実際と看護職の役割について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 在宅看護論実習(2週間) 3年次 平成29年10月2日(月)～平成29年12月22日(金) 平成30年1月5日(金)～平成30年3月16日(金) 4年次 平成30年5月7日(月)～平成30年7月13日(金) ○実習施設:下記の1～4を組み合わせ、各項目とも項目内のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 訪問看護ステーション:伊丹市訪問看護ステーション、多根訪問看護ステーション、 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所そよかぜ 他 2. 居宅介護支援事業所:伊丹市社会福祉事業団居宅介護支援事業所、多根総合病院居宅介護支援事業所、 訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所そよかぜ 他 3. 地域包括支援センター:伊丹市社会福祉事業団地域包括支援センター、甲武地域包括支援センター、 中央区北部地域包括支援センター 他 4. 通所サービス事業所:伊丹市社会福祉事業団デイサービス、特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑デ イサービス、にしのみや聖徳園デイサービスセンター 他 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 在宅看護論実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度後期～平成30年度前期 在宅看護論実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	実習科目以外のシラバス参照
事前学習(内容・時間)	訪問予定の事例の状況や参加予定の事業に関する学習 (1時間/日)
事後学習(内容・時間)	実習当日に指導された内容についての確認 (30分/日)
備考	課題を提示する実習オリエンテーション、具体的な実習先を提示する実習ガイダンスには必ず参加し、事前準備をしっかりとっておきましょう。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護系教員	実習	4年次 前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、病院組織における看護師の役割を理解するとともに、看護援助の優先順位の考え方、看護管理の実際を体験的に学ぶ。また、看護が医療施設や地域のなかでどのように連携され、継続されているのかを理解し、看護の専門性について学ぶ。

到達目標

- 医療施設における看護の質の管理および改善への取り組みについて説明できる。
- 看護チーム内でのリーダーとメンバーの役割と責務について説明できる。
- 医療・保健・福祉チームの一員として、看護職や多職種との情報の共有・相談について説明できる。
- 病棟とそれ以外の場における継続的な看護について活動の実際を説明できる。
- 看護専門職としての自己の課題を明らかにできる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間： 総合実習(2週間) 4年次生 平成29年7月下旬～平成29年8月末まで 病院実習を1週間、その他施設において1週間 ○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 病院：関西電力病院、笹生病院、さわ病院、北摂総合病院、八尾こころのホスピタル その他施設：尼崎総合医療センター、堺市立総合医療センター、重度障がい児向け放課後デイサービスONE LOVE Kids、障がい児放課後等デイサービスじらふ、小規模多機能型居宅介護さずな、大領COCORO、大領地域の家であい、中央区北部地域包括支援センター、つどい場さくらちゃん、特別養護老人ホームなごみ、西淀川区南西部地域包括支援センター、ワンラブ訪問看護ステーション、その他 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 総合実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 総合実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	各指導教員の指示による。
事前学習(内容・時間)	1年次「基礎看護学Ⅰ(概論)」で学んだ「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、3年次「看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)」で学んだ内容を復習する。また、2年次「在宅看護論(概論)」での「継続看護」、「在宅看護論Ⅳ(地域ネットワーク論)」での「継続看護と退院調整」「連携・協働を推進する方法」についてテキストを確認しておく。(5時間)
事後学習(内容・時間)	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明確にする。(2時間)
備考	看護学科における最終の看護学実習である。これまでに学んだ内容を自分で総括し、看護の本質を考えながら実習に臨むこと。また、次年度には自分自身が臨床の場にいることを想定し、臨床の場で看護師として具体的にどのような思考・言動をとるべきかを考えながら実習すること。

助産学専攻科

2017年度（平成29年度） 授業計画（SYLLABUS）

目 次

助産学専攻科

卒業要件	146
教育課程	147
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例.....	149
Ⅰ 基礎助産学	151
Ⅱ 助産診断・技術学	155
Ⅲ 地域母子保健論	161
Ⅳ 助産管理	163
Ⅴ 助産学実習	165
Ⅵ 助産学実践関連	169

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととともに、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

アドミッションポリシー

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持っている人

カリキュラムポリシー

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

<助産学基礎領域>

- (1) ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
- (2) マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び

(3) 専門職としての責務と倫理の学び

＜助産学関連領域＞

- (1) 都市型の健康問題・社会問題について、地域に根ざした助産師としての取り組みができる「アーバンヘルス」の学び
- (2) 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び
- (3) アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び

＜助産学実践領域＞

- (1) 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
- (2) リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
- (3) 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

ディプロマポリシー

助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践を修得し、専門職者として以下の能力が認められること。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。

「Student Guide Book 2017」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2017年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2017年度（平成29年度）学年暦

宝塚大学 助産学専攻科（大阪梅田キャンパス）

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考	
H 29 ・ 4 月							1	4/3・5 オリエンテーション・ガイダンス・前期履修登録（4/5まで）	10 月	①	2	3	4	5	6	7	10/3～6 NICU/GCU実習	
	②	3	4	5	6	7	8	4/4 入学式		⑧	⑨	10	11	12	13	14	10/7・8 宝翔祭・10/7 特別休業日	
	⑨	10	11	12	13	14	15	4/6 前期授業開始		⑮	16	17	18	19	20	21	10/9 平常授業実施	
	⑮	17	18	19	20	21	22	4/11～4/13 履修登録修正期間		⑳	22	23	24	25	26	27	28	
	㉑	24	25	26	27	28	㉒			㉑	30	31						
	㉒																	
	㉓																	
5 月		1	(2)	③	④	⑤	6	5/2 創立記念日振替休業日	11 月				1	2	③	4		
	⑦	8	9	10	11	12	13			⑤	6	7	8	9	10	11		
	⑭	15	16	17	18	19	20			⑫	13	14	15	16	17	18		
	⑰	22	23	24	25	26	27	5/23 創立記念日（5/2に振替） 平常授業実施		⑰	20	21	22	㉑	24	25		
	㉒	29	30	31						㉑	27	28	29	30				
6 月					1	2	3		12 月						1	2		
	④	5	6	7	8	9	10			③	4	5	6	7	8	9	12/4～8 保健センター実習予定	
	⑪	12	13	14	15	16	17			⑩	11	12	13	14	15	16		
	⑱	19	20	21	22	23	24			⑰	18	19	20	21	22	23	12/22 助産学実習終了	
	㉒	26	27	28	29	30		6/26～6/30 前期定期試験		㉑	25	26	27	28	(29)	(30)	年末年始休業（12/29～1/5）	
										㉒								
7 月							1	7/3～助産学実習Ⅰ・Ⅲ	H 30 ・ 1 月		①	(2)	(3)	(4)	(5)	6		
	②	3	4	5	6	7	8			⑦	⑧	9	10	11	12	13		
	⑨	10	11	12	13	14	15			⑭	15	16	17	18	19	20		
	⑮	⑰	18	19	20	21	22	7/17～助産学実習Ⅱ		⑰	22	23	24	25	26	27		
	㉒	24	25	26	27	28	29			㉑	29	30	31					
	㉒	31																
8 月			1	2	3	4	5		H 30 ・ 2 月					1	2	3		
	⑥	7	8	9	10	⑪	(12)			④	5	6	7	8	9	10		
	⑬	(14)	(15)	(16)	17	18	19	夏季休業（8/12～16）		⑪	⑫	13	14	15	16	17		
	⑰	21	22	23	24	25	26			⑱	19	20	21	22	23	24		
	㉒	28	29	30	31					㉑	26	27	28					
9 月						1	2		H 30 ・ 3 月					1	2	3		
	③	4	5	6	7	8	9			④	5	6	7	8	9	10		
	⑩	11	12	13	14	15	16			⑪	12	13	14	15	16	17	3/17 学位記授与式（予定）	
	⑰	⑱	19	20	21	22	㉑			⑱	19	20	㉑	22	23	24		
	㉒	25	26	27	28	29	30			㉑	26	27	28	29	30	31		

 …授業日
  …定期試験
  …日曜・祝祭日（休業日）

助産学専攻科の修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科

基礎助産学	6単位	以上
助産診断・技術学	11単位	以上
助産学実習	12単位	以上
助産学実践関連	4単位	以上
計	33単位	以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルステ論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号(連番)
JSP=専門分野	1=1年次レベル	1=必修 2=選択必修	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
	+	+	+
			01~99

助産学専攻科 教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態Ⅰ	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態Ⅱ	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1 前期	1		15	必修11単位
	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	1		30	
地域母子保健論	地域母子保健論	JSP11105	1 前期	1		15	必修11単位
助産管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	
助産学実習	助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーフケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							33単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2017年度（平成29年度）のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。

- I. 基礎助産学
- II. 助産診断・技術学
- III. 地域母子保健論
- IV. 助産管理
- V. 助産学実習
- VI. 助産学実践関連

2. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	小神野雅子	講義	1年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について学習する。助産の変遷や国際比較、母子保健の動向や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養う。

到達目標

- 助産の意義と基本概念を述べる事が出来る。
- 助産の変遷を理解し、母子保健の動向や今日の助産師活動を説明できる。
- 助産師の責務や役割が理解できる。
- 助産師教育・助産師業務の変遷や国際比較を理解し、課題を述べる事が出来る。
- 助産師としての職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べる事ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第2回	助産の変遷② 助産の将来
第3回	助産師の専門性と責任
第4回	助産学を支える理論
第5回	助産師教育の変遷(日本および諸外国)
第6回	助産の国際比較(助産師教育と助産師業務)
第7回	女性の健康と人権
第8回	発展途上国の母子の健康と課題
第9回	助産師職能団体の活動(日本看護協会、日本助産師会、助産師国際連盟)
第10回	母子保健の動向と諸制度
第11回 AL	助産と生命倫理
第12回 AL	生殖医療と倫理について①
第13回 AL	生殖医療と倫理について②
第14回 AL	出生前診断・人工妊娠中絶と生命倫理
第15回	助産師を取り巻く医療課題と助産師活動

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 80% 成果物 20%
教科書	『助産学講座1 基礎助産学[1]「助産学概論」』我部山キヨ子、武谷雄二編（医学書院）
参考文献	なし
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んで参加する。(1時間)
事後学習(内容・時間)	講義内容を振り返る。(1時間)
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅰ	藤田圭以子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントする視点と正常な経過を促進するためのケアを行うための基礎知識を教授する。

到達目標

- 妊娠期の母体と胎児の生理的变化を理解することができる。
- 分娩の3要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的变化を理解できる。
- 産褥婦と新生児の生理的变化を理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の生理と病態①
第2回	妊娠期の生理と病態②
第3回	妊娠期の生理と病態③
第4回	妊娠期の生理と病態④
第5回	分娩期の生理と病態①
第6回	分娩期の生理と病態②
第7回	分娩期の生理と病態③
第8回	分娩期の生理と病態④
第9回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『最新産科学 正常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえる vol.10 産科（第3版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座3 基礎助産学[3]「母子の健康科学」』我部山キヨ子編（医学書院）
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	教科書の該当ページを読んでくること
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期の母体と胎児の異常な経過、分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症の概要、診断法、治療法について教授する。さらに、周産期において、年齢条件、基礎疾患、分娩時の状態からハイリスクにある女性と胎児、新生児に対して、生理的経過からの逸脱をアセスメントし、ケアを行うための基礎知識を教授する。

到達目標

- 妊娠期の異常とハイリスク妊娠について理解する。
- 分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応が理解できる。
- 産褥期ならびに新生児期に異常について理解することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の異常①
第2回	妊娠期の異常②
第3回	妊娠期の異常③
第4回	妊娠期の異常④
第5回	分娩期の異常①
第6回	分娩期の異常②
第7回	分娩期の異常③
第8回	分娩期の異常④
第9回	産褥期の異常①
第10回	産褥期の異常②
第11回	産褥期の異常③
第12回	産褥期の栄養①
第13回	産褥期の栄養②
第14回	ハイリスク新生児の病態①
第15回	ハイリスク新生児の病態②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『最新産科学 正常編』荒木勤（文光堂）、『病気がみえる vol.10 産科（第3版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA）、『助産学講座3 基礎助産学[3]「母子の健康科学」』我部山キヨ子編（医学書院）
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）
オフィスアワー	講義終了後30分
事前学習（内容・時間）	教科書の該当ページを読んでくること
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	生島 博之	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

女性を取り巻く心理社会状況について、科学的根拠を重視しながら以下の視点から解説する。

- ・女性のライフサイクルと心理社会的諸問題
- ・周産期にみられる心理社会的諸問題と科学的根拠のある援助技法

到達目標

- ・それぞれのライフステージで起こりやすいメンタルヘルスの諸問題を具体的に挙げ、効果的な援助技法を説明できる。
- ・周産期女性のメンタルヘルスを維持・増進させる客観的援助技法や家族・社会のあり方について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題① 思春期・青年期
第2回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題② 成人期
第3回	女性のライフサイクルと心理社会的諸問題③ 中年期・老年期
第4回	周産期にみられる心理社会的諸問題
第5回	愛着形成に寄与する問題と母親の役割
第6回	周産期うつのメカニズムと科学的根拠のある援助技法
第7回	周産期の女性を支える家族・社会のあり方について
第8回	育児期の子育て支援について

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	期末試験100%
教科書	『助産学講座4 基礎助産学[4]「母子の心理・社会学」』村瀬聡美他編（医学書院）
参考文献	特になし
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	教科書の次回テーマを読んでおくこと（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義内容の復習および自主的な発展学習（1時間）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅰ	小神野雅子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

助産診断、マタニティ診断について教授する。妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を学び、妊娠期の助産診断が出来る能力を養う。また、妊婦への身体的ケア、心理的ケアの具体的な方法を教授する。科目内での学びをもとに、妊娠期の事例を展開し、助産診断を行い助産計画を立案する。

到達目標

- 妊婦の身体・心理・社会的状態について診断し、必要な保健指導や援助の助産計画を立案できる。
- 妊婦と家族への支援内容や援助技術について理解する。
- 妊娠期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個性に応じた支援を考えることが出来る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産診断とマタニティ診断
第2回	妊娠期の助産診断
第3回	妊娠期の援助技術
第4回 AL	妊娠初期の助産診断
第5回 AL	妊娠初期の助産計画
第6回 AL	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回 AL	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ 成果物 30％
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）、『助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期』我部山キヨ子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第4版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）
参考文献	『今日の助産（第3版）』北川真理子編（南江堂）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習すること。（1時間）
備考	事例を用いて、妊娠期の助産過程を展開します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

正常分娩およびハイリスク分娩の生理とフィジカルアセスメントの視点を教授し、分娩期の助産診断ができる能力を養う。
また、妊婦およびその家族に対する身体的・心理的ケアの具体的な内容や方法を理解する。

到達目標

- 分娩各期の助産診断、助産計画が立案できる。
- 産婦と家族への支援内容や援助技術について理解する。
- 異常分娩の助産診断、助産計画の立案ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	分娩の生理と心理社会的変化
第2回	分娩期の助産診断
第3回	分娩介助と産婦の支援・フィジカルアセスメント
第4回 AL	正常分娩の助産診断①
第5回 AL	正常分娩の助産診断②
第6回 AL	分娩期の助産計画①
第7回 AL	分娩期の助産計画②
第8回	分娩期の異常と偶発疾患異常分娩の助産診断・助産計画
第9回	ハイリスク・異常分娩および産科的医療処置異常分娩の助産診断・助産計画
第10回 AL	異常分娩の助産診断・助産計画①
第11回 AL	異常分娩の助産診断・助産計画②
第12回 AL	異常分娩の助産診断・助産計画③
第13回 AL	異常分娩の助産診断・助産計画④
第14回 AL	異常分娩の助産診断・助産計画⑤
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ レポート課題 20％
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院） 『実践マタニティ診断（第4版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）
参考文献	『今日の助産（第3版）』北川真理子編（南江堂）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	該当する教科書の内容を読んでおくこと
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること
備考	事例を用いた助産過程の展開ならびに助産計画の立案を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11203

科目の概要

正常に経過している褥婦の身体的・心理社会的状態を診断し、セルフケア能力に応じた指導や支援に関する助産計画の立案について学ぶ。また、家族機能の変化を理解し、家庭や社会生活復帰への支援を学ぶ。さらに産褥期の異常や合併症について理解を深め、必要な援助について学習する。

到達目標

- 褥婦の身体・心理・社会的状態について診断し、褥婦のセルフケア能力に応じた指導や支援などの助産計画を立案できる。
- 家族機能の変化を理解し、家庭・社会生活復帰への支援を考えることができる。
- 産褥期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個別性に応じた支援を考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	産褥期の生理と心理社会的変化
第2回	セルフケア能力に応じた指導や支援(退行性変化促進支援、母乳育児支援等)
第3回	家庭・社会生活復帰への支援(育児指導、退院指導等)
第4回	産褥期の異常とその支援
第5回 AL	産褥期の助産診断①
第6回 AL	産褥期の助産診断②
第7回 AL	産褥期の助産計画①
第8回 AL	産褥期の助産計画②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）70％ レポート課題 30％
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院） 『実践マタニティ診断（第4版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）
参考文献	『よくわかる母乳育児』水野克己他（へるす出版）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
事後学習（内容・時間）	講義内容の復習をすること。
備考	事例を用いて助産過程の展開を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅳ	松田 佳子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の出生後の適応過程ならびに生理的変化とフィジカルアセスメントの視点を教授するとともに、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の立案を考える。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、かかり易い疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関するケアの具体的な内容や方法を教授する。

到達目標

- 新生児期の助産診断ができる能力を養い、専門家として養育者への支援を行う能力を養う。
- 母児一貫したケアの重要性を認識し、助産診断ができる。
- 新生児期の基本的な助産計画の立案ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新生児の生理学的適応過程
第2回	新生児のフィジカルアセスメント
第3回	出生時・出生後の早期新生児ケア
第4回	家庭生活へのフォローアップおよび乳幼児の健康診査
第5回 AL	新生児の助産診断①
第6回 AL	新生児の助産診断②
第7回 AL	新生児の助産診断③
第8回 AL	新生児の助産診断④

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100%
教科書	『助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期』横尾京子編（医学書院） 『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）
参考文献	『新生児・周産期 ナースの疾患別ケアハンドブック』戸刈 創（メディカ出版）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	該当する教科書の内容を読んでおくこと
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること
備考	事例を用いた助産過程の展開ならびに標準的な助産計画の立案を行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	演習	1年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践能力として、女性の性と生殖にかかわる健康問題をはじめ、周産期（妊娠期～産褥1か月）における妊産婦および胎児・新生児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や支援技術を教授する。

到達目標

- 妊婦健康診査に必要な診断技術を修得し、妊婦に必要な保健指導を実践する能力を養う。
- 安全、安楽な分娩介助技術を修得する。
- 新生児期、産褥期に必要な診断技術を修得し、母乳育児支援に必要な技術を学ぶ。
- 新生児蘇生法（Aコース）に必要な知識、技術を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊婦の健康診査と保健指導 ①
第2回 AL	妊婦の健康診査と保健指導 ②
第3回 AL	妊婦の健康診査と保健指導 ③
第4回	分娩介助技術 ①
第5回	分娩介助技術 ②
第6回 AL	妊婦の診断技術
第7回 AL	産婦の診断技術
第8回 AL	産褥の診断技術
第9回	新生児の診断技術
第10回	胎児の発育・健康状態のアセスメントに必要な超音波診断法
第11回 AL	産褥の援助技術
第12回 AL	分娩介助技術 ③
第13回 AL	分娩介助技術 ④
第14回	母乳育児支援 ①
第15回	母乳育児支援 ②
第16回 AL	分娩介助技術 ⑤
第17回 AL	分娩介助技術 ⑥
第18回 AL	フリースタイル分娩
第19回 AL	分娩介助技術 ⑦
第20回	分娩介助技術チェック
第21回	分娩介助技術チェック
第22回	分娩介助技術チェック
第23回	分娩介助技術チェック
第24回	分娩介助技術チェック
第25回 AL	母乳育児支援 ③
第26回 AL	母乳育児支援 ④
第27回	新生児蘇生法 ①
第28回	新生児蘇生法 ②
第29回	新生児蘇生法 ③
第30回	新生児蘇生法 ④

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	中間試験（実技）50％ 定期試験（実技）50％
教科書	『助産学講座6・7・8』（医学書院）、『母乳育児支援スタンダード（第2版）』NP0法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（医学書院）、『新生児蘇生法テキスト』細野茂春監修（メジカルビュー社）
参考文献	『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子（医学書院）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	看護教育で既習の基礎看護技術を復習すること。
事後学習（内容・時間）	診断技術、分娩介助技術などは繰り返し練習し、身につけること。
備考	退院指導、沐浴指導のロールプレイ、助産技術に関する技術テストを実施します。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康問題と援助の必要性について教授する。健康教育の在り方および必要性について解説し、実際に集団指導の計画から実施までを行う。また性と生殖にかかわる専門家として、家族計画を実践するために必要な知識と技術を教授する。

到達目標

- ライフサイクル各期における女性の健康問題と援助について理解できる。
- 健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
- 家族計画指導に必要な知識と技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第2回	両親学級について
第3回 AL	健康教育の企画 ①
第4回	女性の健康問題と援助＜思春期の健康問題＞
第5回 AL	健康教育の企画 ②
第6回 AL	健康教育の企画 ③
第7回	女性の健康問題と援助＜成熟期の健康問題＞
第8回	女性の健康問題と援助＜不妊と生殖補助医療＞
第9回	女性の健康問題と援助＜更年期、老年期の健康問題＞
第10回	家族計画指導について
第11回 AL	健康教育の企画 ④
第12回 AL	健康教育の実際 ①
第13回 AL	健康教育の実際 ②
第14回 AL	受胎調節に必要な基本的技術 ①
第15回 AL	受胎調節に必要な基本的技術 ②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 100%
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院） 『受胎調節指導用テキスト』北村邦夫監修（一般社団法人日本家族計画協会）
参考文献	適宜、提示する
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
事後学習（内容・時間）	保健指導案、媒体の作成。
備考	受胎調節、両親学級のロールプレイを行います。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	徳永 羊子	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11105

科目の概要

地域の中で母子が置かれている社会背景を理解し、また母子統計から水準や現状を読み解き、母子保健の課題を考える。母子保健活動の実際を知り、どのような制度があり、関わっている職種との連携のあり方を模索し、地域の中で助産師としての役割を考える。

到達目標

- 地域で生活する母子の状況を理解し、課題が分かる。
- 母子に関する法律や制度を理解する。
- 医療の場・行政の場等で活躍する助産師の役割を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域母子保健の意義
第2回	母子保健の現状と動向
第3回	地域母子保健行政の体系
第4回	地域母子保健活動の展開①
第5回	地域母子保健活動の展開②
第6回	地域母子保健活動の展開③
第7回	国際母子保健①
第8回	国際母子保健②

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	レポート課題 80% 小テスト 20%
教科書	『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健』我部山キヨ子編（医学書院）
参考文献	『国民衛生の動向 2016/2017』厚生労働統計協会（厚生労働統計協会）
オフィスアワー	授業の前後
事前学習（内容・時間）	『国民衛生の動向』の母子保健を読んでおく
事後学習（内容・時間）	講義資料を復習
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	小神野雅子	講義	1年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識及び、産科病棟・院内助産システム・助産院など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを学習する。

到達目標

- 助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を学ぶ。
- 助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力を養う。
- 開業助産院や院内助産の開業と運営方法について理解し、周産期の医療連携の観点から助産師の役割について学ぶ。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス 看護管理・助産管理の基本 助産管理の概念
第2回	助産と医療経済 助産業務と関連法規 助産師の法的責任と義務
第3回	周産期の医療事故とリスクマネジメント①
第4回 AL	周産期の医療事故とリスクマネジメント②
第5回	病院における助産業務管理過程 助産業務管理方法
第6回	病院における助産業務管理
第7回	周産期管理システム （新生児集中治療室）
第8回	周産期管理システム （母体搬送システム オープンシステム）
第9回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理 助産師活動
第11回	助産師として考える倫理
第12回	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産院における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）100％
教科書	『助産学講座10 助産管理』我部山キヨ子編（医学書院）
参考文献	『助産師業務要覧』福井トシ子（日本看護協会出版会）
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと。
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習すること。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習 I	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実践を見学し、施設における助産管理の実践や助産業務の範囲について理解を促す。

到達目標

- 妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- 妊娠各期における必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- 病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実践や助産業務管理について理解する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習 I 実習(2週間) 平成29年7月3日(月)～平成29年7月14日(金) 平成29年7月10日(月)～平成29年7月21日(金) 平成29年7月24日(月)～平成29年8月4日(金) 平成29年8月7日(月)～平成29年8月18日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立川西病院 関西労災病院 協立第二病院 サンタクルス ザ タカラヅカ 六甲アイランド甲南病院 プリマ助産院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	事前オリエンテーション時に提示する。
事後学習(内容・時間)	
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期、産褥期、新生児期にある母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行う。分娩直接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得する。

到達目標

- 分娩期、産褥期、新生児期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
- 産婦、褥婦、新生児への身体的援助及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。
- 受け持ち対象者と家族に必要な保健指導が実施できる。
- 正常な経過をたどる産婦、褥婦、新生児に対して必要な援助（分娩介助を含む）を実施できる。
- 産婦および褥婦、新生児の人権を尊重し擁護できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ(16週間) 平成29年7月24日(月)～平成29年12月22日(金)の内の16週間 ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立川西病院 関西労災病院 協立第二病院 サンタクルス ザ タカラヅカ 六甲アイランド甲南病院 登村レディースクリニック 富雄産婦人科 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時に提示する。
事後学習(内容・時間)	実習期間内に各自に個別に提示する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1名の対象者を妊娠中期から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産褥1か月健診等を通して、アセスメント能力を養うと共に、対象者の個別性を考慮した継続的な支援を行う能力を養う。

到達目標

- 妊娠期から産褥・新生児期（乳児期）までを継続して受け持ち、退院後の生活を考慮しながら家族を含めた助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を習得する。
- 継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を理解する。
- 継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、職業アイデンティティを形成する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間:下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ(8週間) 平成29年7月10日(月)～平成29年9月1日(金) 平成29年7月24日(月)～平成29年9月15日(金) 平成29年8月7日(月)～平成29年9月29日(金) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 市立川西病院 関西労災病院 協立第二病院 サンタクルス ザ タカラヅカ 六甲アイランド甲南病院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	実習オリエンテーション時に提示する。
事後学習(内容・時間)	実習期間内に個別に提示する。
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	小神野雅子 松田 佳子 中尾 幹子	実習	1年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を経験する。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎的な能力を養う。

到達目標

- 大阪市の各地域における母子保健上の課題について、情報収集を行い考察する。
- 各地域における、母子保健上のニーズを明らかにするための情報収集を行い考察する。
- 助産院における助産師活動の実際を学び、地域における助産師の役割について考察する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL	○実習期間 地域母子保健実習(5日間) 1. 大阪市内の保健センターでの実習(3日間) 2. 助産所での実習(2日間) ○実習施設:下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 大阪市内保健センター 2. プリマ助産院 その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」による。

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	別途配布する「平成29年度 助産学実習 実習要項」に記載する。
教科書	実習開始時に提示する。
参考文献	実習開始時に提示する。
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	実習先の地域について情報収集をして、実習の臨むこと。
事後学習(内容・時間)	課題レポート
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	松田 佳子	講義	1年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産学における研究の意義や重要性を認識し、研究に取り組む姿勢を養うことができる。また研究的視点に立ち、エビデンスに基づくケアの利益について、父親・母親・新生児を含めた家族や助産師、そして社会の観点から研究計画を立案し、論文を作成することで助産の実践に必要な援助の方法を探索することができる。

到達目標

- 研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させ、研究活動が展開できる。
- 事例研究として対象に実施した助産ケアを振り返り、エビデンスに基づくケアの利益について分析・考察できる。
- 事例研究の成果を発表し、活発的な質疑応答を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション:助産学研究とは
第2回	研究のアプローチ:質的研究・量的研究・事例研究
第3回	倫理的配慮、文献検索
第4回	文献クリティーク
第5回 AL	文献クリティーク(グループディスカッション)
第6回 AL	文献検索
第7回 AL	研究計画書の立案
第8回 AL	研究計画書の提出
第9回 AL	事例研究・個別指導
第10回 AL	事例研究・個別指導
第11回 AL	事例研究・個別指導
第12回 AL	事例研究・個別指導
第13回 AL	研究発表
第14回 AL	研究発表
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	成果物 100%
教科書	なし
参考文献	必要時資料を配布
オフィスアワー	随時
事前学習(内容・時間)	基礎教育での学びを復習し講義に臨むこと
事後学習(内容・時間)	各自、講義内容を復習すること
備考	計画性を持ち、指導教員と密な連絡を取りながら、主体的に論文作成に臨むこと。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	講義	1年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV/AIDSといった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

- 差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って理解することを目指す。
- 実証研究によって示されるエビデンスに加えて、アクションリサーチなどの介入研究によって示される知見を通じて、理解を深める。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL	イントロダクション
第2回 AL	都市部の若者における薬物使用の現状
第3回 AL	わが国の性教育の変遷と都市部におけるHIV感染リスク行動の現状
第4回 AL	性的指向・性自認・性別表現と健康課題
第5回 AL	虐待・性暴力被害の現状と支援①
第6回 AL	虐待・性暴力被害の現状と支援②
第7回 AL	格差・不平等・健康課題
第8回 AL	講義のまとめと振り返り

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）100%
教科書	適宜配付資料を用意します。
参考文献	適宜紹介します。
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30
事前学習（内容・時間）	第1回イントロダクションおよび講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（30分）。
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（30分）。
備考	講義中の私語・携帯電話の使用等は厳禁とします。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	坂下 裕子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

周産期は、妊娠の喜びと出産・育児への期待に満ち溢れるさなかで、深刻な告知がなされたり、思いがけない別れが訪れたりする時期でもある。そのとき、母親のやり場のないグリーフにどう寄り添うことができるか。母親や家族へのグリーフケアのあり方を、解説と議論を通して考える。さらに母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについても検討する。

到達目標

- 母親のさまざまな思いを受けとめるために必要な知識を習得する。
- 母親の心の揺れに寄り添うために必要な技術を習得する。
- 答えを導き出すことが難しい問いに対し、熟考し、独自の言葉で表現する感性を養う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	グリーフとは グリーフケアとは（死別以外のグリーフを含む）
第2回	グリーフケアにおける日本語のはたらき（言葉が及ぼす影響について）
第3回 AL	グリーフケアにおける非言語コミュニケーション（言葉以外の対話の要素）
第4回 AL	グリーフケアの基本「きく」ということ（5つのきき方を基に）
第5回	周産期のグリーフとグリーフケア（その特徴）
第6回 AL	遺族の手記『天国のお友だち』の登場人物への洞察
第7回 AL	周産期の死別体験者の「語り」の解釈（インタビュー録をもとに）
第8回	子どもの遺族が描き出したグリーフプロセス（グリーフを図式化する）
第9回 AL	医療者自身のグリーフ体験と向き合う（セルフケアの必要性）
第10回 AL	産科における非言語的ケア（お母さんと縫うための産着制作）
第11回	ピアサポートの成り立ちと有効性
第12回	産科における死別体験者の「わかちあい」の実践
第13回 AL	産科における死別体験者との意見交換
第14回 AL	グリーフワークの推察（「ともに生きるりんごの木」制作）
第15回 AL	総括 グリーフケアできることと今後の課題

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（レポート）70％ 成果物 30％
教科書	『天国のお友だち』坂下ひろこ（コモンズ）
参考文献	『NICUとこころのケア 家族のこころによりそって』橋本洋子（メディカ出版）
オフィスアワー	授業終了後30分
事前学習（内容・時間）	教科書1章から4章のグリーフケアに相当する箇所を特定し、要点をまとめておくこと。（1時間）
事後学習（内容・時間）	講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること。（30分）
備考	

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	小神野雅子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から子育て初期段階の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識と共にカウンセリングの基礎も学び、実践的な技能を習得する。科目終了時には、アタッチメントヨガforマタニティ&ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキル、技能を習得し、資格を取得することが可能となる。

到達目標

- アタッチメントヨガに必要な発達心理学、カウンセリングの基礎知識を修得する。
- アタッチメントヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント理論
第3回	マタニティ アタッチメント
第4回	ベビー アタッチメント
第5回	アタッチメントヨガ 理論
第6回 AL	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ
第7回 AL	アタッチメントヨガ 実技 マタニティ
第8回	カウンセリング & 対人援助
第9回 AL	アタッチメントヨガ 実技 ベビー
第10回 AL	アタッチメントヨガ 実技 ベビー
第11回	教室運営
第12回	ヨガ 概論
第13回 AL	企画作りワーク
第14回 AL	インストラクション演習
第15回	まとめと振り返り

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（実技）50％ 定期試験（筆記）50％
教科書	『アタッチメント・ヨガテキスト』『アタッチメント・ヨガ概論』アタッチメント育児協会
参考文献	なし
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	
事後学習（内容・時間）	講義内容の復習、事後レポートの提出あり
備考	実技テスト、記述テストに合格したものは日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ベビーマッサージ	松田 佳子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

ベビーマッサージは「触れる」という行為により、母親と子どもの非言語的コミュニケーションツールとなる。ベビーマッサージを受けることにより、子どもの感情がなだめる、また母親の不安を取り除くなどの効用があり、母子関係の形成に相互的に役立つ。育児支援の場で役に立つ知識、スキル、技能を習得するとともに、ベビーマッサージの意義、効用、基本的な手技について学び、必要な単位修得後インストラクターの資格を取得する。

到達目標

- アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。
- 発達心理学について知識を深め、根拠に基づいたベビーマッサージの理論を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント育児Ⅰ
第3回	アタッチメント育児Ⅱ
第4回	育児に役立つ発達心理学Ⅰ
第5回	育児に役立つ発達心理学Ⅱ
第6回 AL	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第7回	自己心理学
第8回 AL	コフートワーク 振り返りとワークの意義
第9回 AL	育児現場における自己対象体験カウンセリング
第10回	ベビーマッサージ理論
第11回 AL	アタッチメントベビーマッサージ インストラクションⅠ
第12回 AL	アタッチメントベビーマッサージ インストラクションⅡ
第13回 AL	インストラクション演習
第14回 AL	インストラクション演習
第15回	まとめ

ALはアクティブラーニングの略

成績評価方法	定期試験（筆記）80％ 定期試験（実技）20％
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサージ」テキスト
参考文献	なし
オフィスアワー	随時
事前学習（内容・時間）	
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習のこと、事後レポートの提出有
備考	講義終了後、実技テスト、記述テストに合格したのち、日本アタッチメント育児協会の認定資格が申請できます。

2017年度 シラバス（授業計画）

編集・発行 宝塚大学 大阪梅田キャンパス
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL 06-6376-0853
FAX 06-6373-4829
発行日 2017年（平成29年）4月1日